生活文化の聞き取り調査、及び、仰木ふるさとカルタ制作　前編

永江　弘之

生活文化の聞き取り調査、及び、仰木ふるさとカルタ制作　前編

永江　弘之

Title :

An Interview-Based Fact-Finding Survey of the Life and Culture of Ogi and the Making of karuta (picture cards for a traditional Japanese game) Featuring the Omi Countryside: Part One

Summary :

The ogi area, Otsu city, Shiga pref . is an agricultural community which is surrounded by rich village mountains and has history more than one thousand years. We surveyed the living culture survives in memories by hearing people from 60s to 90s, and created a set of card game named “Ogi Furusato Karuta” (Ogi country card). In this paper I report the results of the first half of our project, “the survey of living culture by hearings”.

第一章　はじめに

人と自然が共生できる持続可能でエコロジカルな環境として関心が高まっている「里山」。そこには長い年月の中で育まれた、豊かな知恵と、優れた技術に支えられた、人と人、人と自然、人と地域の血の通ったつながりがある。

本研究のフィールド、滋賀県大津市仰木は、西は比叡山系を背に、東は琵琶湖を見下ろす山麓に位置し、上仰木、辻ヶ下、平尾、下仰木の四つの字からなる大きな農村集落である。集落を階段状の棚田が取り巻き、背後に雑木林や山林が続く里山は、日本の原風景とも呼べる景観を今も残している（図1）。平安期から「仰木庄」として知られ、延長五年（九二七）氏神の小椋神社が『延喜式』の式内社に選ばれており、千年以上の歴史がある集落である。

仰木地域は、固有の豊かな文化資源を脈々と今に伝えている。棚田・里山をはじめ、歴史、伝承、祭り、信仰、交流、生活様式、民俗、風習、道具、自然といったものが融合して、「仰木の暮らし」をかたちづくっている。一方で、圃場整備や開発によって里山の姿は大きく変わりつつあり、高齢化などの現代的

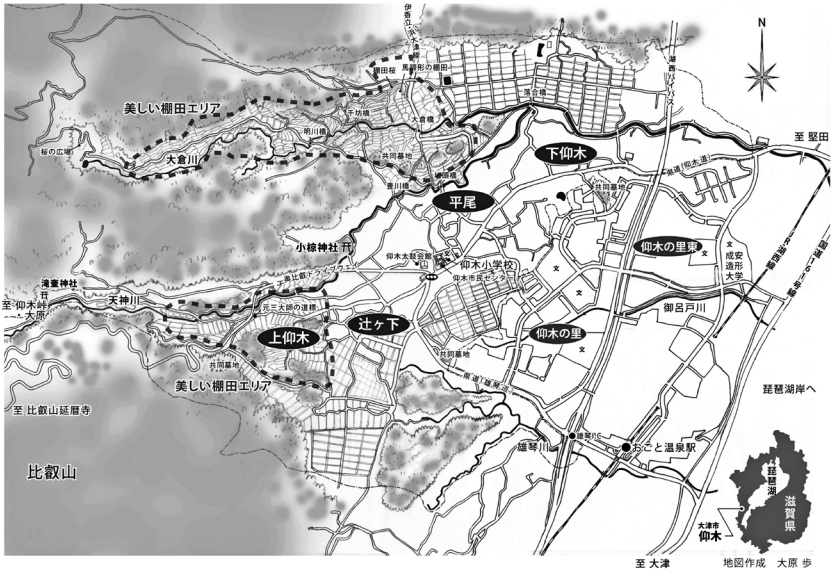


図１：仰木全体地図

滋賀県大津市仰木：大津市北部、比叡山から琵琶湖の西岸へと伸びる雄大な山麓の中間に位置する仰木は、階段状の棚田が取り巻く、世帯数801戸、人口2335人（平成25年４月１日現在）、四つの字（上仰木・辻ケ下・平尾・下仲木）から成る農村集落。仰木の集落形成の歴史は1150年前に遡ると言われ、大津と北陸を結ぶ西近江路（国道161号線）から西へ分岐し、若狭街道、いわゆる鯖街道へと抜ける間道「仰木道」の途中に発達した。集落には、小椋（おぐら）神社を筆頭とする多数の社寺、無数の地蔵や祠、共同墓地が点在し、東塔、西塔と並ぶ比叡山三塔のひとつ、横川（よかわ）への登り口に当たる。

写真2：自然の地形をいかした棚田で農作業

写真１：仰木祭の神輿が小椋神社を出発

課題の深刻化とともに仰木も今、急激な変化の中にあることは否めない。

それでも現在の仰木にはなお、圃場整備されていない自然の地形を利用した棚田をはじめとする豊かな里山の自然、古式にそった伝統ある仰木祭（泥田祭）、山林の保全活動として全戸から一名は参加する「山行き」をはじめ暮らしの中に息づく人と人とのつながりである「結」など、かつての日本の里山に息づいていた心惹かれる魅力がたくさん詰まっている。そこには、効率化を優先した現代の都市型社会において失われつつある価値観が生きている。

写真３：集落や棚田にはたくさんのお地蔵様

写真４：仰木の牛。かつてはどこの家でも飼っていたが今は２軒だけ

第二章　調査・研究の目的

本研究では、高度経済成長で「物質的豊かさ」と引き替えに切り捨ててきたさまざまな素材や道具、生活思想、自然観などに目を向け、住民聞き取り調査等を通して人々や集落の記憶・思い出の中に息づく「今は見ることのできない情景」「現代に名残をとどめる情景」「暮らし（生活文化）のかたち」を掘り起こし、仰木固有の風土や文化、暮らしの情景を浮き彫りにして記録すること。および、それらの内にひそむ美しさ、かけがえのなさ、心の豊かさを再発見し、未来につないでいくためのツールとして、記録した言葉や情報をビジュアル化して、世代や地域を超えて多くの人が共有できる「ふるさとカルタ」を制作することを目的とした。

本研究には、大原歩氏、加藤賢治氏と私の三名の研究員に加え、成安造形大学学生十二名が研究スタッフとして参画し、一貫して活動した。成果物もさることながら、学生たちが地域と深く関わり、聞き取り調査からカルタ制作までをチームとして担うという形の研究手法の確立を重要視し、本研究における教育効果に期待した。

また、思い出の聞き取りをベースとした手法は、近年、高齢者の認知症の予防として取り組みや研究が広がっている「回想法」と密接に関連している。心理療法のみならず、世代間交流や地域活動などの活性化の効果が指摘されており、ご高齢の方

が元気に活動的になられるだけではなく、話をする若者の活力や成長にも大きな効果が見られるとのこと。人生経験豊かなおじいちゃん、おばあちゃんと話すことは、本などからの知識よりずっとリアルで心に響くのかもしれない。そうした意味でも、「ふるさとカルタ」の取り組みが、「過去と現代と未来をつなげる」「世代をつなげる」「地域をつなげる」「いのちをつなげる」、そうした総合的な地域発展につながっていけばと思う。

なお本研究は、成安造形大学附属近江学研究所で平成二二年度（二〇一〇）から三カ年計画で取り組んだ近江学研究「里山～水と暮らし」の第二期「生活文化の聞き取り調査、及び、仰木ふるさとカルタ制作」として、平成二三年度（二〇一一）、二四年度（二〇一二）に仰木地区で実施した調査・研究活動である。本稿では、その前半部分である「生活文化の聞き取り調査」の成果を報告する。

第三章　仰木における生活文化の聞き取り調査（カルタ読み札を決めるための聞き取り調査まで）――

三-一　概要

平成二三年（二〇一一）四月に学生向けの説明会を実施し、イラストレーションと住環境デザインをそれぞれ学ぶ一年生から三年生の学生が研究に参加することになった。まず、五月三日の仰木祭（泥田祭）の見学や、仰木が主な舞台となっているＮＨＫスペシャル 映像詩 里山「覚えていますか ふるさとの風景」〔註1〕の鑑賞などを通して、仰木を知り、仰木を体験し、仰木に親しむことからスタートした。

五月から仰木学区老人クラブ連合会（以下、老人クラブ）にご協力を依頼し打合せを始めたが、「田植えが終わるまでは忙しい」とのこと。聞き取り調査を開始したのは六月だった。老人クラブの方々にご協力をいただいて、仰木の人々の思い出を浮き彫りにする住民聞き取り調査を次のようなステップで進めた。

1. 仰木ふるさと五感体験アンケート〔註2〕の実施。
2. アンケートの集計。
3. アンケートの記述内容の検証と、仰木ふるさとマンダラの作成。
4. カルタ読み札を決めるための住民聞き取り調査。

三-二-一　仰木ふるさと五感体験アンケート

本研究をひとことで言い表すとすれば、「思い出を形にする」ということになろうかと思う。さて「思い出」は人間のどこにしまわれているのだろう。まず思い浮かぶのは「頭（脳）」であるが、昔のことがありありとよみがえってくるとき、それは心の内から湧き出して、身体の中に満ちるように当時の感覚が再現され追体験するということが往々にしてある。「今でも目に浮かぶ風景」「耳に残る音」「なつかしい匂い」「手足によみ

がえる感触」「忘れられない味」など、思い出や記憶とは単に頭で覚えている出来事ではなく、身体のいろいろなところにしみ込んでいて「体験をした『その時』」を生き生きと再現してくれるもののように思う。五感に残る感覚記憶が思い出に生彩を与える。こうした身体感覚（実感）をベースとした「あふれ出す想い」や「つながる想い」が、本研究の重要な要素になっていく。

「ふるさと五感体験アンケート」では当時の五感体験、身体感覚を思い出して書き出していただいた。アンケート項目の「記入例」は、老人クラブの役員の方々への先行アンケートより抜粋した。

平成二三年六月に老人クラブの役員会にて、上仰木、辻ヶ下、平尾、下仰木の四地区へのアンケート配布を依頼。配布依頼枚数は四〇〇枚。十日間で一八五枚のアンケートを回収。六〇歳代から九〇歳代の方々の思い出が多数集まった。それらは個人の思い出であると同時に、仰木集落の記憶、土地の記憶と呼べるような言葉の数々である。最高齢は九九歳の男性だった。

以下に、ふるさと五感体験アンケートの質問項目と記入例を掲載する。

■ふるさと五感体験アンケートの質問項目と記入例

年齢　性別　地区（上仰木　辻ヶ下　平尾　下仰木）

支障がなければ、ご住所とお名前をお聞かせください。

1．今も目に浮かぶ、当地のなつかしい風景、景色、建物や風物がありましたら、いくつでもかまいませんので、思い浮かぶだけご記入ください。

（例）・昔は麦わら葺きの屋根ばっかりやった。瓦屋根はなかった。

2．耳に残る音、なつかしい音、当地で聞こえた印象深い音がありましたらお答えください。いくつでも結構です。どんな些細な音でもかまいません。

（例）・夜でも水車のゴトンゴトンという音が聞こえとった。

・冬の夜、わら打ちの音がどの家からも聞こえとった。

3．なつかしい匂い、当地ならではの、またはその頃ならではの匂いだと思われるものをご記入ください。

（例）・家の中に入ったら、どの家でも牛のにおいがした。

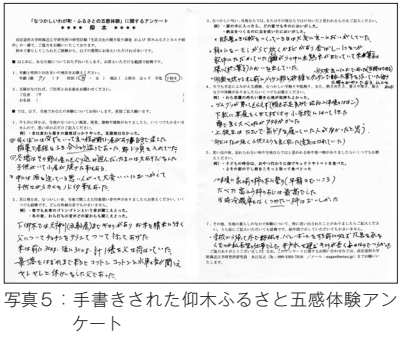

「なつかしいのが！ふるさとの五感体験」に関するアンケート

写真５：手書きされた仰木ふるさと五感体験アンケート

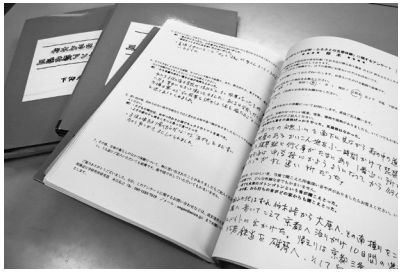


写真６：仰木ふるさと五感体験アンケートを地区ごとにまとめたファイル

・納豆をつくるのに豆を炊いたにおいがした。

4. 今でも手足によみがえる感触、なつかしい手触りや肌触り、また、熱さ冷たさ、暑さや寒さなどの体験がありましたらいくつでもお教えください。

（例）・わら草履の冷たい履き心地が気持ちよかった。

5. 思い出の味、忘れられない味や当地ならではと思われる味や食べ物がありましたらいくつでもお教えください。

（例）・子どもの時分は、おやつ代わりに畑でキュウリやトマトを食べた。

・よその家の干し柿をこそっと取って食べとった。

6. その他、当地の暮らしのなかで体験について、特に思い出されたことがありましたらご記入ください。絵や図で示していただいてもかまいません。

三―三　ふるさと五感体験アンケートの集計

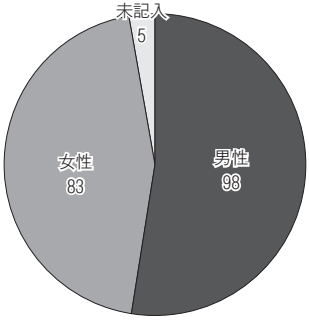
回収したアンケートは一八五枚。細かい字で裏面までびっしりと書き込まれたものや、挿絵付きで説明してあるものなど、熱意にあふれたものがたくさんあった。

老人クラブの構成メンバーは六〇歳以上なので、五〇代の方はご家族が書かれたのかもしれない。また、地域別以外は合計すると一八六になるが、これは上仰木地区の一枚にご夫婦二名の記名があったため。

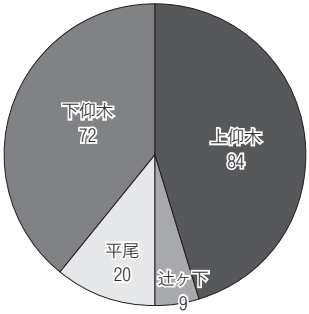
アンケートの読み込み、集計の過程で、全てのアンケートの

表１　仰木ふるさと五感体験アンケート集計

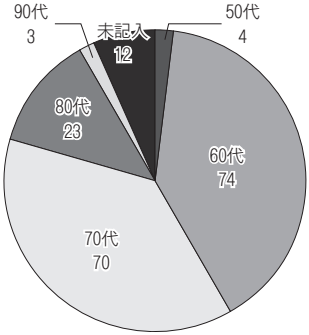
①男女別



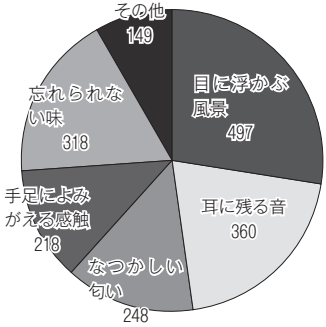
②地域別



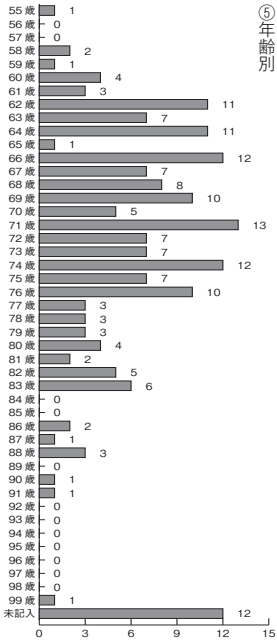
③年代別



④質問別（五感別）の記述項目数



⑤年齢別



記述内容をテキスト化した。その際、内容（エピソード）によって項目を分けて整理すると、その数は約一、八〇〇項目におよんだ。それぞれの質問別（五感別）の記述項目数は、表1の④を参照いただきたい。

一連の記述をその内容のまとまりでいくつかの別項目に分けることについては、テキスト入力を担当した研究スタッフが判断した。言葉遣いなどは原文のままテキスト化するよう心がけた。しかし、手書き文字が読み取りにくい部分や誤字と思われる箇所は、研究スタッフが解釈して修正を加えた。また、意味が読み取りにくい箇所で、置き換える文言の判断がつかない場合は、そのままの字面を入力した。

これらを、A4サイズ五二ページの仮の冊子にまとめた。

三-四　アンケート記述内容の検証と、仰木ふるさとマンダラ

「仰木ふるさとマンダラ」とは、「ふるさと五感体験アンケート」に書かれたさまざまなコメント（五感の思い出）から共通のキーワードを読み取って分類しグループ化したもので、仰木の生活文化を概観することができる言葉の地図のようなものを作成するアプローチである。「仰木ふるさとマンダラ」を作成することで、個人個人の記憶の断片から仰木共通の要素と関係性が図解として読み取れるようになる。その結果、仰木集落の記憶、土地の記憶と呼べるような「仰木の生活文化の構造」が見えてくる。

「ふるさとマンダラ」づくりの第一段階は、約一、八〇〇項目のコメントを生活文化に即した普遍性のあるカテゴリー（同じような性質のものが含まれる範囲）に分類すること。コメントを印刷した約一、八〇〇の細い短冊をつくり、一枚一枚読んで、以下の十二のカテゴリーに分類していった。

■カテゴリー

1. 衣　2. 食
3. 住　4. 冠婚葬祭
5. 結・村組織・コミュニティー　6. 遊び
7. 学校生活　8. 生き物
9. 風景　10. 田畑仕事
11. 山仕事　12. その他

いずれのカテゴリーに分類するかは研究スタッフの判断によるが、実際には複数のカテゴリーの要素を含む項目も多数あり、いずれかに振り分けている。

表２「カテゴリー別の項目数」のように約一、八〇〇項目のコメントが分類された。「食」が際立って多く、「住」「生き物」「田畑仕事」「風景」「衣」「結・村組織・コミュニティー」という順になっている。

第二段階は、各カテゴリーに分類した項目それぞれのコメント内容から共通のキーワードを探って、グループ化していく作業。例えば「玄関入ったらモーと牛があいさつをする。（七四歳・下仰木・女性）」というコメントから「牛」「鳴き声」といったキーワードを読み取り、その共通のキーワードを含むコメント項目をグループ化して模造紙に貼り付けていく作業である。そうしてできた集合を囲んでキーワードを書き込み整理していくと、カテゴリーごとに模造紙サイズの「仰木ふるさとマンダラ」のベースができあがってくる。「食」などは模造紙一枚に収まらず、五枚に渡った。

こうして図解として整理していくと、「仰木の暮らしの中でいかに多くの物象や事象が共通の思い出として深くつながっているか」が見えてくる。

読み取ったキーワードの例として、カテゴリー「生き物」のキーワードとその項目数のグラフを以下に示す。（表３）

表２　カテゴリー別の項目数

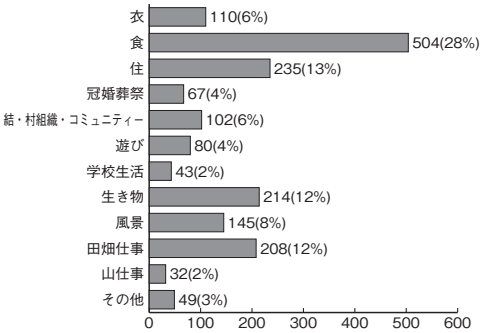


表３　カテゴリー「生き物」のキーワードと項目数

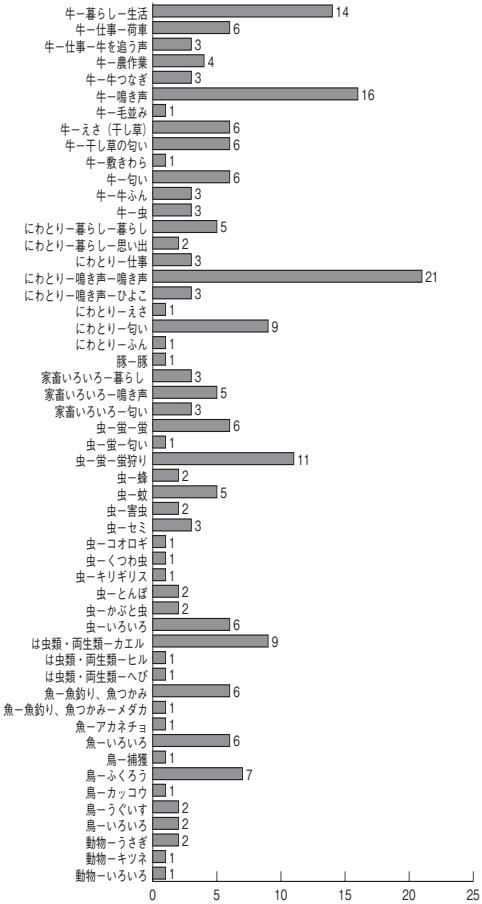


表４「五感体験アンケートからのキーワード一覧」をご参照いただきたい。前述の「生き物」と同様に、カテゴリー別のキーワードとそのキーワードに含まれるコメント項目数の一覧である。このキーワードの種類とそれに含まれるコメント項目数が、仰木の生活文化の太い幹と大きく広がる枝葉のようなものを象徴しているように思える。

例えば「牛」に注目してみよう。仰木の田んぼの土は粘りが強く、力の強い牛は農作業に欠かせぬ存在だった。かつては全ての家で牛を飼っていて、同じ屋根の下で土間を挟んで厩があり家族のように暮らしていたという。「生き物」のカテゴリーで「牛」のキーワードには七二項目分類されている。「住」や「田畑仕事」などのカテゴリーにも「牛」はたくさん登場し、全項目を「牛」で検索すると一三〇項目ほどになる。

農業で生計を立ててきた村なので、「米」もしくは「稲」を含む項目は一〇〇項目ほど。「田」を含む項目は一七〇項目ほどある。「麦」も意外と多く約六〇項目。食べ物としてだけではなく「昔は麦わら葺き屋根ばかりだった」という記述がたくさん見られる。重複するが、「わら（ワラ、藁）」は約一三〇項目。「わら草履」「ムシロを織るためのわら打ち」「牛のえさ」などの記述が見られる。「水」を含む項目は一六〇項目ほどで「水車」や「行水」など幅広い。「火」は約六〇項目。「柿」は一一〇項目。かつて仰木の柿は有名で各家庭で干し柿をつくって出荷し

表４　五感体験アンケートからのキーワード一覧

カテゴリー：衣			
キーワード１	キーワード２	キーワード３	項目数
手織り		綿	1
手織り		綿づくり	2
手織り		綿くり	6
手織り		綿打ち	1
手織り		糸くり	2
手織り		機織り	12
手織り		綿入れ、ドンサ、デンチ	10
手織り		麻	3
履き物		わら草履	14
履き物		竹の皮草履	9
履き物		草履いろいろ	9
履き物		下駄	6
履き物		たび	3
履き物		下駄・たび	2
履き物		ゴム靴	3
履き物		なめし靴	1
履き物		靴いろいろ	3
洗濯		洗濯のり	4
洗濯		洗濯	4
		わら	6
		手袋	1
		帽子	1
		編み物	1
		堅田の呉服屋	1
		出張販売	1
		農作業の着物	1
		着物について	3

カテゴリー：　食			
キーワード１	キーワード２	キーワード３	項目数
米		ぬかがま	2
米		ボン菓子	1
米		赤飯	2
米		おくどさんとお米	13
米		残り飯の食べ方	6
米		ほうしん	3
米		お供えもの	1
米		おこわ	1
米		ハチの子ごはん	3
米		カレーライス	1
米		すしめし	1
米		鮒ずし	7
米		サバずし	1
麦		ガム	4
麦		もし	8
麦		むしパン	2
麦		アメ	2
麦		ドーナツ	3
麦		うどん	3
麦		はったい粉	5
麦		粉くい葉	3
芋		山芋	1
芋		じゃが芋	2
芋		芋あめ	1
芋		里芋	1
芋		さつま芋	4
芋		さつま芋　干す	2
芋		さつま芋　生で	3
芋		さつま芋　葉	1

とって食べた	家の周り	家の周りでいろいろ	14
とって食べた	家の周り	カボチャ	1
とって食べた	家の周り	青梅	4
とって食べた	家の周り	サクランボ	1
とって食べた	家の周り	びわ	5
とって食べた	家の周り	ナシメ	1
とって食べた	家の周り	栗	1
とって食べた	家の周り	にっき	2
おやつ		おやつ　いろいろ	11
おやつ		丁稚ようかん	1
おやつ		寒天	1
おやつ		梅チョコ	1
おやつ		アイスキャンディー	14
おやつ		思い出	2
漬け物		漬け物のにおい	4
漬け物		ぬか漬け	5
漬け物		浅漬け	1
漬け物		あたか菜	1
漬け物		柴漬け	1
漬け物		梅干し	1
漬け物		四季いろいろ	2
にわとり		にわとり	1
にわとり		卵油	1
飲み物		ニッキ水	1
飲み物		サラリン？	1
お茶		お茶	3
お茶		お茶の葉	1
お茶		茶摘み	3
お茶		お茶　蒸す	1
お茶		お茶　もみ	1
お茶		お茶　煎じる	3
お茶		お茶　沸かす	1
水と氷		井戸水	2
水と氷		つらら	2
酒		酒造り	1
酒		甘酒	4
酒		カス汁	1
いろいろ		薬草採取	2
いろいろ		ゴマ	1
いろいろ		とうもろこし	3
いろいろ		ネギ	1
いろいろ		大根	1
		朝食	1
		昼食	2
		お弁当	1
		みそたま	1
		食の思い出	3
		牛になる	1

カテゴリー：　住			
キーワード１	キーワード２	キーワード３	項目数
水		井戸	15
水		井戸とつるべ	19
水		風呂	9
水		行水	10
水		水車	12
水		洗い物（洗濯、野菜）	6
火		おくどさん	21
火		かまど	5
火		焚き火・煙	14
火		いろり	2
火		火鉢	2
火		こたつ	7
芋		さつま芋　蒸す	3
芋		さつま芋　焼く	9
豆		味噌豆	3
豆		味噌汁	2
豆		味噌づくり	3
豆		醤油	3
豆		味噌・納豆・醤油	6
豆		豆料理（煮物）	3
豆		そら豆	10
豆		豆だんご（エンドウ豆）	6
豆		田植えで食べる豆だんご	10
豆		炒り豆	2
豆		豆を粉にする	5
豆		きな粉	3
豆		納豆	12
豆		豆いろいろ	3
餅		餅つき	10
餅		かき餅	19
餅		かき餅の思い出	6
餅		よもぎ餅	1
餅		小米餅	2
餅		納豆餅	13
餅		納豆餅の歌	2
餅		餅いろいろ	2
餅		おはぎ	1
柿		干し柿（つるし柿）	25
柿		干し柿　出荷	7
柿		半熟	1
柿		柿こね	10
柿		渋柿の皮	11
柿		冬柿	2
柿		さわし	2
柿		ずくし（熟し）	14
柿		甘柿	4
魚介類		うなぎ・なまず	1
魚介類		川魚	3
魚介類		しじみ	1
魚介類		塩こぶ	1
魚介類		魚肉ソーセージ	1
魚介類		とろろこんぶ	1
魚介類		堅田の魚	1
魚介類		焼き魚	3
魚介類		スルメ	1
とって食べた	田畑	野菜などいろいろ	11
とって食べた	田畑	なす	2
とって食べた	田畑	うり	1
とって食べた	田畑	いちじく	1
とって食べた	田畑	スイカ	7
とって食べた	田畑	とって食べても	1
とって食べた	野山	野山でいろいろ	12
とって食べた	野山	松茸	3
とって食べた	野山	椎の実	3
とって食べた	野山	テンポナシ	1
とって食べた	野山	セリ	1
とって食べた	野山	野いちご、木いちご	6
とって食べた	野山	ユスランベ	1
とって食べた	野山	イタドリ	8
とって食べた	野山	あけび	3
とって食べた	野山	ゆり根	1
とって食べた	野山	すもも	2
とって食べた	野山	ナツハゼ	3
とって食べた	野山	山ぐり	3
とって食べた	野山	山菜	1

近所付き合い		夜遊び	1
近所付き合い		もらい風呂	4
催し		仰木小唄	1
催し		青年会	4
催し		江州音頭	1
催し		敬老会・婦人会	1
催し		吹奏バンド	1
催し		相撲	3
催し		牛の品評会	1
催し		芝居見学	1
		鐘の音	6
		交流、物々交換	1
		建設	1
		女中奉公	1
		その他	4

カテゴリー：　遊び

キーワード1	キーワード2	キーワード3	項目数
自然の中	夏	釣り・網	3
自然の中	夏	魚つかみ	8
自然の中	夏	水泳と食べ物	2
自然の中	夏	水泳	8
自然の中	夏	水遊び	11
自然の中	夏	セミとり	1
自然の中	夏	虫とり	1
自然の中	冬	氷遊び	2
自然の中	冬	竹スキー	6
自然の中	冬	竹スキー・ソリ	1
自然の中	冬	ソリ	2
自然の中	冬	つらら	1
自然の中		思い出	3
自然の中		相撲	3
自然の中		野球	2
自然の中		たこあげ	2
自然の中		みんなで遊ぶ	4
自然の中		お祭りごっこ	1
自然の中		柴刈り、竹の皮拾い	1
自然の中		れんげ畑	1
自然の中		ブランコ	1
	夏	蚊帳	1
	夏	床几（しょうぎ）	1
	夏	映画	1
	冬	火遊び	1
		お正月の夜遊び	1
		家の中での遊び	2
		メンコ	1
		紙風船	1
		思い出	1
		その他	6

カテゴリー：　学校生活

キーワード1	キーワード2	キーワード3	項目数
		校舎	4
		通学	7
		授業風景	3
		チャイム（鐘）	2
		宿直室	3
		お弁当、ごはん	7
		宿題	1
		夏休み（薬草とり）	4
行事		運動会	4
行事		音楽会	1
行事		遠足	1

火		豆たんあんか	2
火		薪	2
火		ひたきざ	1
		屋根（麦わら葺き）	19
		屋根　台風	4
		トイレ	12
		牛	14
		縁の下のにわとり	1
		傾斜の立地	1
		暑さ寒さ	6
		電気	4
		テレビ、ラジオ	4
		昔はなかった、昔は当たり前	8
		家づくり	3
		土間	5
		蚊帳	12
		くすべ	7
		柿渋	1
		地滑り防止	1
		燃料	1
		こはい	1
		しば小屋	1

カテゴリー：　冠婚葬祭

キーワード1	キーワード2	キーワード3	項目数
		結婚	3
		葬式	1
		結婚と葬式	1
正月		しめ縄作り	1
正月		餅つき	9
正月		かき餅	1
正月		どんど焼き	1
正月		その他	1
信仰		仰木祭（泥田祭）	7
信仰		相撲大会	3
信仰		すのう（収納）	4
信仰		獅子舞、太神楽	1
信仰		地蔵盆	5
信仰		お地蔵さまの信仰	1
信仰		盆踊り	9
信仰		信心	3
信仰		湯立祭	1
信仰		ヌシ（青ヘビ）	1
信仰		元三大師	3
信仰		餅・ミカンほり	2
		節分	1
		季節行事いろいろ	4
		その他	4

カテゴリー：　結・村組織・コミュニティー

キーワード1	キーワード2	キーワード3	項目数
協働	結	結の心	5
協働	結	屋根葺き	6
協働	結	農作業	8
協働		火の用心	20
協働		墓地	1
協働		自治制度	1
協働		その他	1
子ども社会		子ども社会	5
子ども社会		お手伝い	16
子ども社会		手づくり	1
子ども社会		昔話	1
近所付き合い		近所付き合い	9

カテゴリー：　風景			
キーワード１	キーワード２	キーワード３	項目数
季節		夏	4
季節		麦	1
季節		つるし柿	7
季節		雨	1
季節		冬	6
季節		いろいろ	3
季節		麦わら屋根のつらら	2
季節		水車のつらら	3
季節		つらら	4
季節		雪などいろいろ	1
田んぼ		もみ干し	2
田んぼ		麦稲木（夏）	3
田んぼ		稲木（秋）	10
田んぼ		野小屋（ユオ）	2
田んぼ		水田の水入れ	1
田んぼ		耕す	2
田んぼ		棚田	9
田んぼ		柿の木	1
田んぼ		ほ場整備	1
水		池	3
水		川	5
水		天神川	2
水		水車	7
道・交通		地道	10
道・交通		砂利道	5
道・交通		思い出	3
道・交通		外灯がない	3
道・交通		車がない	5
道・交通		バス	3
道・交通		ポンプ車	1
わら葺きと台風		わら葺き屋根	9
わら葺きと台風		台風	3
		山あり谷あり	1
		比叡山	3
		琵琶湖	1
		自然	2
		仰木の里団地	1
		開発	2
		お祭り	4
		時代劇	6
		煙突	1
		暮れ六つ	1
		御所の山	1

カテゴリー：　田畑仕事			
キーワード１	キーワード２	キーワード３	項目数
田んぼ		田植え	11
田んぼ		素足で	15
田んぼ		手仕事・牛	22
田んぼ		草刈り	6
田んぼ		稲刈り－稲木－脱穀	22
田んぼ		ゆお（野小屋）	8
田んぼ		もみ干し	3
畑		綿づくり	1
畑		遠野	1
畑		麦	6
わら		ムシロ織り	47
わら		わら打ち	10
わら		縄縫い	8
わら		俵	2
精米		うす	10
行事		競争	1
		回虫駆除	1
		思い出	2
		家庭室・回虫駆除	1
		自転車通学	1

カテゴリー：　生き物			
キーワード１	キーワード２	キーワード３	項目数
牛	暮らし	生活	14
牛	暮らし	牛つなぎ	3
牛	仕事	農作業	4
牛	仕事	荷車	6
牛	仕事	牛を追う声	3
牛		鳴き声	16
牛		毛並み	1
牛		えさ（干し草）	6
牛		干し草の匂い	6
牛		敷きわら	1
牛		匂い	6
牛		牛ふん	3
牛		虫	3
にわとり		暮らし	5
にわとり		思い出	2
にわとり		仕事	3
にわとり		鳴き声	21
にわとり		ひよこ	3
にわとり		えさ	1
にわとり		匂い	9
にわとり		ふん	1
豚		豚	1
家畜いろいろ		暮らし	3
家畜いろいろ		鳴き声	5
家畜いろいろ		匂い	3
虫		いろいろ	6
虫		蜂	2
虫		蚊	5
虫		害虫	2
虫		セミ	3
虫		コオロギ	1
虫		くつわ虫	1
虫		キリギリス	1
虫		とんぼ	2
虫		かぶと虫	2
虫	蛍	蛍	6
虫	蛍	匂い	1
虫	蛍	蛍狩り	11
両生類		カエル	9
は虫類		へび	1
		ヒル	1
魚		魚釣り、魚つかみ	6
魚		メダカ	1
魚		アカネチョ	1
魚		いろいろ	6
鳥		捕獲	1
鳥		ふくろう	7
鳥		カッコウ	1
鳥		うぐいす	2
鳥		いろいろ	2
動物		うさぎ	2
動物		キツネ	1
動物		いろいろ	1

カテゴリー：　その他			
キーワード１	キーワード２	キーワード３	項目数
感覚		痛い	7
感覚		かゆい	1
感覚		あたたかい	1
感覚		痛気持ちいい	1
災害		地震	1
災害		自然災害、ゆとりのある社会	1
		温泉	1
		ハイヤー	1
		仰木から堅田へ	1
		移動、運搬	3
		江若鉄道	2
		今と昔	9
		思い出	2
		便所にはまった	1
		戦争	3
		農業アルバイト	3
		よくわからないこと	11
		その他	2
精米		水車	16
		仕事っぷり	3
		肥料	6
		米作りと生活	6
		その他	5

カテゴリー：　山仕事			
キーワード１	キーワード２	キーワード３	項目数
		毎日やった	2
		木の葉かき	8
		焚きつけ	1
		柴刈り（小学生の頃）	4
		枯木とり	3
		竹の皮拾い	2
		枝おろし	1
		まき割り	8
		木の匂い	1
		思い出（山仕事）	2

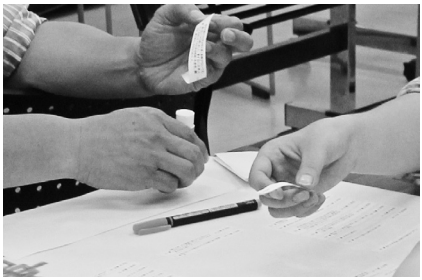


写真８：キーワードが共通するコメントを集めて模造紙に貼っていく

写真６：五感体験アンケートのコメントをカテゴリーに分類する

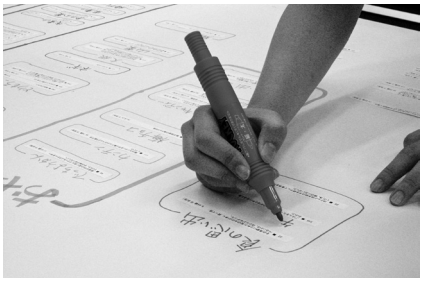


写真９：グループ分けしたコメントにキーワードを書き込み、図解にしていく

写真７：12のカテゴリーに分類されたコメント

写真12：仰木の生活文化を概観することができる言葉の地図

写真10：学生スタッフが集まって、ふるさとマンダラづくりの作業風景

写真11：カテゴリーごとにコメントが整理されて図解になる

ていた。おやつとしてもたくさん登場する。

今回の聞き取り調査では、より印象的でかつての生活を彷彿とさせる文言やコメントに注目し、読み札候補を絞る方向で進めたため詳細な分析は別の機会にゆずるが、このような量的な比較から仰木の生活文化のさまざまな側面を探っていくのも興味深い。

「仰木ふるさとマンダラ」は、コメント短冊の切り貼りとキーワードの手書きの状態をベースにして、画像ソフトで整理して見やすい図解を作成した。模造紙サイズで、「衣」一枚、「食」五枚、「住」二枚、「冠婚葬祭」一枚、「結・村組織・コミュニティー」一枚、「遊び」一枚、「学校生活」一枚、「生き物」二枚、「風景」二枚、「田畑仕事」二枚、「山仕事」と「その他」で一枚、全部で一九枚作成した。（図２）

写真13：仰木ふるさとマンダラのベースが19枚完成していく

図２：仰木ふるさとマンダラ

履き物

草履

わら草履

■ 通学の靴は藁草履のみ。
…番号 109　73 歳（上仰木 男性）

■ わら草履だったので、足が痛かったです。
…番号 143　67 歳（上仰木 女性）

■ 私も年上の人に混ざってわら草履づくりをしていた。　…番号 89　69 歳（上仰木 女性）

■ 皆、わら草履をはいて歩いて歩いて強かった。元気いっぱい。　…番号 38　74 歳（下仰木 男性）

■ わら草履は軽くて良いのですが、子供の頃よく石につまずき、足の親指の爪の下の皮がめくれ痛い思いをしました。…番号 57　76 歳（下仰木 男性）

■ 小学校の上どうり（草履）に、わら草履に古い布をまじえて作ったはきもの。
…番号 60　69 歳（下仰木 男性）

■ 夫がよくわら草履をあんでいた。
…番号 121　90 歳（上仰木 女性）

■ わら草履は冬は冷たかった。
…番号 122　60 歳（上仰木 男性）

■ わら草履が当たり前なので、何も考えなく履いていた。　…番号 124　76 歳（上仰木 男性）

■ 冬も靴がないので、わら草履をはいて学校に行く（寒さ）。　…番号 149　83 歳(上仰木 女性)

■「わら」は暖かく感じ、わら草履も暖かく思う。
…番号 156　63 歳（上仰木 女性）

■ 草履を履くので、足の爪をはがす痛さは大変であった。　…番号 158　76 歳(上仰木 男性)

■ 友達で集まって、わら草履を作りました　学校で履く上履きは布を沢山入れて編みました。
…番号 176　74 歳（辻ヶ下 女性）

■ わら草履の冷たい履き心地が気持ちよかった。
…番号 182　72 歳（辻ヶ下 男性）

竹の皮草履

■ 竹の皮で作った草履も良いです。
…番号 18　73 歳(下仰木 女性)

■ 竹の皮で編んだ草履、これ又すべすべ気持ちよかった。
…番号 30　年齢未記入（下仰木 性別未記入）

■ 竹の皮で作られた夏草履は、ひんやりと軽かった。
…番号 43　91 歳(下仰木 女性)

■ 竹の皮で草履を作って、鼻緒をきれいな布をまいて履いていました。大変軽くて良かった。
…番号 52　74 歳(下仰木 女性)

■ 七月ごろになると、竹の皮を集めにやぶに行き、友達と草履作りをした。
…番号 91　72 歳(上仰木 女性)

■ 夏は竹の皮で作った草履がすべすべして気持ちが良かった。　…番号 126　75 歳(上仰木 女性)

■ 竹の皮の草履。
…番号 152　64 歳（上仰木 男性）

■ 竹の皮草履を作ってもらい、真野浜まで水泳教室に歩いた時の草履の音。
…番号 172　71 歳（下仰木 女性）

草履いろいろ

■ 道路など全て土だったので、草履と足の裏に伝わる感じ。　…番号 159　71 歳(上仰木 男性)

■ 私たちの時代は、夜なべに草履作りが多かった。
…番号 164　79 歳（上仰木 女性）

■ 草履もわらや竹の皮、葦(すすき科？)等があった。
…番号 92　70 歳（上仰木 男性）

■ 雨の中でも草履で歩くと、汚水が着物にかかり汚した。　…番号 25　99 歳(平尾 男性)

■ 自慢話で恐縮です。母が作った草履を学校へ持っていくと、皆が見せ廻しするものでした。
…番号 72　83 歳（下仰木 男性）

■ 草を刈って、干して、草履を作った。布の草履も作った。　…番号 106　72 歳(上仰木 女性)

■ 下駄の音、布草履。竹の木皮で草履を作ったのは気持ちよかった。
…番号 131　71 歳（上仰木 女性）

■ わら草履のほか、竹の皮、草の草履など作って、子供には赤白のかわいらしい布のななこにしていた。　…番号 168　77 歳(平尾 女性)

■ わら草履や竹の皮草履。学校から帰ってくると竹の皮を拾いに行って、大きいのはサバ寿司用、小さいのは草履用、たくさん拾って蓄えていた。
…番号 173　73 歳（下仰木 女性）

下駄

■ 歩く下駄の足音。
…番号 45　80 歳（下仰木 男性）

■ 下駄をはいて、歩くので（カランコロン）と音がする。　…番号 106　72 歳(上仰木 女性)

■ 下駄で走く音。
…番号 126　75 歳（上仰木 女性）

■ 高下駄、雪の日は大変。
…番号 30　年齢未記入（下仰木 性別未記入）

■ 下駄（つっかけ）音がして楽しかった。
…番号 60　69 歳(下仰木 男性)

■ 下駄のはき心地がよかった。
…番号 157　66 歳（上仰木 女性）

たび

■ 靴下の代りの手作りたび、山ほこ帽子(わた入れ)。
…番号 21　75 歳（平尾 女性）

■ 寒くなると母親がたびを作ってくれた。とってもあたたかかった。
…番号 125　71 歳（上仰木 女性）

■ 親がたびを縫って下さった。
…番号 130　74 歳（上仰木 男性）

下駄・たび

■ 上級生はたびで高下駄を履いていた人が多かったと思う。　…番号 12　71 歳(下仰木 男性)

■ 冬はたびに下駄で、ほとんどの人がしもやけになった。　…番号 112　62 歳(上仰木 男性)

ゴム靴

■ ゴム靴が買ってもらえず（物も不足気みで昭和21 年ごろの話）、下駄に草履を釘で打付け小学校にはいて行った。雪でよく滑ったが、あたたかかった。
…番号 12　71 歳（下仰木 男性）

■ ゴム草履（セキダ）。
…番号 14　74 歳（下仰木 女性）

■ 学校行きは、ゴム靴をはいていた。くつ下も今のような良い物ではなく、足がとても冷たかった。
…番号 96　69 歳（上仰木 女性）

なめし靴

■ 昔（若い頃）冬の山仕事に行くのに、ナメシ靴（猪の皮で作った靴）に藁のそぐりかす（袴かす）を入れて履いたものです。足にぬくもりがあって良かったです。仰木地区でも、ナメシ靴がある家は数が少なく、貴重品でした。今考えると大変懐かしい想い出です。　…番号 146　83 歳(上仰木 男性)

靴いろいろ

■ 浅ぐつの冷たい感触。
…番号 76　年齢未記入（下仰木 男性）

■ 子供の頃は小学校へ通うときも「下駄」「ゴム靴」「せきだ」などで、運動靴はなかった。冬の下駄は、雪の中など、下駄の裏に雪がくっつき高下駄のようで恐かった。又、ゴム靴は冷たかったし、よく滑ったので、縄を巻きつけてもらってはいていた。夏のせきだは、ゴム製だったので、涼しかった。
…番号 179　63 歳（辻ヶ下 女性）

■ 昔は、田植靴が短かったのではきにくかった。
…番号 181　68 歳（辻ヶ下 女性）

堅田の呉服屋

■ 一年に二回程、公民会館へ堅田の呉服屋が出張販売に来た。呉服・洋品雑貨・下着・くつ下・作業着等。
…番号 41　72 歳（下仰木 男性）

出張販売

■ 家庭用品・服・はき物を、町から出張して、家を借りて、売っていた。
…番号 67　61 歳(下仰木 女性)

衣

手織り

綿

■ 手織。祖母が機織をしていました。わたを畑で採り「綿くり」と云う道具で種と白いわたを「キューキュ」と音を立て白い綿にして、それを紬いて糸にし紺に染め、手機で杼（ひ／横糸を通す）を使って「チョンチョンバタタン」と織ってくれました。祖母を思い出すと今も音が聞こえるようです。嫁入り道具として手織３～４反位は持って行きました。
…番号 184　80 歳（辻ヶ下 男性）

綿づくり

■ 昔は家で綿の木を作り、その綿で糸を紡ぎ、反物にしていた。　…番号 27　63 歳（下仰木 女性）

■ 昔は畑でわたを作り、糸にし、各色に染め、手織りで着物を作った。丈夫で長持ちした（母より）。
…番号 129　70 歳（上仰木 男性）

綿くり

■ 綿の種抜きする木製の器具の音、「ギィギィ」。
…番号 35　64 歳（下仰木 男性）

■ 綿くりの音。…番号 105　66 歳（上仰木 女性）

■ 綿くりの音、ギーギーと。
…番号 116　72 歳（上仰木 女性）

■ 祖母の綿くりの音や機織りの音、むしろ織の音、なつかしいです。
…番号 172　71 歳（下仰木 女性）

綿打ち

■ 綿打ちや縄ぬいの音がした。
…番号 131　71 歳（上仰木 女性）

糸くり

■ 昼間は綿打ちでビイビイと糸くり音も聞こえた。
…番号 29　68 歳（下仰木 男性）

機織り

■ 機織りをしていた（かすり）。
…番号 121　90 歳（上仰木 女性）

■ おばあさんが、その木綿の糸で、反物を織る機のトントンという音が懐かしい。
…番号 27　63 歳（下仰木 女性）

■ 昼間は、機織る音もトントンとした。
…番号 29　68 歳（下仰木 男性）

■ 冬の間に木綿の糸で機織りをして、トントンという音がしていた。
…番号 67　61 歳（下仰木 女性）

■ 機織りの音が懐かしい。
…番号 90　73 歳（上仰木 男性）

■ 機織り。　…番号 91　72 歳（上仰木 女性）

■ 母が夜なべに織る機械の「ガラガラトントン」という音。　…番号 98　64 歳（上仰木 男性）

■ 機織りの音。…番号 105　66 歳（上仰木 女性）

■ 牛車の音やむしろ織り・機織りの音（特に冬）。
…番号 126　75 歳（上仰木 女性）

■ 機織り。　…番号 128　76 歳（上仰木 女性）

■ 冬は手織りの機織りやむしろやかます織の音が聞こえた。　…番号 131　71 歳（上仰木 女性）

■ 機織りのシュウトントン。
…番号 181　68 歳（辻ヶ下 女性）

麻

■ 昔、麻を作りそれを反物に織り、かたびらで大変涼しく、感触が良かった。
…番号 51　82 歳（下仰木 女性）

■ 夏は、麻の布地の手織りのはんてんを縫い、着こなされていた。明治 2 年生まれのおばあさんがおられた頃。　…番号 168　77 歳（平尾 女性）

綿入れ、ドンサ、デンチ

■ 冬の寒い日に着るでんち。温かかった。
…番号 35　64 歳（下仰木 男性）

■ 綿入れの半纏・綿入れ袖なしのベスト（デンデと言っていた）を着ていた。ジャンパーやコートなどはなかった。　…番号 41　72 歳（下仰木 男性）

■ 手作り「ドンサ」（綿いり）。冬の寒い時に着る。
…番号 86　67 歳（上仰木 男性）

■ 背中、どんさが軽くてあたたかかった。
…番号 90　73 歳（上仰木 男性）

■ 地元で言う、ドンサ、デンチを着ると背中がぬくくなる（冬）。…番号 141　63 歳（上仰木 男性）

■ モンペをはき、デンチという綿入りのチョッキを着ていてあったかかった。
…番号 145　64 歳（上仰木 女性）

■ 親が自分でデンチ、モンペ、タビ等作って着せてくれました。　…番号 165　76 歳（上仰木 女性）

■ 冬は綿入りのでんち、綿入れのはんてんで寒さをしのいだ。　…番号 168　77 歳（平尾 女性）

■ 祖母の手織りのはんてん等、心地よかった。
…番号 172　71 歳（下仰木 女性）

手袋

■ 戦後手袋などなく、手があれてひび割れして痛くて泣かされた。
…番号 63　年齢未記入（下仰木 女性）

帽子

■ 帽子のかわりに、手拭いでほおかぶり。
…番号 129　70 歳（上仰木 男性）

編み物

■ 一本針で編み物は、いつもおばあさん達が子守りをしていたので、そこで教えてもらった。
…番号 173　73 歳（下仰木 女性）

わら

■ 夜、縄ぬいをしていた。
…番号 51　82 歳（下仰木 女性）

■ 収穫前になると、父は、縄を手縫い、少しして機械に変ったが、二又になったわらのくわし口に数本のわらを入れ、ぐるぐるとたる状のものが回りながらみるみる縄がぬえ、見ているのが楽しかった。又、俵作りもそうで、重りの棒玉をわらを並べながら手前から向こうへ向こうから手前へといそがしく、重りがガタガタとふれる音が響いていた。
…番号 179　63 歳（辻ヶ下 女性）

■ 何でもわらを使って作りました。箒・座椅子・弁当入れのバックの様な物・たわし・みの等の生活必需品もです。暖かさが伝わりました。
…番号 41　72 歳（下仰木 男性）

■ 田んぼなり農作業での雨の時に着ていた、わらで作った「みの」の感触。
…番号 86　67 歳（上仰木 男性）

■ 長ぐつの底にわらを入れると温かった。井戸水は冬あたたかく夏は冷たいので、今も思い出します。
…番号 111　75 歳（上仰木 女性）

■ 雨降りに使ったわらの「みの」の感触がなんとも云えなかった。…番号 147　87 歳（上仰木 女性）

農作業の着物

■ 昔の農作業衣。パンチヤ、ハバキ、モモヒキ、テツツ。　…番号 25　99 歳（平尾 男性）

着物について

■ 戦後物がなくて、子供の着物も縫って着せた。
…番号 63　年齢未記入（下仰木 女性）

■ 学生服の上にかすりの羽織り一枚で大変寒かった。　…番号 109　73 歳（上仰木 男性）

■ 冬、妹は姉のお古（着回し）と決まっていたので、寒い日何枚重ね着しても寒かった。
…番号 127　69 歳（上仰木 女性）

洗濯

■ 洗濯物はタライでして、流水ですすいでいた。
…番号 157　66 歳（上仰木 女性）

■ みやさんの川で洗濯をした。
…番号 90　73 歳（上仰木 男性）

■ 洗濯物をすすぐのは、川へすすぎに行った。
…番号 105　66 歳（上仰木 女性）

洗濯のり

■ 敷布ののりの匂いが気持ちよかった。
…番号 9　64 歳（平尾 女性）

■ 着物を仕立て直す、はりもの板ののりの匂いがしていた。　…番号 18　73 歳（下仰木 女性）

■ 手作り洗濯のりで、ゴワゴワした寝巻等、夏はとても涼しく感じた。
…番号 127　69 歳（上仰木 女性）

■ 衣類ののりつけの時、木のタライでのりをうすく水で伸ばしていくのを手伝った時の、手に触れたのりのつるつる感は今も忘れません。
…番号 127　69 歳（上仰木 女性）

食 1

米

おくどさんとお米

■ おくどさんで、おかまでご飯を炊いていた。
…番号82　年齢未入力歳（下仰木 男性）

■ かまどでご飯を炊いた。魚は炭で焼いた。たき木取りにはいった。
…番号112　62歳（上仰木 男性）

■ 釜で炊くご飯の湯気や、ジュジューという音。
…番号78　67歳（下仰木 男性）

■ 餅の匂い。モミがらで炊くかまどがあり、香ばしい匂いが家中にただよっていた。モミがらの中に未熟米がまじっていて、米菓子（ポン菓子）のように匂いを出していた。
…番号12　71歳（下仰木 男性）

■ 御飯の炊ける匂い。カマドで、フタ、おねった時。
…番号30　年齢未記入（下仰木 性別未記入）

■ おくどさんから炊けるご飯のにおいがした。
…番号76　年齢未記入（下仰木 男性）

■ かまどで炊いたご飯はおいしかった。とてもよい匂いがした。…番号83　67歳（下仰木 男性）

■ 昔はおくどさんでご飯を炊くにおい。
…番号131　71歳（上仰木 女性）

■ ご飯やおかずを鍋で炊くので、煙のにおいと鍋のにおいがよくしていた。
…番号148　66歳（上仰木 女性）

■ ご飯を炊くのにまきで炊くので、家の中が煙でけむたかった。…番号149　83歳（上仰木 女性）

■ 色々なものを食べましたが、今でも食べたいと思うものはご飯を炊いた後のこげの味です。
…番号1　79歳（平尾 男性）

■ おやつの代わりに御飯を食べた。
…番号51　82歳（下仰木 女性）

残り飯の食べ方

■ 釜についた「おこげ」を鉄べらではがす。そのままでもカリカリとおいしい。さらにお湯で戻しても美味。その前の、御飯の炊き上げる湯気がおいしそうな匂いで誘う。
…番号5　75歳（平尾 男性）

■ 子供の頃はまきでご飯を炊いていたので、炊き上がる頃には（大きい鍋で）ちょっとこげた強烈の匂いが、とっても吸い込まれるようなおいしい匂いでした。そのおこげに水を入れて、米洗でおいしい（私たちは「おゆ」といっているが）おゆができて、みんな後に食べたものです。今でも懐かしく、たまに作って食べています。
…番号89　69歳（上仰木 女性）

■ 夏の御飯はかごづつに入れていたので、残り飯は充分取れず、茶碗でこそげて、いくらか集まったらおこしを作ってくれました。
…番号34　74歳（下仰木 女性）

■ 米びつの残り、堅いのを炒って食う。
…番号158　76歳（上仰木 男性）

■ お米の二番米を炒って、いり飯にして食べた。
…番号173　73歳（下仰木 女性）

ほうしん

■ ご飯の鍋に残ったものを、いためて味付けをした「ほうしん」と言う事。
…番号11　70歳（下仰木 男性）

■「ホオシン」　ご飯が竹のひとつに入りそれを干して食べた。　…番号14　74歳（下仰木 女性）

■ 夏はかこびつで、飯のかわいたのをホーライで炒って砂糖、醤油で味付けした「ほうしん」が香ばしくて思ひ出されます。
…番号91　72歳（上仰木 女性）

ぬかがま

■ ぬかがまがあり、それでご飯を炊いていた。
…番号171　74歳（平尾 女性）

■ ご飯を炊くのに、ぬかがまでたいた（すりぬか→米のもみがら）。
…番号149　83歳（上仰木 女性）

おこわ

■ 昆布・納豆餅・黒豆入りおこわ。
…番号30　年齢未記入（下仰木 性別未記入）

ハチの子ごはん

■ ハチの子ごはん。
…番号15　59歳（下仰木 男性）

■ 私の子供の頃は、コヌカ綿的りをして綿の実を見付けて持帰り、これをご飯と一緒に炊いて食べるのが楽しかった。又、これが大変美味かった。（参考、長野県ではスガレ追いと言うらしい）。
…番号40　82歳（地区未記入 男性）

■ 子供のころ秋になると時々ハチノ子ごはんを食べました。コヌカ（正式名クロスズメバチ）という蜂の幼虫を煮てふかしたものです。高校のとき昼、弁当を預けるとまさにこの蜂でした。さすがに教室では、皆の中で食べられず、ひとり山長部の部屋へ行って食べたのを覚えています。これが蜂子飯を食べた最後の記憶でした。
…番号118　58歳（上仰木 男性）

お供え物

■ 母は信心の厚い人だった。朝、ご飯が炊き上がると、餅の木の葉に神棚前にお灯りをしながらご飯をしんぜていた（挿げる）。小さな餅が蜜柑に広がっていた。
…番号5　75歳（平尾 男性）

すしめし

■ すしめしの匂い。
…番号178　68歳（比ヶ下 男性）

鮒ずし

■ ふなずしは体に良いので母年漬けました。
…番号8　62歳（平尾 女性）

■ 魚のふなでずしをつけるとよく匂いました。くさかった。　…番号60　69歳（下仰木 男性）

■ 家の裏へ行くと、夏場樹寿しの桶の匂いがした。
…番号80　63歳（下仰木 女性）

■ 鮒ずしの鮒を干したにおいや、つかった鮒のおいがした。　…番号147　87歳（上仰木 女性）

■ 鮒ずしもつけていた。
…番号168　77歳（平尾 女性）

■ ふなずしの匂い。
…番号171　74歳（平尾 女性）

■ ふなずし、　…番号33　60歳（下仰木 男性）

サバずし

■ みの作り、針仕事、サバずしの食事こと、自慢話ばっかりになりますのでご免下さい。
…番号72　83歳（下仰木 男性）

ポン菓子

■ お米のポーンがおいしかった。
…番号90　73歳（上仰木 男性）

赤飯

■ かまどで赤飯で炊いた湯気のにおいがした。
…番号145　64歳（上仰木 女性）

■ 赤飯のにおい。
…番号178　68歳（比ヶ下 男性）

カレーライス

■ 近所のお家でカレーライスを作ってもらって食べた。
…番号87　55歳（上仰木 男性）

蒸しパン

■ 小麦粉で、むしパン、せんべいを拵いた。
…番号105　66歳（上仰木 女性）

■ 小麦粉で自家でむしパン等を作って食べた。あんこはかぼちゃをつぶして作っていた。終戦当時につき配給粉であった。主なもの、タバコ、砂糖、塩。しょうゆは自家製。
…番号109　73歳（上仰木 男性）

うどん

■ こむぎ粉でうどんを作った。
…番号38　74歳（下仰木 男性）

■ 小麦を栽培し、それを加工用へ持って行き、うどんを作ってもらった。
…番号105　66歳（上仰木 女性）

■ 夏休み、家でとれた小麦粉でうどんを作ってもらいに農協へ行った。冷やしうどんが忘れられない。
…番号127　69歳（上仰木 女性）

はったい粉

■ はったい粉を作るまでの、麦を煎るこうばしい香り。　…番号126　75歳（上仰木 女性）

■ はったい粉をよく食べた。
…番号9　64歳（平尾 女性）

■ はったい粉を砂糖と混ぜて食べた。
…番号35　64歳（下仰木 男性）

■ はったい粉に砂糖を入れて食べた。
…番号41　72歳（下仰木 男性）

■ はったい粉に砂糖を入れて食べた。
…番号147　87歳（上仰木 女性）

麦

もし

■ 御飯が炊ける寸前に、メリケン粉と砂糖とタンサンで拵った麦子を作っていた（母）。三時のおやつである。「ムシ」とよんだ。
…番号12　71歳（下仰木 男性）

■ 小麦粉で焼いたホットケーキのようなもの。昔は「もし」と言っていた。
…番号11　70歳（下仰木 男性）

■ 小麦粉しの「もし」を焼いて食べた。
…番号51　82歳（下仰木 女性）

■ 親がよくおやつに「もし」といって、小麦粉に野菜や豆そうを入れてフライパンで焼いてくれた。
…番号78　67歳（下仰木 男性）

■ おやつの「もし」の味。
…番号85　年齢未記入（上仰木 男性）

■ この辺では「もし」といって、小麦粉に砂糖、ふくらし粉を入れて、焼くとホットケーキのようなものが出来ます。いつも母が焼いてくれて、その味が忘れられなくて、孫や息子に焼いてあげようと思っているがしてくれてます。話だけはいつも息子たちにしています。
…番号89　69歳（上仰木 女性）

ガム

■ 小麦の皮を沢山むいて ガムにして食べていた。
…番号49　71歳（下仰木 女性）

■ 小さいとき ガムがなく、よその家のお麦がは さ（稲木）にかけてあったのをとり、手でもみ皮をむいて、口で皮をふいて 抜らして、ガムの代わりにしたこと。
…番号86　67歳（下仰木 男性）

■ 麦が稲架に干してある。麦を手でもんでガムといって口でしがんだものです。
…番号172　71歳（下仰木 女性）

アメ

■ 小麦でアメを作って食べた。
…番号48　53歳（下仰木 女性）

■ 昔、母が麦のもやしで水あめを作ってくれました。夜遅くまで煮て、堅くなるまで待っていました。
…番号111　75歳（上仰木 女性）

ドーナツ

■ フライパンで、こむぎ粉を麦ふめてまんじゅう。
…番号38　74歳（下仰木 男性）

■ こむぎ粉まるめて油であげたドーナツ。
…番号38　74歳（下仰木 男性）

■ 仰木でとれた小麦粉や菜種油（仰木産）のドーナツ、おいしかった。
…番号172　71歳（下仰木 女性）

粉くい葉

■ 入り粉を紙に包んで、粉くい葉で食べた。笑うとかまんた。　…番号106　72歳（上仰木 女性）

■ おやつとして、はったい粉（炭の粉）を葉っぱで すくって食べた。
…番号178　68歳（比ヶ下 男性）

■ 子供の頃は麦を作っていたので、米屋でひいてもらい「はったい粉」として砂糖を少し加え、丸い粉食い葉（こうくいば）で食べたものです。洗稲の時 した「すくい」にこのはったい粉を加え、餅の様に なったところを食べると、つめたくて甘みがありおいしかった。　…番号179　63歳（比ヶ下 女性）

芋

山芋

■ 山芋とろろご飯がおいしかった。
…番号108　60歳（上仰木 男性）

じゃが芋

■ 子供達で、じゃが芋がとれると、すりおろしてくず湯を作って食べたのがおいしかった。
…番号135　79歳（上仰木 女性）

■ じゃが芋をふかして食べた。
…番号173　73歳（下仰木 女性）

芋あめ

■ 芋アメ。
…番号155　年齢未記入（上仰木 性別未記入）

里芋

■ 私の家で、祖母がよく駄平くおきいも（こいもです）をすり鉢でよくすって、おけとゆっしょに食べさせてくれました。その、すり鉢でいもをする音が忘れられません。
…番号111　75歳（上仰木 女性）

さつま芋

■ さつまいも。…番号149　83歳（上仰木 女性）

■ サツマイモ。
…番号155　年齢未記入（上仰木 性別未記入）

■ さつま芋を焼いたり、ふかしたり、生でも食べた。
…番号173　73歳（下仰木 女性）

干す

■ 冬は、さつま芋を干して芋スルメを作って食べた。
…番号38　74歳（下仰木 男性）

生

■ サツマイモの生を食べた。
…番号73　76歳（下仰木 女性）

■ さつま芋、そのまま食べた。
…番号84　75歳（上仰木 女性）

■ 柿の皮もおやつにした。さつま芋を辰の前で削って、生で食べた。…番号106　72歳（上仰木 女性）

葉

■ 食べ物がなくサツマイモの葉を食べたこと。
…番号86　67歳（上仰木 男性）

蒸す

■ さつま芋を蒸して食べた。
…番号66　73歳（下仰木 男性）

■ おやつは、さつま芋をふかした物が多かった。
…番号102　66歳（上仰木 男性）

■ 砂糖がなく、さつま芋を切ばんで入れた蒸しをよく食べた（戦時中）。
…番号126　75歳（上仰木 女性）

焼く

■ かまどの中にたき木と一緒にもみがらを燃やし、その中で焼き芋や栗を焼いたにおい。
…番号23　72歳（平尾 女性）

■ 家の中の「おくどさん」で焼き芋をして…その焼き芋の匂い。…番号156　63歳（上仰木 女性）

■ 学校から帰ると、もみがらの中に焼き芋の匂ひがした。　…番号172　71歳（下仰木 女性）

■ おくどさんの、灰の中でやき芋を焼いてもらって食べ、おいしかった。
…番号17　61歳（下仰木 女性）

■ 焼き芋をおやつに食べた。
…番号44　69歳（下仰木 女性）

■ おくどさん（焚き火をする所）で芋を焼いた。
…番号90　73歳（上仰木 男性）

■ 毎日おくどうさん（かまど）で焼き炊いていたので、さつま芋に灰をかぶせて焼いたら、おいしかった。
…番号106　72歳（上仰木 女性）

■ おくどさんでご飯を炊いた後、さつま芋を灰の中で焼いて食べた。とっても美味しかった。
…番号126　75歳（上仰木 女性）

朝食

■ 私は3才だったと思うのですが、朝起きて母は朝食こしらえをしてました。
…番号72　83歳（下仰木 男性）

昼食

■ どこの家の田んぼにも野小豆（ユオと言っていた）が有って、昼食をそこで食べていた。また子供の遊び場でもあった。プランコやその横にロープを結んでターザンゴッコもしていた。
…番号56　69歳（下仰木 男性）

■ 田には各家わらの屋（庵）があった。そこにわき水（たまりめ）がありそれを飲み水にしていた。そこで昼飯を食べ、休けいした。
…番号112　62歳（上仰木 男性）

お弁当

■ 福刈りになると、家族中で仕事をしてお弁当を食べるのが楽しみだった。
…番号27　63歳（下仰木 女性）

食 2

豆

味噌豆

■ みそ豆をたき、日でみそつきをもらした。
…番号 106　72 歳（上仰木 女性）

■ 味噌豆を煮るにおい。
…番号 126　75 歳（上仰木 女性）

味噌汁

■ おいしいみそ汁の味忘れられない。
…番号 38　74 歳（下仰木 男性）

■ 給食の時の味噌汁の匂いは、母の匂いでもあった。
…番号 127　69 歳（上仰木 女性）

味噌づくり

■ 味噌を作るのに麹（こうじ）をねさし、出来上がった時の甘い香り。今でも作っています。
…番号 181　68 歳（辻ヶ下 女性）

■ 手作り味噌。…番号 88　64 歳（上仰木 女性）

■ 手作りの味噌も一日中豆を煮、餅白可豆を砕き、最後に塩こうじをくわえて一年程ねかす。一味違います。…番号 179　63 歳(辻ヶ下 女性)

醤油

■ 醤油のひな・・・大きいタルの中に小麦、米、塩を入れて。一年置いておく。
…番号 93　71 歳（上仰木 男性）

■ 醤油も作っていた家も多くあった。
…番号 124　76 歳（上仰木 男性）

■ 夏みかんに麹油をつけて。
…番号 30　年齢未記入（下仰木 性別未記入）

味噌、納豆、醤油

■ 食べ物も、昔は家で豆を作って、納豆やお味噌を家で作って、味噌汁や納豆やら川魚と豆を炊いたりして食べていました。そのおかげで、今健康なのかなと思っています。
…番号 62　82 歳（下仰木 女性）

■ 味噌、醤油の桶、樽で仕込み時のにおい。
…番号 92　70 歳（上仰木 男性）

■ どこのうちでも、味噌、納豆をつくっていた。
…番号 122　60 歳（上仰木 男性）

■ 味噌や納豆や、お醤油も家で作っていたので豆の炊いた匂いや麹のにおいがした。
…番号 173　73 歳（下仰木 女性）

■ 昔はどこの家でも納豆・味噌・しょう油をつくっていた。…番号 63　年齢未記入（下仰木 女性）

■ 味噌、納豆をつくる時、豆を炊いた匂い。
…番号 171　74 歳（平尾 女性）

豆だんご（エンドウ豆）

■ だんごをつくる匂い。
…番号 131　71 歳（上仰木 女性）

■ 豆だんこもよく食べていた。
…番号 49　71 歳（下仰木 女性）

■ かまどでその座にススキを敷いて、豆団子を蒸して食した。…番号 74　66 歳（下仰木 男性）

■ だんご粉蒸して、エンドウ豆入れて、砂糖がけのおやつ。…番号 78　67 歳（下仰木 男性）

■ だんこの粉で作った豆だんご。
…番号 153　62 歳（上仰木 女性）

田植えで食べる豆だんご

■ 五月の田植え時には豆ダンゴを。母の味。美味しかった。…番号 8　62 歳(平尾 女性)

■ 昔、田植に持って行かれた豆ダンゴ。
…番号 16　67 歳（下仰木 女性）

■ 5 月の田植えのおやつは、必ず豆（えんどう）団子を朝早く作って、それを 1 0 時頃の一服休みに食べたものです。
…番号 34　74 歳（下仰木 女性）

■ 田植の時などのおやつに、豆（主にえんどう）団子を作った。
…番号 41　72 歳（下仰木 男性）

■ 田植えのころ、よく母が豆入り（エンドウマメ）のダンゴを作りました。そんなに旨い記憶ではなく、砂糖をつけて食べたような気がします。
…番号 118　58 歳（上仰木 男性）

■ 田植えにはダンゴがつきもので、豆をいれた豆団子は特においしかった。
…番号 133　69 歳（上仰木 男性）

■ 田植えの小昼、豆入り団子出れられませた。
…番号 172　71 歳（下仰木 女性）

■ 田植えの後の豆団子の味（えんどうまめの団子）。
…番号 174　75 歳（上仰木 女性）

■ 田植えには小昼に豆団子などが出た。
…番号 175　71 歳（下仰木 女性）

炒り豆

■ 豆を炒ってる香り。
…番号 30　年齢未記入（下仰木 性別未記入）

■ 炒り豆、ソラマメや大豆も。
…番号 173　73 歳（下仰木 女性）

豆いろいろ

■ 豆（大豆）のはしける香。（天日干しのため）。
…番号 178　68 歳（辻ヶ下 男性）

■ 豆（ソラマメ、エンドマメ）。
…番号 124　76 歳（上仰木 男性）

■ 春になると、えんどう豆やそら豆を生で取って食べた。…番号 125　71 歳（上仰木 女性）

そら豆

■ そら豆の思ったのを持ち寄って食べながら楽しかった。…番号 45　80 歳(下仰木 男性)

■ そら豆の乾燥させたものを煎って食べた。
…番号 41　72 歳（下仰木 男性）

■ そら豆を煎って食べた。大麦型かった。
…番号 44　69 歳（下仰木 女性）

■ 若いそら豆やえんどう豆を生で食べていた。
…番号 56　69 歳（下仰木 男性）

■ 空豆を煎っておやつにした。
…番号 63　年齢未記入（下仰木 女性）

■ そら豆を食べた。
…番号 84　75 歳（上仰木 女性）

■ そら豆のいったの。
…番号 149　83 歳（上仰木 女性）

■ そら豆のいったの。
…番号 181　68 歳（辻ヶ下 女性）

豆料理（煮物）

■ シジミと豆の煮物。
…番号 38　74 歳（下仰木 男性）

■ ニシンと豆の煮物。
…番号 38　74 歳（下仰木 男性）

■ 豆と炊いたギギの味（琵琶湖の小魚）。
…番号 50　64 歳（下仰木 男性）

豆を粉にする

■ 豆を石臼でする音。
…番号 3　66 歳（平尾 女性）

■ 豆を挽く石臼を回す音。
…番号 98　64 歳（上仰木 男性）

■ 豆や麦を石臼で粉にする音。
…番号 116　72 歳（上仰木 男性）

■ 石臼で豆をひいた挽（きなこ作り）のゴリゴリした音。…番号 174　75 歳(上仰木 女性)

■ 豆の粉をよく食べた。
…番号 121　90 歳（上仰木 男性）

きな粉

■ 自家製のきな粉をつくっている日は、大変にいい匂いがしていた。
…番号 12　71 歳（下仰木 男性）

■ 豆の粉をつけて、つきたてもよし、焼いても良し。
…番号 92　70 歳（上仰木 男性）

■ キナ粉に砂糖を入れて食べた味。
…番号 160　64 歳（上仰木 男性）

餅

納豆

■ 納豆を作るのに炊いた豆のにおいがした。
…番号 71　76 歳（下仰木 男性）

■ 納豆をつくる時、こたつに入れておくと納豆のにおいがした。
…番号 82　年齢未記入（下仰木 男性）

■ 秋～春まで納豆を切らさず作りつ続けていた。
…番号 91　72 歳（上仰木 女性）

■ 納豆になる発酵時の納豆のにおい。
…番号 156　63 歳（上仰木 女性）

■ 納豆の豆、手作りのしょうゆ（少し辛口だったけれど）。前日より準備をする 9 月 1 日の初作の甘酒は、麹（こうじ）のにおいがたたよい、朝が待ち遠しかった。結婚後も毎年これだけは、絶対で初作をお祝いしております。
…番号 179　63 歳（辻ヶ下 女性）

■ 納豆をつくるのに豆を炊いたにおいがした。
…番号 182　72 歳（辻ヶ下 男性）

■ 納豆をわらに入れて作っていた。
…番号 37　58 歳（下仰木 女性）

■ 納豆。…番号 33　60 歳(下仰木 男性)

■ 納豆をもみがらの中であたためて食べたおいしさ。…番号 77　78 歳(下仰木 女性)

■ 手作り納豆。…番号 88　64 歳（上仰木 女性）

■ 今も食べる納豆まめ。
…番号 98　64 歳（上仰木 男性）

■ 家でつくったわらの納豆の味がおいしかった。
…番号 180　62 歳（辻ヶ下 男性）

納豆餅

■ 納豆餅の焼いた香ばしい納豆餅のにおい。
…番号 86　67 歳（上仰木 男性）

■ いろりで納豆餅を焼いたりかき餅を焼いた。
…番号 125　71 歳（上仰木 女性）

■ 納豆餅。家で作った、わらのつと に入れたもの。
…番号 92　70 歳（上仰木 男性）

■ 餅っきの時、つきたての大きな納豆餅を両手で持って食べた味。…番号 23　72 歳（平尾 女性）

■ 納豆餅。…番号 68　62 歳(下仰木 男性)

■ 納豆餅の味。つきたて納豆餅、納豆餅をやいて食べるなんとも言えない味。少し焼けた香ばしい味。とてもおいしい。…番号 86　67 歳（上仰木 男性）

■ 納豆餅を焼いて食べる。
…番号 91　72 歳（上仰木 女性）

■ 今の冬に食べる納豆餅。
…番号 100　68 歳（上仰木 男性）

■ 上仰木では納豆餅を食べる。
…番号 107　76 歳（上仰木 女性）

■ 仰木の納豆餅。今はあまり食べると腹痛がするが、当時は男の兄弟 3 人、両親、おじいちゃん、みんなよく食べたもんだ。仰木の納豆餅と作り方が同じということが、京都の高山町でテレビ放映されていた。…番号 113　66 歳（上仰木 男性）

■ 家で作った納豆餅を食べた味。
…番号 128　76 歳（上仰木 女性）

■ 納豆餅の焼いたのがとてもおいしかった。
…番号 148　66 歳（上仰木 女性）

■ 納豆餅を少しかたくして焼いて食べる味。
…番号 160　64 歳（上仰木 男性）

納豆餅の歌

■ 「隣の餅つきペッタンポン、一つ食べたい納豆餅。」
…番号 1　79 歳（平尾 男性）

■ 「となりの餅つき、一つ食べたい納豆餅」と、餅つきの音がするとよく歌いました。
…番号 165　76 歳（上仰木 女性）

餅つき

■ 餅つきの音。…番号 50　64 歳（下仰木 男性）

■ お餅つきの音をよく聞いた。
…番号 86　67 歳（上仰木 男性）

■ お餅をつく音。…番号 91　72 歳（上仰木 女性）

■ 今は機械で餅をつくが、その頃はみんな日でペッタンペッタンと杵でついた。
…番号 106　72 歳（上仰木 女性）

■ 各戸でお餅のきねの音。
…番号 109　73 歳（上仰木 男性）

■ 餅をつく音をよく聞いた。
…番号 148　66 歳（上仰木 女性）

■ お餅をつく音や匂かずにおいがおいしそう。
…番号 90　73 歳（上仰木 男性）

■ わらの穂先で切って煮う塩加減（豆の調整）が重要。…番号 92　70 歳(上仰木 男性)

■ おくどさんの灰の中で餅を焼いて焼いた。
…番号 106　72 歳（上仰木 女性）

かき餅

■ 学校から帰ると、かき餅を焼いてでてくれる香り。
…番号 30　年齢未記入（下仰木 性別未記入）

■ 焼餅の香ばしい匂い。
…番号 78　67 歳（下仰木 男性）

■ 家の中でかき餅を焼いておられるおじいちゃん。
…番号 86　67 歳（上仰木 男性）

■ 手作りオカキを網焼（しょう油を付けて）する香ばしいにおいがよくした。
…番号 127　69 歳（上仰木 女性）

■ 餅で醤油をつけて焼くカキ餅のにおいがよくした。…番号 141　63 歳（上仰木 男性）

■ 母がお餅を細く切り、あられを作って お砂糖をまぶしてくれたのが、上等のおかしだった。
…番号 23　72 歳（平尾 女性）

■ かき餅。…番号 33　60 歳(下仰木 男性)

■ 冬になるとおやつにかき餅をたくさん作ってあり、こんろで焼いて食べた。
…番号 44　69 歳（下仰木 女性）

■ おばあさん手頃のかき餅がたいへんうまかった。
…番号 53　67 歳（下仰木 男性）

■ かき餅をつくっておやつにした。
…番号 63　年齢未記入（下仰木 男性）

■ そら豆やかき餅を焼いて食べた。
…番号 90　73 歳（上仰木 男性）

■ 手作り、かき餅、あられなど。
…番号 93　71 歳（上仰木 男性）

■ かき餅、あられ、いつでも缶に入ってた。ソラマメもいつも缶に入ってた。
…番号 106　72 歳（上仰木 女性）

■ かき餅を作って食べた。
…番号 122　60 歳（上仰木 男性）

■ 家で作ったかき餅（お餅を薄く切って焼く）。
…番号 149　83 歳（上仰木 女性）

■ 家で作ったおかき。
…番号 153　62 歳（上仰木 女性）

■ カキモチ。
…番号 155　年齢未記入（上仰木 性別未記入）

■ 豆入りのかき餅、アラレ。
…番号 181　68 歳（辻ヶ下 女性）

餅いろいろ

■ 正月たくさん餅を焼いた時、焼きたてをおろし餅で食べたり、少し冷くなってきた伸ばし餅や豆餅、よこの餅などをうすく長方形に切ったりサイコロ状の角切りにしておかきや袋にして焼いたり、油で揚げて食べ、手作りのおやつを たくさん食べた。
…番号 70　62 歳（下仰木 女性）

よもぎ餅

■ よもぎ餅のにおい。
…番号 178　68 歳（辻ヶ下 男性）

小米餅

■ 餅米とうるち米を混ぜて作った「ココメ餅、カキヤ（あられ）の味。」
…番号 86　67 歳（上仰木 男性）

■ 納豆餅、小米餅を焼いて食った。
…番号 158　76 歳（上仰木 男性）

おはぎ

■ 母が作ってくれたおはぎ。彼岸には親せき中に配った。色々の家庭の味があった。
…番号 145　64 歳（上仰木 女性）

かき餅の思い出

■ 冬の夜は火鉢でかき餅をおやつに焼いた。香ばしいにおいで、こつこつと鉢が気長におやつ作りをしてくれた。…番号 34　74 歳（下仰木 女性）

■ 冬は餅をつき、家じゅういっぱいにかき餅を作り、家で干して焼いて食べた。あつあつがおいしかった。あられも切って作った。
…番号 38　74 歳（下仰木 男性）

■ 学校から帰ってくると、いつもかき餅に砂糖しょうゆをつけて、こんがり焼いておいてくれて、又、大きいサツマイモを、どんどんもみがら焼やした火で焼いておいてもらって、毎日のおみにが学校から帰ったものです。今書きながら懐かしいことがいろ思い出されて来ました。
…番号 89　69 歳（上仰木 女性）

■ かき餅を家で作って、焼いたり炭で揚げて食べさせてもらった。…番号 148　66 歳（上仰木 女性）

■ 冬　寒くなると餅をつき、かき餅作り家中に広げて干した。赤青の色彩を使い家中に干し、焼いたり油で揚げたりして おやつとした。
…番号 168　77 歳（平尾 女性）

■ どこの家も、寒い内にかき餅つきをした。むしろ一杯に広げられたかき餅。その香ばしいにおいの、しょうゆで仕上がったおかきが忘れられない。ガシャガシとそら豆やあられも焼る。保存食のおやつは絶品でした。
…番号 179　63 歳（辻ヶ下 女性）

食 3

柿

干し柿（つるし柿）

■ 秋が終わると、どこの家の軒下にも干柿がつるしてあった。　…番号 17　61 歳（下仰木 女性）

■ どこの家でも干柿がぶらさがっていた。
…番号 18　73 歳（下仰木 女性）

■ 秋になると、各家につるし柿を干していた。
…番号 39　73 歳（下仰木 女性）

■ 10 月末より農家のつるし柿、仰木の風物詩。
…番号 42　86 歳（下仰木 男性）

■ 秋にはどこの家でもつるし柿がいっぱいつるしてあった。　…番号 44　69 歳（下仰木 女性）

■ 干し柿をこの辺では、剥いた渋柿を、シュロの葉を芯にて縛かくまして雨降を避けた所に、柿の枝を少し丸字に切って その中に入れ、引っ掛けて家の軒下や小屋に段違いにして干してあった。
…番号 70　62 歳（下仰木 女性）

■ 干し柿（つる柿）がきく干してあった。
…番号 86　67 歳（上仰木 男性）

■ 秋になると、わら屋根の軒に干し柿をつるす。
…番号 128　76 歳（上仰木 女性）

■ 冬はつるし柿が軒下にぶらさがっていた。
…番号 149　83 歳（上仰木 女性）

■ 軒下につるし柿。
…番号 155　年齢未入力歳（上仰木 性別未記入）

■ 母が作ってくれた「つるし柿」が美味しかった。
…番号 177　88 歳（比ヶ丁 男性）

■ 夜なべで、柿むく音。
…番号 69　62 歳（下仰木 女性）

■ 秋の取り入れが終った後、夜なべで、つるし柿にする柿をむく音が「シュル、シュル、シュル」と聞えていた。　…番号 80　63 歳（下仰木 女性）

■ 秋の夜は家族みんな、子供も手伝って、柿むきをしていた（つるし柿作り）。
…番号 89　69 歳（上仰木 女性）

■ 秋になると、どこの家も、つるし柿を家の前につるしました。　…番号 22　82 歳（平尾 男性）

■ 柿を家のなかでむくのにおいを。
…番号 178　68 歳（比ヶ丁 男性）

■ 干し柿のなんともいえない自然の甘さ。
…番号 68　62 歳（下仰木 男性）

■ 冬のおやつといえば干し柿。粉のふいた甘い味。
…番号 82　年齢未記入（上仰木 男性）

■ つるしがきをよく食べた。
…番号 122　60 歳（上仰木 男性）

■ 干し柿は渋柿で、食べ過ぎわからない。よくダイミングを合わせて ね。
…番号 132　62 歳（上仰木 男性）

冬柿

■ どこの家にでも冬柿が家の周りにあった。
…番号 149　83 歳（上仰木 女性）

■ 取ったらあかんといわれて食べたふゆ柿の味。
…番号 129　70 歳（上仰木 男性）

半熟

■ 干し柿の半熟。
…番号 33　60 歳（下仰木 男性）

柿こね？

■ イリコと柿のずくした物と、まぶして食べた。
…番号 14　74 歳（下仰木 女性）

■ 秋になると、柿が真っ赤に熟したものを「はったい粉」を入れて「柿こね」と言った。食べたら美味しかった。　…番号 31　69 歳（下仰木 男性）

■ 渋柿の熟した柿といり粉を入れて食べた味。
…番号 42　86 歳（下仰木 男性）

■ 渋柿を熟していり粉をまぶして食べていた。
…番号 49　71 歳（下仰木 女性）

■ しぶ柿を粕に入れて、真赤になるまで熟す。冬夜、風呂上りに熱粉に、いり粉をかけて食べると冷たくて、おいしかった。
…番号 52　74 歳（下仰木 女性）

■ 熟した柿をこがし（はったい粉）で、まぶして食べた。とても香ばしい匂いだった。
…番号 127　69 歳（上仰木 女性）

■ 仰木地区は、どこの家でも昔は渋柿の色づいた物をこうじふた（入れ物）で熟すまで保管し、熟した柿（じゅくし）に「柿こね」と云って「はったいの粉」二番米（屑米）を石臼で粉にし、熟した柿に混ぜ、夕食前によく親から夕食が少しでも助かると云って食べさせられたものです。　今もその味が忘れられないものです。
…番号 146　83 歳（上仰木 男性）

■ 渋柿を赤くなるまで熟して、はったいの粉で柿をこねるとおいしかった。
…番号 181　68 歳（比ヶ丁 女性）

■ 熟し柿（サワシガキ）とはったい粉まぶし。渋柿を熟して熟し柿にする。小麦粉を炒って石臼で粉にして、柿の薄皮を剥ぎ、種を取り、粉に混ぜ（マブス）と柿半歳の味な味がした。
…番号 184　80 歳（比ヶ丁 男性）

渋柿の皮

■ 毎年秋が終わると、夜にしぶ柿をカミソリでむく。何ッも むくので秋の炎で手がテカテカになって、洗ってもなかなかとれない。でも、柿のへたをもんで洗うと、きれいにおちる。
…番号 17　61 歳（下仰木 女性）

■ 柿の皮をむいて干したものもおやつとしてよく食べた。　…番号 56　69 歳（下仰木 男性）

■ つるし柿の皮を食べた（おやつ代わり）。
…番号 90　73 歳（上仰木 男性）

■ 干し柿の皮を干して白い粉をふいて、甘くておやつでした。　…番号 93　71 歳（上仰木 男性）

■ 渋柿の皮を食べたり、漬物に柿の皮の干した物をつかった。　…番号 131　71 歳（上仰木 女性）

■ 干し柿は市場に出して、むいた皮を干しておやつに食べたものである。
…番号 133　69 歳（上仰木 男性）

■ 柿の皮をほしておやつがわりにした。
…番号 144　67 歳（上仰木 男性）

■ 干し柿の皮。
…番号 155　年齢未記入（上仰木 性別未記入）

■ 干し柿の皮を干して、白い粉がふいている長い皮を丸めて食べました。
…番号 169　64 歳（平尾 女性）

■ 渋柿の皮をむいて、実の方は干し柿にして、柿の皮をわらでくくって干しておく。乾くと甘くなるのでおやつにし、食べた。
…番号 176　74 歳（比ヶ丁 女性）

さわし

■ しぶ柿のしぶを取るために、青い柿を絞って寸、発酵させている切り紙下からしていた。
…番号 67　61 歳（下仰木 女性）

■ さわし（しぶをぬいた）柿をよく食べた。
…番号 178　68 歳（比ヶ丁 男性）

ずくし（熟し）

■ よその畑や田ん畦の熟し柿を取って食べた。又、家にも熟し柿が作ってあった。
…番号 166　72 歳（上仰木 男性）

■ 渋柿の木にまっかに熟した柿を食べた。
…番号 4　62 歳（平尾 女性）

■ どの田ん ぼにも柿の木があった。少年のころ、自然に熟した柿の実（熟しという）を取りに歩いた。旨かった。　…番号 5　75 歳（平尾 男性）

■ つるし柿は、仰木のつるし柿として売るので、私たち子供のおやつは、柿にならない枯や柿の皮をつるして干して食べるのだった。
…番号 23　72 歳（平尾 女性）

■ しぶ柿の熟しの味。
…番号 50　64 歳（下仰木 男性）

■ ずくし柿にハツタイの粉とをまぶして（さくらく粉と言う）、甘くておいしい。
…番号 64　年齢未記入（下仰木 性別未記入）

■ つるし柿をするのに柿を取りに行って、赤いずくしを食べておいしかったこと。
…番号 86　67 歳（上仰木 男性）

■ 子供の時分、仰木にはぼんぼの土手などに渋柿の木があり、秋に真っ赤になったずくしを取ってよく食べたなあ。甘柿は家の庭にしかほとんどなかった。　…番号 94　76 歳（上仰木 男性）

■ 渋柿を熟して、食べた。
…番号 106　72 歳（上仰木 女性）

■ しぶ柿のじゃくしたのを、よく食べた。
…番号 115　71 歳（上仰木 男性）

■ 甘柿が少 色づいて来たら、爪でかいてみて食べた。　…番号 154　77 歳（上仰木 女性）

■ 秋になるとしぶ柿がずくしになり、取って食べた。
…番号 157　66 歳（上仰木 女性）

■ 干し柿はなかなか食べさせてもらえなかった。皮や、小さいのがなくなったらでないと食べられなかった。　…番号173　73歳(下仰木 女性)

甘柿

■ 10 月頃に、家の前に柿の木に登り（半鐘、寒いころ）食べた薯ユウ柿の味は最高でした。当時は冷蔵庫もなく、冷たい呼は美味しかった。
…番号 12　71 歳（下仰木 男性）

■ つくつくぼうしが鳴くと、早くから柿を取って食べた。甘くなってきたとつくつくぼうしが教えてくれたが、半分位はしぶみがあった。
…番号 127　69 歳（上仰木 女性）

■ 子供の頃あまり食べるのがないので「有ガキ」をまだ青い内から取りかけ、よくしかられました。
…番号 143　67 歳（上仰木 女性）

■ 昔はおやつにと、どの家でも家数内には、甘柿の木が植えられていて、秋にはオレンジ色の美しい色つき で実べたものでした。近年は食べられず、たくさんなった甘柿はカラスが食べてしまう。
…番号 168　77 歳（平尾 女性）

干し柿　出荷

■ 仰木はつるし柿の産地で、秋口になるとつるし柿が沢山作られました。
…番号 8　62 歳（平尾 女性）

■ 昔は田の畦（土手）に渋柿が植えられ、時期になると各家庭の軒に吊るし柿が竿に吊るされ、仰木の柿は有名であった。
…番号 32　62 歳（下仰木 男性）

■ 秋の終り、どの家の軒先にも干柿がつるしてあった。又、柿にして大量に作る苗もあった。出荷していた。　…番号 41　72 歳（下仰木 男性）

■ 吊し柿の干屋、名物として京都等への売り。
…番号 183　69 歳（比ヶ丁 男性）

■ 秋の柿屋。秋の柿の頃、渋柿を「つる柿」に加工するときに、竹を 20 段くらいに渡した巻を立て、柿を干した。そのつるし柿の多くが、仰木神を経て大原に行き、京都の料亭のお茶菓子になったと聞いている。　…番号184　80歳(比ヶ丁 男性)

■ 干し柿は渋が抜けて甘くなる頃には市場に出された。干し柿出荷組合があった。
…番号 132　62 歳（上仰木 男性）

魚介類

うなぎ・なまず

■ 夏休みになると、御呂戸川の上流に夕方つり針をしかけて、朝に引上げに行くとうなぎやなまずがかかっていて食べた。20 本くらいで 1 ～ 2 掛かっていた。　…番号 102　66 歳（上仰木 男性）

川魚

■ 川で取た川魚、どじょう、ダブ貝、食べられるものは何んでも食べた。
…番号 38　74 歳（下仰木 男性）

■ 昔はドジョウやタニシ等も多く食用にした。
…番号 166　72 歳（上仰木 男性）

■ 夏になると、川に魚を手づかみで取りにいった。それを炭火で食べた。今はそのような川（水深と場所）が無くなった。
…番号 102　66 歳（上仰木 男性）

しじみ

■ 昔は水浴は川へ行き、田に入りこんだ小川で「しじみ取り」をした。
…番号 78　67 歳（下仰木 男性）

塩こぶ

■ 塩こぶを炊く匂い。
…番号 178　68 歳（比ヶ丁 男性）

魚肉ソーセージ

■ それまでソーセージは無かったんでしょう。魚肉ソーセージを口にしたとき、なんてうまいものか、寝が入れそうになった。（無かったのではなく 買えなかったのかも）。
…番号 113　66 歳（上仰木 男性）

とろろこんぶ

■ とろろ汁。　…番号33　60歳(下仰木 男性)

堅田の魚

■ 夏になると、堅田の漁師さんが湖の魚や川魚を売りに来られて、ごりと言う小魚を買って、生姜のほしぎり千切りや梅干しやしそを少し入れて煮はくく炊ける香りが美しゅうにしたものです。この頃は魚も取れなくなって、2 回くらいしか炊けなくなりました。　…番号 70　62 歳（下仰木 女性）

焼き魚

■ しちりんで魚焼く、うちわでパタパタパタ。
…番号 129　70 歳（上仰木 男性）

■ 夕方になると、どこの家からも魚を焼く匂いがした。　…番号 108　60 歳（上仰木 男性）

■ 魚等の焼き魚のにおい。
…番号 109　73 歳（上仰木 男性）

スルメ

■ スルメの足。
…番号 155　年齢未記入（上仰木 性別未記入）

いろいろ

ゴマ

■ 台所から煎りたてのゴマをすり鉢ですっている香ばしい匂い。　…番号23　72歳(平尾 女性)

薬草採取

■ 夏休み中の宿題の一つが、薬草取りであった。各家々で乾かし干したものを、講習に集めた。子ども達の集めた薬草が広い倉庫一杯に、山のように積み上げられた。窓がふさがれて薄暗かった。また、大根や野菜の品評会が時々開かれていた。(地域の人々による)。　…番号 185　88 歳(平尾 女性)

■ 当時、世界戦争の最中、小学生であった我々は夏休み中、学校から割り当てられた薬草採取が毎日の日課だった。どくだみ・おおばこ・よこみ・げんのしょうこ、暑い夏の日課だった。乾燥された薬草が学校に集荷され、供給された。・・・今日でもその夏の暑さは忘れない！！
…番号 94　76 歳（上仰木 男性）

とうもろこし

■ ナンバ焼き。コンロでナンバ（トウモロコシ）を焼くと、パチパチ音がして甘い匂いがただよう。黒く焦げたナンバを喰らう日の楽りが果くなった。
…番号 114　81 歳（上仰木 男性）

■ 焼きとうもろこし。
…番号 78　67 歳（下仰木 男性）

■ とうもろこしを焼いて食べた。
…番号 173　73 歳（下仰木 女性）

ネギ

■ ネギのへた焼。
…番号 38　74 歳（下仰木 男性）

大根

■ 冬になると、大根などを家にある小さい池や井戸で洗われに洗って、4 ～ 5 本ずつ ゆでくくって 枯の木の枝にひっかけて干してあった。「枯の木に干すと美てない」と聞きました。木は生きているので、寒かいから だと言う事です。
…番号 70　62 歳（下仰木 女性）

採って食べた食4

田畑

野菜などいろいろ

■ キュウリ、トマト、ナスなどが、畑でそのままとった味が懐かしい。おいしいにおいだった。
…番号87　55歳（上印木 男性）

■ 井戸水、当時は簡易水道という山の水を浄水して使っていて、夏場は特に冷たい水でスイカ、トマト、キュウリなどを冷やして食べたのがすごくおいしかった。　…番号88　64歳（上印木 女性）

■ 井戸水で冷やしたすいか、トマトのおいしいことと。
…番号178　68歳（比ヶ下 男性）

■ 今と違い、畑でのんいトマトやキュウリ、なすびも食べました。ぼんぼりのサクランボや宝の梅の実も食べたのを覚えています。また、柿の皮をおやつに、屋につけて食べたのを覚えています。また、冶へ行っては、ビシの実まで食べました。グミも食べました。
…番号24　80歳（平尾 男性）

■ さつま芋をふかし、持を取って、福河りに行く。田んぼで食べると、とてもおいしい。
…番号69　62歳（下印木 女性）

■ 子供の時分は、おやつ代わりに畑でキュウリやトマトを食べた。…番号71　76歳（下印木 男性）

■ 近くの畑のかぶら、だいこん、なすび、食えるものんじゃったら何でも。　ネギだけは食えませんでした。　…番号72　83歳（下印木 男性）

■ おやつ代わりに、新鮮に塩をつつんで、きゅうり、トマト、なすびを塩をつけて食べた。取りたてのものなので大変おいしかった。
…番号89　69歳（上印木 女性）

■ 琵琶湖に泳ぎに行く時、トマト、なすび、キュウリを持って、それを投げてそこまで泳ぎ、帰り道に食べながら帰ったことを思い出す。
…番号130　74歳（上印木 男性）

■ 夏に川へ泳ぎに行くときは、必ず先盟の分も持って行き、（塩で）ナスビ、梅などを食べたことを多し。
…番号141　63歳（上印木 男性）

■ トマトやマクワを井戸で冷やし、夏の午後大勢の家族で喰った。仰木はスイカは余り栽培しなかったので、貴中で一、二番目であった。
…番号114　81歳（上印木 男性）

ナス

■ なすを箱で塩をつけて食べた味。
…番号50　64歳（下印木 男性）

■ ナス。　…番号124　76歳（上印木 男性）

うり

■ うり。　…番号38　74歳(下印木 男性)

いちじく

■ 田畑にあったいちじくの実をよく食べた。
…番号60　69歳（下印木 男性）

三つ葉

■ 私は、三つ葉を湯がくにおいがするのと、祭りの巻きずしのにおいが大好きでした。
…番号111　75歳（上印木 女性）

採って食べても

■ 昔は子供が他の物を取って食べても少しは怒られるが、今日のような事はなかった。「あそこの家のやんちゃ坊主がまた取りよった。しょうがないやつや。」と言ってすまされていた。
…番号133　69歳（上印木 男性）

スイカ

■ 井戸にスイカをつけて食べた。
…番号37　58歳（下印木 女性）

■ 井戸水で冷やした西瓜。
…番号1　79歳（平尾 男性）

■ 夏は井戸で冷した冷いスイカ（マクワ トマト）がおいしかった。…番号38　74歳（下印木 男性）

■ 井戸につけてあった、お盆のスイカの冷たさ。
…番号108　60歳（上印木 男性）

■ 井戸で冷やしたスイカ（実でとれた）おいしかった。　…番号172　71歳（下印木 女性）

■ 冷蔵庫のない時代、風呂敷等で包んだスイカをロープで井戸へ下ろし、4～5時間冷やした後のスイカの味が忘れられない。
…番号54　62歳（下印木 男性）

■ スイカ割りをみんなでして食べた。
…番号87　55歳（上印木 男性）

セリ

■ 春はセリをつみ、おひたし・みそ汁。
…番号38　74歳（下印木 男性）

イタドリ

■ 近所の友達といたどりを取りに行って食べた。
…番号4　62歳（平尾 女性）

■ 子供のころ食べていた「いたどり」を近近食べてみたけど“スッパ”かった。1口しか食べれなかった。
…番号17　61歳（下印木 女性）

■ 山で塩を付けて食べた「いたどり」。
…番号35　64歳（下印木 男性）

■ 山や田んぼでイタドリを食べた。
…番号79　60歳（下印木 男性）

■ イタドリを塩で食べた。
…番号108　60歳（上印木 男性）

■ いたどり。
…番号163　年齢未記入（上印木 性別未記入）

■ いたどりの皮をむいてお茶の代用として食べました。　…番号169　64歳（平尾 女性）

■ いたどりの木を買って食べていた。一本5円。堅田の話おばあちゃん談。
…番号174　75歳（上印木 女性）

ゆり根

■ 春は野にゆりが咲き、ゆり根をほりおこし食べた。
…番号157　66歳（上印木 女性）

野山

野山でいろいろ

■ いたどり、やまいちごなどを取って。
…番号3　66歳（平尾 女性）

■ くわの実、いちご、野いちご。
…番号9　64歳（平尾 女性）

■ イタドリ、シーの実、アケビ。
…番号14　74歳（下印木 女性）

■ 木に成るソバの実、琴イチゴ。
…番号25　99歳（平尾 男性）

■ 子供の頃、おやつ代りに山に行き、野イチゴ、ナツハデをよく食べた。
…番号47　76歳（下印木 男性）

■ 山いちご、うす、なつはぜ、くみの味。
…番号67　61歳（下印木 女性）

■ 田んぼについていた枠は、近くにあった池の菱の実を取ってもっちっり、ホいちご、いたどりを、土手で取って家で皮をむいて塩をかしつけてやまました。でも、炭っぱくて食べられなかった。
…番号70　62歳（下印木 女性）

■ 山いちりく、夏はぜ、あけび、山栗、しいの実などは下取り、おやつにした。
…番号112　62歳（上印木 男性）

■ 子供の頃、田んぼの土手へ塩を持って行ってイタドリ・スイ葉などおやつ代わりに・・・とてもスッパい味。　…番号116　72歳(上印木 女性)

■ 夏から秋にかけては、山栗を袖め、ウス、夏はで、木（実）イチゴ、ガおやつだった。
…番号123　63歳（上印木 男性）

■ 小さいが山栗、あけび、わらび、ぜんまい、イタドリ、ウドウ。　…番号129　70歳（上印木 男性）

■ あけびや、山いちごを食べた。
…番号178　68歳（比ヶ下 男性）

松茸

■ 松茸山のそばを通ると、すごく松茸の匂いがしていた。　…番号166　72歳（上印木 男性）

■ 子供のころはマツタケが豊作で、七輪で焼くマツタケの味が忘れられない。
…番号108　60歳（上印木 男性）

■ 昔は秋になると松茸が多く取れ、その味は忘れられない。　…番号162　67歳(上印木 男性)

椎の実

■ 椎の実を拾って食べた。
…番号39　73歳（下印木 女性）

■ お寺の森の中にあった椎の実を、近所の子供がかくれぼうなどをしながら遊んでいて、お腹がすいたらひろって食べた。
…番号70　62歳（下印木 女性）

■ 夜風の強かった頃研くお寺さんへ行き、椎の実が落ちているのでひろって、炒ってもらった味。
…番号116　72歳（上印木 女性）

テンポナシ

■ 子供のころ「テンポナシ」と云う木の実（枝）食べたが、味は忘れてしまった。
…番号25　99歳（平尾 男性）

野いちご、木いちご

■ 田んぼの縁りに木いちごを食べた。
…番号4　62歳（平尾 女性）

■ 木いちご。　…番号33　60歳(下印木 男性)

■ 子供時、野いちごを食べたこと。
…番号46　66歳（下印木 男性）

■ 山・野にあった野いちご（黄いちご）がおいしかった。　…番号60　69歳(下印木 男性)

■ 野イチゴを取りに行き、食べた。おいしかった。
…番号90　73歳（上印木 男性）

■ 山へ芝刈りにいって、野イチゴを取って食べた時のおいしさ。　…番号147　87歳(上印木 女性)

ユスランベ

■ ユスランベ。
…番号155　年齢未記入（上印木 性別未記入）

すもも

■ よその家のすもも取って食べたものだ。
…番号129　70歳（上印木 男性）

■ スモモ。
…番号155　年齢未記入（上印木 性別未記入）

ナツハゼ

■ 山に行ってなつはぜを取って食べた。
…番号83　67歳（下印木 男性）

■ 秋山に行くと、なっはぜが熟していたので食べた。
…番号157　66歳（上印木 女性）

■ 夏はで。
…番号163　年齢未記入（上印木 性別未記入）

山ぐり

■ 山ぐり。　…番号33　60歳(下印木 男性)

■ 山で取った焼ぐりの味。
…番号50　64歳（下印木 男性）

■ 台風の後、栗拾に行き、栗の実の皮を剥かずに火鉢で焼こうとして栗が崩壊して災だらけになった思い出。　…番号54　62歳（下印木 男性）

あけび

■ 種だらけの「あけび」の味。よく食べた。
…番号32　62歳（下印木 男性）

■ あけび。　…番号33　60歳(下印木 男性)

■ あけびは食あとの麓李で取って食べた。
…番号123　63歳（上印木 男性）

山菜

■ 野山の山菜、ふき、ワラビのつくだに。どこの家でもふきの塩づけをたいて食べた。
…番号38　74歳（下印木 男性）

家の周り

家の周りで　いろいろ

■ 家のまわりは、柿の木、みかん、ゆず、いちじく、なつめ、すもも、ざくろ、とてもおいしかった。
…番号69　62歳（下印木 女性）

■ 竹やぶ、びわ、カキ等すべて家で作られていた。
…番号109　73歳（上印木 男性）

■ おやつのないときの、よその家の柿とか青い梅をこっそり取って食べた味。
…番号86　67歳（上印木 男性）

■ おやつは家の周りにあった。青からスモモ、グミ、びわ、柿、栗。
…番号97　75歳（上印木 女性）

■ 多くの成り果物がありました。夏ミカン、カキ、スモモ、クワ、ミカン、冬柿、ゆず、びわ。
…番号107　76歳（上印木 女性）

■ びわの木はどこの家でも1～3本。
…番号107　76歳（上印木 女性）

■ 柿やびわ、くみ、みかん、なんでも家に植えてあって近所の子供と一緒に食べた。
…番号126　75歳（上印木 女性）

■ 家でできる夏みかんのすっぱいのに塩を付けて食べた。　…番号145　64歳（上印木 女性）

■ 家の殿地のグミが、あまずっぱいおやつであった。
…番号147　87歳（上印木 女性）

■ 学校から帰ると、おやつ代わりに家の柿の木、びわの木に上り、食べた。
…番号156　63歳（上印木 女性）

■ おやつ代わりの柿、びわ、すもも など味が濃かったように思う。…番号159　71歳（上印木 男性）

■ 屋敷の周りに　7 本の柿の木が植えていて、子供のおやつとなった。そのほか、みかんの木、ビワの木、キンカン、すもものの木、子供のおやつとなった。秋には干し柿。　…番号168　77歳(平尾 男性)

■ びわや柿、ミカンを、家取にあったので食べた。
…番号178　68歳（比ヶ下 男性）

■ どこの家もまわりにカキ、びわ、なつめ、(これは牛をつなぐ為に植られた) みかんが植られ、おやつになった。　…番号179　63歳(比ヶ下 女性)

カボチャ

■ わら屋の主屋の戌を利用してカボチャの棚が作られ、主として収穫の石日カボチャが多かったが、日よけを兼ねたカボチャの間には多くのカボチャが成っていた。落ちついた思材風景をたたよわせていた。盆等や祭日の小学生が、遠足で標川や大原へ行くときこれを見て「印木のカボチャ嬉い」と云ったので、盗琴のナスビ嬉いとか盗田のキュウリ嬉いとか云い合ったものである。
…番号114　81歳（上印木 男性）

青梅

■ 青梅も塩をつけて食べていた。
…番号56　69歳（下印木 男性）

■ 成育中の梅（青梅）をいくつか取って、生梅に塩をつけて食べた。…番号74　66歳（下印木 男性）

■ 塩を持って行き、よその家の梅を取って食べたもの。　…番号129　70歳（上印木 男性）

■ 子供の頃青梅をかじり、スッパかった。
…番号170　65歳（平尾 男性）

サクランボ

■ サクランボ。
…番号155　年齢未記入（上印木 性別未記入）

びわ

■ 木に登って食べたびわの味。
…番号50　64歳（下印木 男性）

■ ビワの木もたくさんあって、登ってよく食べた。
…番号56　69歳（下印木 男性）

■ 庭にあったびわの実が、おいしかった。
…番号60　69歳（下印木 男性）

■ びわの実が川べりにあり、おやつにした。
…番号115　71歳（上印木 男性）

■ びわ。
…番号163　年齢未記入（上印木 性別未記入）

ナシメ

■ ナシメ。
…番号155　年齢未記入（上印木 性別未記入）

栗

■ よその家の栗の木の下で拾って食べた。
…番号99　64歳（上印木 男性）

ニッキ

■ にっきを食べた。
…番号178　68歳（比ヶ下 男性）

■ ニッキの根も父がおやつに植えてくれましたが、子供がたくさんいましたので、入れ替わり立ち替わり付きますので、その木がこけました。
…番号24　80歳（平尾 男性）

食 5

にわとり

にわとり

■ 人客の時のかしわつぶしの匂い。
…番号 53　67 歳（下仰木 男性）

卵油

■ 卵油を搾（こしら）えていた頃の、濃厚な玉子の味。
…番号 43　91 歳（下仰木 女性）

いろいろ

みそたま

■「みそ」たまの匂い。
…番号 178　68 歳（辻ケ下 男性）

食の思い出

■ ほとんど炊き物は木を燃やして食事を作っていたみ、歴のにおいがした。
…番号 11　70 歳（下仰木 男性）

■ その季節にとれた旬のものが多く、買って食べることは、ほとんどなかった。
…番号 9　64 歳（平尾 女性）

牛になる

■「ご飯を食べてすぐ寝ころがると、牛になる」と言われた。　…番号 176　74 歳（辻ケ下 女性）

お茶

お茶

■ お茶のにおい。
…番号 106　72 歳（上仰木 女性）

■ 朝の家のお茶を、7 人でつくっていた。
…番号 121　90 歳（上仰木 女性）

■ どこの家でもお茶を作り、釜ではおじる匂いがした。　…番号 145　64 歳（上仰木 女性）

お茶の葉

■ お茶の葉の匂い。…番号 9　64 歳（平尾 女性）

茶摘み

■ 田植えが終わると新茶、番茶を作る匂いもした。
…番号 107　76 歳（上仰木 女性）

■ 5 月のお祭りが過ぎ、5 月の中ごろになるとお茶摘みが始まり、1 日お茶摘みの日として家族中でつみ、香りのよい新茶は本当においしかった。
…番号 168　77 歳（平尾 女性）

■ 5 月のお祭りが終わると茶摘みの時期が来て、家内中で 1 日茶摘みの日を決め朝早くから新茶を摘み、上茶に、後は番茶と一年中のお茶を作ったものでした。一番の新茶、新茶のお茶漬け、自家製のお茶は本当においしかった。
…番号 168　77 歳（平尾 女性）

蒸す

■ 番茶を蒸す匂い。…番号 4　62 歳（平尾 女性）

もみ

■ お茶をもむにおいがした。
…番号 157　66 歳（上仰木 女性）

煎じる

■ お茶の焙じる香ばしい香り、忘れられない。
…番号 30　年齢未記入（下仰木 性別未記入）

■ お茶を焙じる匂い。
…番号 126　75 歳（上仰木 女性）

■ 家で手作りしたお茶をほうじる匂い。
…番号 128　76 歳（上仰木 女性）

沸かす

■ 田で昼前にお茶を沸かす煙の匂い。
…番号 30　年齢未記入（下仰木 性別未記入）

水と氷

井戸水

■ 飲水は、井戸や川の水を、かい所でこして飲んでいた。　…番号 157　66 歳（上仰木 女性）

■ 中学校から帰って来る時、夏など下の方の家の井戸水をよばれ、冷たい水がおいしかった。
…番号 13　年齢未記入（下仰木 女性）

つらら

■ 冬、長い「つらら」を取って食べていた。
…番号 31　69 歳（下仰木 男性）

■ 屋根から昔のは長い「つらら」を折って食べた冷たさ。　…番号 78　67 歳（下仰木 男性）

酒

酒造り

■ 中には酒を造っている思い入がいて、大変いいにおいがして、子供ながらカメをのぞいた思い出がある。
…番号 12　71 歳（下仰木 男性）

甘酒

■ 甘酒もプンと麹の香りがして、おいしかったです。
…番号 8　62 歳（平尾 女性）

■ 家の中にあま酒の甘いにおいがした。
…番号 154　77 歳（上仰木 女性）

■ あま酒をつくっていたので、目がたつと、どぶろくのような匂いがした。
…番号 157　66 歳（上仰木 女性）

■ 甘酒のにおい。
…番号 178　68 歳（辻ケ下 男性）

カス汁

■ カス汁のにおい。
…番号 178　68 歳（辻ケ下 男性）

飲み物

ニッキ水

■ ニッキ水が、スリ鉢の入った木箱で売っていた味が忘れられない。
…番号 41　72 歳（下仰木 男性）

サラリン？

■ ジュースのかわりにサラリンをコップ 1 杯に 1 個入れていた。
…番号 155　年齢未記入（上仰木 性別未記入）

漬け物

漬け物のにおい

■ つけ物のにおい。
…番号 50　64 歳（下仰木 男性）

■ 漬物のにおいがした。
…番号 77　78 歳（下仰木 男性）

■ 漬物の臭い。
…番号 109　73 歳（上仰木 男性）

■ 漬物のにおいがしていた。
…番号 155　年齢未記入（上仰木 性別未記入）

ぬか漬け

■ どぼづけの匂い。漬物につる柿の皮を入れた漬物の匂い。　…番号 86　67 歳（上仰木 男性）

■ スイカ、マクワのつけもの。ぬかづけ。
…番号 38　74 歳（下仰木 男性）

■ 大根のおこうこ。
…番号 38　74 歳（下仰木 男性）

■ 漬物。特にたくわん漬け、白菜、ぬか漬けは今もよく作る。　…番号 88　64 歳（上仰木 女性）

■ お漬物に漬ける時に、ぬかと一緒に入れて漬けるとお漬物が甘くておいしいです。
…番号 176　74 歳（辻ケ下 女性）

浅漬け

■ どこの家でも牛づくりの漬け物、キュウリ、ナスの浅づけ。　…番号 38　74 歳（下仰木 男性）

あたか菜

■ 私は今でも、昔に食べた漬物（あたか菜）を自分で種をまき、菜を作り、漬物を作っています（めはり寿司）。　…番号 165　76 歳（上仰木 女性）

柴漬け

■ キュウリ、ナス、赤しそ etc が、よく採れたので、柴漬けに親はしていた。
…番号 78　67 歳（下仰木 男性）

梅干し

■ 梅干しの匂い（土用干し）。
…番号 50　64 歳（下仰木 男性）

四季いろいろ

■ 納豆も味噌も梅干しも漬物にした。自家の保存食として、四季・時期の香りがただよっていた。
…番号 168　77 歳（平尾 女性）

■ 各種の漬物（大根、蕪菜、山菜、キュウリ、タケノコ等の四季の味）。
…番号 183　69 歳（辻ケ下 男性）

おやつ

おやつ　いろいろ

■ おやつにかき餅、あられ、豆、トウモロコシ、ジャガイモ、サツマイモ、水あめも作って食べさして下さった。　…番号 130　74 歳（上仰木 男性）

■ 干柿で作った柿なます、たくあん漬、かしわめし、よもぎだんご、豆だんご。
…番号 18　73 歳（下仰木 女性）

■ 焼き芋、ズンゴイ、モシ、豆だんご（ねじりだんご）、ほら貝だんご、そら豆、5 色かき餅アラレ、鉄豆餅、よこみ餅、野いちご、いたどり、柳の花の蜜、わらび、ぜんまい、つくし、ふき　現代でも食べる。
…番号 21　75 歳（平尾 女性）

■ おやつは、おにぎりやお餅・もち（小麦粉をといてご飯を炊くときに上に置いたもの）など、炭水化物が多かった。…番号 27　63 歳（下仰木 女性）

■ 自家製力本餅・アラレ・炒り豆・生柿。
…番号 30　年齢未記入（下仰木 性別未記入）

■ おやつ代わりにスルメ、だし昆布、そら豆の炒ったもの等、を食べてた。
…番号 39　73 歳（下仰木 女性）

■ 私は生野菜のおやつはあまり好きでないので、おやつはあまり食べなかったような気がします。昔はお金もないし、今のがよく食べていると思います。
…番号 62　82 歳（下仰木 女性）

■ 昔ではおやつはないのが当たり前で過ごした。
…番号 149　83 歳（上仰木 女性）

丁稚ようかん

■ 祖母が竹の皮に包んで、丁稚ようかんを作ってくれた。その味がなつかしい。
…番号 17　61 歳（下仰木 女性）

寒天

■ 親はカンテンを作り、夏、アルミのべんとう箱で冷していた。
…番号 38　74 歳（下仰木 男性）

梅チョコ

■ 紙芝居屋の梅チョコの味。
…番号 76　年齢未記入（下仰木 男性）

アイスキャンディー

■ 暑い夏、チンチンとかねを鳴らしてアイスクリームを売りに来られ親に頼んで買ってもらいました。
…番号 8　62 歳（平尾 女性）

■ 堅田地区から川魚・アイスキャンディーを自転車で売りに来ていた。
…番号 67　61 歳（下仰木 女性）

■ 小学校低学年ごろと思う、夏休み中の出来事。日中は暑いためか、必ず昼寝をさせられた。ちょうど昼寝の終わりごろか、家の近くをアイスキャンディ屋さんが、チリンチリンと鳴らしながら氷箱に入ったキャンディーを買いにいくのだった。10 円 / 一本だったと思う。
…番号 113　66 歳（上仰木 男性）

■ 今みたいに冷蔵庫がない時代、アイスキャンデー屋さんが売りに来るアイスキャンデーを口に入れた時の冷たさが、なんとも云えず気持ちよかった。
…番号 80　63 歳（下仰木 女性）

思い出

■ 現在のように、何でも沢山美味しい物が豊富にありますが、昔は親が子供一人ずつに紙に包んで分けておいてくれました。それがとてもうれしく又楽しみであった。　…番号 96　69 歳（上仰木 女性）

住 1

火

おくどさん

■ おくど（竈）さんが3つ並んでいる。炊き口が3つある。真ん中は立派な釜だ。左は中蒸熱。右が人間湯用だ。すると真ん中は神棚用で飾り並だなあ。
…番号5　75 歳（平尾 男性）

■ 食事の用意は全部おくどさんだった。ご飯も お茶も 茶釜で。　…番号9　64 歳(平尾 女性)

■ おくどさんがどの家にも あった。
…番号33　60 歳（下仰木 男性）

■ 家におくどさんがあった。（ご飯たき、他）。
…番号50　64 歳（下仰木 男性）

■ ご飯やおかずを「おくど」さんで作っていた。
…番号75　66 歳（下仰木 男性）

■ 家の中におくどさんがあった。
…番号80　63 歳（下仰木 女性）

■ おくどさんの前で薪をくべて家族が一緒に火に当もっていた。　…番号80　63 歳(下仰木 女性)

■ 冬はオクドさんで薪を燃やしていた。
…番号117　71 歳（上仰木 男性）

■ 土間があり、大きな「おくどさん」があった。
…番号156　63 歳（上仰木 女性）

■ おくどさんの割木のパチパチ燃える音。
…番号4　62 歳（平尾 女性）

■ おくどさんで火を たき、パチパチと木が燃え、なんともあたたかかった。
…番号66　73 歳（下仰木 男性）

■ 冬の寒い時、おくどさんの前に座って暖を取っている時、薪の燃える パチパチとした音や 美味した海の匂、煮物の美味た音、ご飯がシューシューと湯気を出しながら炊ける音など。
…番号70　62 歳（下仰木 女性）

■ こな 笠（松の葉のかれた笠）。火の燃え始めにたきつけにする。
…番号176　74 歳（辻ヶ下 女性）

■ 家の中へ入ったら、テコボコだらけの土間。おくどさんに、お水を上げて手をあおす。上のおくどさんには茶釜がかかってある。家の中は煙で目が あけられない。　…番号14　74 歳(下仰木 女性)

■ 土間におくどさんがあって家の中が暖っていた。
…番号17　61 歳（下仰木 女性）

■ おくどさんが有り、近づくと、どの家にも沢の匂いがよくしていた。
…番号68　62 歳（下仰木 男性）

■ 土間のおくどさんで燃やす薪の匂い。
…番号58　64 歳（上仰木 男性）

■ 昔はよく雪が降もって、外で遊んで、手足が冷たく凍くなり、「おくどさん」で温まった。
…番号156　63 歳（上仰木 女性）

かまど

■ かまどがあった。その前でまきを焚いて暖をとった。　…番号148　66 歳（上仰木 女性）

■ 朝早く母親が、ご飯をかまどで炊く 後の燃える音。「パチパチ」。　…番号35　64 歳(下仰木 男性)

■ 農家は玄関を入ると、土間奥にかまどがあり、中心に大釜さん、大きな鍋が掛り、左には御飯用鍋、右には牛鍋が掛けてありました。
…番号1　79 歳（平尾 男性）

■ 火吹棒（かまどの前）でみんなが集り、暖をとり、又、お湯やかき餅を焼いて食べるのが楽しみだった。
…番号23　72 歳（平尾 女性）

■ かまどを囲んで、冬の夜　知人が来て話を楽しんだ。　…番号77　78 歳(下仰木 女性)

こたつ

■ パチパチ薪かい火を囲んで、家族であたりました。
…番号8　62 歳（平尾 女性）

■ 冬は豆炭こたつ、火鉢、かからこたつ。　夏はうちわだけ（冷風なし）。
…番号21　75 歳（平尾 女性）

■ 炭火のこたつの暖かさ。
…番号50　64 歳（下仰木 男性）

■ 掘り炬燵の中に、練炭に火を付けたものを練炭火鉢の中に入れ、机とこたつ布団をかけて片隅を開けておいて、しっかり燃焼したらお布団をおろして足を入れると、とっても暖かかった。　そして、夏になると穴を掘って、石ござなどを敷いて寝ごろぶと、冷やりと気持ち良かった。
…番号70　62 歳（下仰木 女性）

■ 暖房器具などはなく、冬は、火を燃やした後の炭をコタツに入れフトンに入れ現た。
…番号105　66 歳（上仰木 女性）

■ 陶器の炬燵の暖かい感触。
…番号160　64 歳（上仰木 男性）

■ 瓦コタツの温もり。
…番号184　80 歳（辻ヶ下 男性）

焚き火、煙

■ 火をたいたパチパチした音。
…番号49　71 歳（下仰木 女性）

■ 薪をたく独特の匂い。
…番号27　63 歳（下仰木 女性）

■ 焚き火の匂い。…番号33　60 歳（下仰木 男性）

■ 家の中の煙の匂い。
…番号33　60 歳（下仰木 男性）

■ 火を燃やす前のにおい。
…番号45　80 歳（下仰木 男性）

■ 家の中で火をたいて煙の匂い。
…番号49　71 歳（下仰木 女性）

■ 家の中の煙の匂い。
…番号50　64 歳（下仰木 男性）

■ 夕方になると煙の匂い。今でも鼻についている。
…番号64　年齢未記入（下仰木 性別未記入）

■ たき火のにおい。
…番号66　73 歳（下仰木 男性）

■ 炭の匂いがした。
…番号75　66 歳（下仰木 男性）

■ 家の中はたき火のにおいがした。
…番号112　62 歳（上仰木 男性）

■ 冬はどの家でも火で暖房をとっていたので畑のにおいがした。　…番号123　63 歳(上仰木 男性)

■ 今のような暖房器具がないため、焚き火をして暖をとった。　…番号39　73 歳（下仰木 女性）

■ 焚火で暖を取る手の温もりと背中の寒さ。
…番号98　64 歳（上仰木 男性）

火鉢

■ 外で遊んで手が冷めたくかじかんでも、火鉢しかなく寒かった。
…番号78　67 歳（下仰木 男性）

■ 火鉢の炭火がとても暖かく感じられた。
…番号148　66 歳（上仰木 女性）

いろり

■ おじいさんが火の守りをして、家族みんなでいた。
…番号153　62 歳（上仰木 女性）

■ いろりを囲んで皆を焼いて食べた。
…番号38　74 歳（下仰木 男性）

豆たんあんか

■ 夜は、「豆たんアンカ」を入れ、臭かったが暖かかった。　…番号31　69 歳(下仰木 男性)

■ 豆たんあんかは、あたかった。
…番号69　62 歳（下仰木 女性）

薪

■ 薪を燃やす音（パチパチ）。
…番号178　68 歳（辻ヶ下 男性）

■ どの家も、冬になると暖をとるのに薪をたいていた。　…番号27　63 歳(下仰木 女性)

いたきだ？

■ 一日中お湯が沸っていた（いたきだ）。
…番号91　72 歳（上仰木 女性）

水

井戸

■ 水道がない時代は、井戸水をくみて風呂や飲み水に使用しました。子供も水を運ぶ手伝いをさせられました。　…番号8　62 歳（平尾 女性）

■ 井戸でスイカかまくわ、又、御飯も冷やしていた。
…番号41　72 歳（下仰木 男性）

■ どこの家でも井戸があった。
…番号64　年齢未入力歳（下仰木 性別未記入）

■ 家々に井戸があった。
…番号75　66 歳（下仰木 男性）

■ 水道がなかったので各家に井戸があり、それを使っていた。　…番号126　75 歳(上仰木 女性)

■ 家では井戸が近所にあり、屋根の下にある井戸は飲み水に。外にある井戸は日常に使用の水としていました。　…番号168　77 歳（平尾 女性）

■ 朝一番に「ガラガラ、ザー」と井戸水をくむ音が、どの家からも聞こえた。
…番号127　69 歳（上仰木 女性）

■ 井戸水を汲む音。
…番号178　68 歳（辻ヶ下 男性）

■ 食事の後の洗いものは冬でも水でとても冷たかった。　…番号9　64 歳（平尾 女性）

■ 夏の井戸水の冷たさが気持ちよい。
…番号50　64 歳（下仰木 男性）

■ 夏は、井戸水が冷たかった。
…番号69　62 歳（下仰木 女性）

■ 川の水で、冬洗濯や野菜を洗った時のなんとも云えない冷さは忘れられない。
…番号126　75 歳（上仰木 女性）

■ 各家の井戸の水は夏は大変冷たくて、冬は水と思えないほどあたたかかった。
…番号128　76 歳（上仰木 女性）

■ 夏は井戸を利用した。麦茶等。
…番号172　71 歳（下仰木 女性）

■ 水についても、雲の大切な井戸も湧き出れ湧いている。「井戸水は使うほどきれいな水が湧いてくる」と聞いていた。夏に数回くらいスイカを冷やすことがある。　…番号168　77 歳（平尾 女性）

水車

■ 水車小屋（精米をする所）。
…番号93　71 歳（上仰木 男性）

■ 自分の家は人里はなれた 4 軒でした。全部水車がありました。米屋や製粉業でした。水車で 4 軒ともなくなりました。少々大きな雨ですと、石の流れる音などもしました。
…番号103　81 歳（上仰木 男性）

■ いたる所に水車があり、水車で玄米から白米にした。　…番号112　62 歳（上仰木 男性）

■ 水車で米を精米していたので、家から米俵（60 kg）をかつぎ、水車小屋まで歩いて行った。
…番号174　75 歳（上仰木 女性）

■ 米を白米にする（水車小屋）がいくつか、あった。
…番号177　88 歳（辻ヶ下 男性）

■ 水車小屋が三つあった。よく お米を石臼で粉ゼてふんだ。精米。…番号178　68 歳(辻ヶ下 男性)

■ 当時は傾斜地であり水車が 14 戸。水車のまわる音が聞こえた。…番号109　73 歳(上仰木 男性)

■ 家に水車があったので、一日中ザァーという水の音、ゴットンゴットンと水車の音を聞いていた。
…番号156　63 歳（上仰木 女性）

■ 夜でも水車のゴトンゴトンという音が聞こえとった。　…番号182　72 歳（辻ヶ下 男性）

井戸とつるべ

■ 井戸とつるべがあった。
…番号50　64 歳（下仰木 男性）

■ つるべ小屋。
…番号178　68 歳（辻ヶ下 男性）

■ 水を汲むつるべの音。
…番号9　64 歳（平尾 女性）

■ 井戸の水汲みのつるべの音。
…番号11　70 歳（下仰木 男性）

■ 井戸の水を汲む、つるべの滑車の音。
…番号23　72 歳（平尾 女性）

■ 井戸水を汲み上げる杵の滑車・釣瓶・ポンプの音。
…番号43　91 歳（下仰木 女性）

■ 水を汲むつるべの音。
…番号45　80 歳（下仰木 男性）

■ つるべで水を汲む音。
…番号49　71 歳（下仰木 女性）

■ 井戸のつるべの音（水をくむ時）。
…番号50　64 歳（下仰木 男性）

■ 井戸のつるべの音。
…番号53　67 歳（下仰木 男性）

■ 井戸から水を汲む時にまわる滑車の音。
…番号64　年齢未記入（下仰木 性別未記入）

■ 井戸水を汲む滑車に橋または バケツを結んで、バケツをひっくり返すようにして飲いをつけて家として、バシャと水が入ったら、カラカラと汲み上げる音。　…番号70　62 歳(下仰木 女性)

■ つるべを使って井戸水をくむ。
…番号83　67 歳（下仰木 男性）

■ タ方、つるべの音（水くみ）。
…番号126　75 歳（上仰木 女性）

■ 夏、夕方や朝には井戸の水を汲むつるべのガラガラポトンと音がした。
…番号133　69 歳（上仰木 男性）

■ 夏の夕方になると井戸から水汲むつるべの音が聞こえてきた　「キーカラ、カラ～」。
…番号141　63 歳（上仰木 男性）

■ 井戸水をつるべでカラカラとくんだ。
…番号154　77 歳（上仰木 女性）

■ 滑車のギィーギィーという音。
…番号159　71 歳（上仰木 男性）

■ 井戸水を汲み上げるつるべの音。
…番号172　71 歳（下仰木 女性）

洗い物（洗濯、野菜）

■ 野菜をため池で洗っていた。
…番号75　66 歳（下仰木 男性）

■ 昔は屋敷内の池でちょっとした洗い物、又、井戸でつるべやポンプ使用。
…番号78　67 歳（下仰木 男性）

■ 家のまわりに湧出があった。深池で洗い物をしていた。　…番号80　63 歳(下仰木 女性)

■ 川の水がきれいで、洗たく、野菜等も洗えた。
…番号126　75 歳（上仰木 女性）

■ 洗濯板の音。…番号178　68 歳（辻ヶ下 男性）

風呂

■ ほとんどの家が、風呂は薪を使っていて、煙突からは煙が出ていた。
…番号105　66 歳（上仰木 女性）

■ ゴエモン風呂を炊いて入浴した。
…番号112　62 歳（上仰木 男性）

■ 昔の風呂はゴエモン風呂又はクライで行水。
…番号129　70 歳（上仰木 男性）

■ 風呂を沸かす煙のにおいと、「ひとくべ燃やしましょか？」 保温の為の家族の会話。
…番号43　91 歳（下仰木 女性）

■ 薪で炊く風呂の匂いは、歯れを感り匂いであった。
…番号127　69 歳（上仰木 女性）

■ 幼いころ、夜父のひざにすわると、農作業のその日の匂いがした。お風呂に入るのはどの家でも 1 週間に 1 ～ 2 回位だった。（昭和 20 年頃）。
…番号127　69 歳（上仰木 女性）

■ 日暮れになると煙の匂い（風呂、食事用）。
…番号158　76 歳（上仰木 男性）

■ おふろと言えばこえもん風呂。ふちの鉄の部分に触ると熱かった。板の上にマッを乗って入った。
…番号82　年齢未記入（下仰木 男性）

行水

■ 夏の夜、小屋の軒にかぼちゃなどが提根まで上り、その陰で小供達は明るい頃でも行水をし、大人は暗くなってから入っていた。
…番号15　年齢未入力歳（下仰木 女性）

■ 大きなたらいで夏は行水をしました。
…番号41　72 歳（下仰木 男性）

■ 夏は庭で行水をした。今のシャワーの代り。
…番号50　64 歳（下仰木 男性）

■ 夏は行水をする家が多く、大小二つのたらいを置き、小さいほうのたらいでかから湯をして、大きい方に入った。　…番号135　79 歳(上仰木 女性)

■ 昔は お風呂がなく、夏は離れ場所で大きいたらいで汗を流した。…番号154　77 歳（上仰木 女性）

■ かぼちゃの棚の下で行水をした。
…番号172　71 歳（下仰木 女性）

■ 行水の音。…番号178　68 歳（辻ヶ下 男性）

■ 夏になると、どこの家も庭先で大きいたらいで汗を流しました。　…番号22　62 歳（平尾 男性）

■ タあびをして縁に腰ころがった時の気持ちのよさ。家はわら屋根、すずだらけの天井。
…番号77　78 歳（下仰木 女性）

■ どこの家も、風呂は 1 週間に 1 回だけ入った（燃料がいるから）。夏は家の前で行水をしたものである（クライに水を入れて入る）。そのため隣さもあった。現在のように家にはならなかった。平凡でなごやかな生活が流れていたものである。
…番号133　69 歳（上仰木 男性）

住 2

屋根（麦わら葺き）

■ 麦わら葺きの屋根から、昼食前に立ち上がる煙。そこにドのラジオの音。
…番号 13　年齢未入力歳（下仰木 女性）

■ 屋根葺きには、棟の先に 50ｃｍくらいの竹をくくり、わらを刺して、屋根のとこはうったのを覚えています。　…番号 24　80 歳（平尾 男性）

■ 昔は麦わら葺き屋根が半分位あった。
…番号 44　69 歳（下仰木 女性）

■ 麦わら屋根は、台風時に麦わら が飛び、穴が開き大変であった。…番号 47　76 歳（下仰木 男性）

■ 昔はわら葺きの屋根ばっかりやった。
…番号 71　76 歳（下仰木 男性）

■ 麦わらを作らなくては屋根が葺けません。
…番号 107　76 歳（上仰木 女性）

■ 屋根屋さんに来てもらうのも、毎い 7、8 月が多かった。　…番号 107　76歳（上仰木 女性）

■ 住まいは上仰木 300 戸、屋根瓦葺きが 24 戸で残りは草葺きであった。
…番号 109　73 歳（上仰木 男性）

■ 大屋根の上に小さい屋根（1.5 メートル程）、それを煙出（吹抜け）と云う。
…番号 124　76 歳（上仰木 男性）

■ 茅屋根（クズ家）の方が多かった。瓦屋根（ドド家）、ほとんどの家に茅打ち、ヨコスケ（木材）有り。
…番号 124　76 歳（上仰木 男性）

■ 雪が降ると寒いから中で火をたくので、麦わら葺きの屋根から煙が出て、どの家もあたたかそうだった。　…番号 125　71 歳（上仰木 男性）

■ 昔は麦わら葺きの家が多かった。
…番号 126　75 歳（上仰木 女性）

■ 屋根屋さんが、麦わらいっぱい束ねて、藁でしり取みたいな道具でかかをそろえてたたき、はさみで切って出来映えは良ければいやった。悪い出来。
…番号 130　74 歳（上仰木 男性）

■ 屋根のひさしに竹や、枕が入れてあった。過疎“竹垣”が少なくなった。
…番号 141　63 歳（上仰木 男性）

■ 自分の家は昭和 3 年に新築され、瓦屋根で、この時代には瓦屋根の家が数少なく、ほとんどの家が麦わら葺きの屋根であった。　其の後、麦わら葺きの屋根にトタンを張り、又、瓦葺と云って二階の部分を瓦屋根にされたものです。今も数十軒残っております。　下仰木公民館前の板田宏造様の住居は、今も麦わら葺きの屋根で頑かいい家です。
…番号 146　83 歳（上仰木 男性）

■ 麦わらの屋根はそは暖かく、夏は涼しい。
…番号 149　83 歳（上仰木 女性）

■ 麦わら葺きの家が多かった。瓦屋根の家は 4、5 軒でした。　…番号 173　73歳（下仰木 女性）

■ 麦わらで屋根を葺かれた時。きれいな風景。麦わらのにおい。　…番号 86　67 歳（上仰木 男性）

屋根　台風

■ 昔はわら葺き屋根が多く、台風などが通り過ぎた後は、道路や庭に飛び散り掃除がたいへんだった。
…番号 1　79歳（平尾 男性）

■ 台風が来ると、ほとん屋なので屋根の麦わらを飛ばされて後の片付けに困っていた。
…番号 176　74 歳（上仰木 女性）

■ 住まいは麦わら葺きの屋根であったが、藁は瓦屋根になっていた。台風の強風では麦わら屋根が今にも飛んでいきそうに、ふあ～～と浮んでいる様に見えて、子供心に恐かった。
…番号 179　63 歳（比 ケ 下 女性）

■ 現代のようにサッシではなく木の戸。台風になるとそれはそれは、ひじとひざが言うんで。ガタガタ ヒュウヒュウ　麦わら屋根のわら が飛び散ってた。
…番号 21　75 歳（平尾 女性）

トイレ

■ お風呂と便所が一緒だった。
…番号 14　74 歳（下仰木 女性）

■ トイレや下水のにおいがした。
…番号 11　70 歳（下仰木 男性）

■ トイレは家の入り口の横に。小用や風呂の流潮などあり人工等も多い。
…番号 25　99 歳（平尾 男性）

■ 水洗がなく、便所の匂い。
…番号 32　62 歳（下仰木 男性）

■ トイレの匂い。
…番号 33　60 歳（下仰木 男性）

■ 便所の汲み取りが各家で行われていた。
…番号 56　69 歳（下仰木 男性）

■ トイレが水洗でなく、家の人が畑に汚物をするとと２～３日ほど匂う。
…番号 60　69 歳（下仰木 男性）

■ 戦前までは、どの家も入口に「しょんべんたこ」という便所があったものでした。そこには竹で編んだかこいが立ててありました。夏になると、ハエがぶんぶんありました。
…番号 72　83 歳（下仰木 男性）

■ 今のように水洗便所ではないので、便所の肢時の匂い、でも、どこでもそんな匂いだったけど気になならなかった。　…番号 88　64 歳（上仰木 女性）

■ 汲み取りのにおいもした。
…番号 107　76 歳（上仰木 女性）

■ 下肥のにおい。糞、尿をたんこでかついで行った。
…番号 132　62 歳（上仰木 男性）

■ 水洗ではなく、排泄物は農家の貴重な肥料であって匂いました。
…番号 160　64 歳（上仰木 男性）

土間

■ 土間が土だったので、足の裏がきたなくなった。
…番号 152　64 歳（上仰木 男性）

■ 土間でかまどがあった。
…番号 171　74 歳（平尾 女性）

■ 土間の匂い。
…番号 33　60 歳（下仰木 男性）

■ 何処の家でも、土間の片隅に湿物部屋の匂がついた。　…番号 54　62 歳（下仰木 男性）

■ 大きな土間があり、家に入ると土のにおいがした。
…番号 112　62 歳（上仰木 男性）

牛

■ 昔の家は玄関より入ると土間があり、居間は殆んどの家は六畳の居間が人間から、農関の反対側には牛舎があり、朝なと行くと牛が顔を出して挨拶してくれることがどの家にも多く見られた。
…番号 25　99 歳（平尾 男性）

■ 家の中に牛小屋があった。
…番号 50　64 歳（下仰木 男性）

■ 玄関入ったところに寸屋があり、牛がいた。
…番号 171　74 歳（平尾 女性）

■ 牛小屋が家の中にあった。
…番号 177　88 歳（比ケ下 男性）

■ 牛に餌をやり、その後家族が食事についた。
…番号 54　62 歳（下仰木 男性）

■ 干草の匂（牛に食べさせたのか、牛小屋に敷いたのか？）。　…番号 4　62 歳（平尾 女性）

■ 牛のエサの麦を炊くにおい。
…番号 9　64 歳（平尾 女性）

■ 牛の煮物を炊くにおいがした。
…番号 49　71 歳（下仰木 女性）

■ 牛のエサの煮物のにおい。
…番号 53　67 歳（下仰木 男性）

■ 家畜におい、蚊を追い返そうとする「くすべ」の臭い。　…番号 109　73 歳（上仰木 男性）

■ 夏は牛小屋の前でよもぎをくすべて蚊よけしていた。　…番号 123　63 歳（上仰木 男性）

■ 夏場、干し草のにおいがした。（牛にちのエサとする為）。　…番号 170　65 歳(平尾 男性)

■ 牛糞で美を炊いた臭い。
…番号 181　68 歳（比ケ下 女性）

■ 牛のふんを馬屋で丸めて作ると言、ゆるゆるとした感触は今でも覚えている。作業した後はきがつるつるになった（きれいになった）。
…番号 133　69 歳（上仰木 男性）

縁の下のにわとり

■ 縁側の下にニワトリがいて、その前にはイモ穴があった。　…番号 141　63歳(上仰木 男性)

くすべ

■ 夏の夕方には、蚊遣いの煙がから屋の屋裏からもくもくと立ち昇っていた。
…番号 114　81 歳（上仰木 男性）

■ 夏の夜は、ヒ粉をくすべて蚊取り線香のようにした。けむたかった。虫の嫌がる匂いだったのだろう。　…番号 44　69 歳(下仰木 女性)

■ 防虫剤の代用として「モロザ」を米の精米あかとと一緒にくすべていた。強特の匂いあり。杉科又は針葉樹科又は不明。近くにあった。
…番号 92　70 歳（上仰木 男性）

■ 夏は蚊が多いのでくすべと云う事をしていました。　…番号 97　75 歳(上仰木 女性)

■ 夏には蚊取り線香の代わりに木っ粉をくすべた。
…番号 105　66 歳（上仰木 女性）

■ 蚤（クスベ）殺虫剤や蚊取線香の無い時代、火鉢に青い杉の葉を焼やし、煙を出して蚊遣りをしたものである。子供たちは目が痛くて外に出ていました。　…番号 184　80 歳（比ケ下 男性）

蚊帳

■ 蚊帳の中に入り楽しんだ。
…番号 30　年齢未入力歳（下仰木 性別未記入）

■ 夏になると、蚊帳を作って寝た。
…番号 108　60 歳（上仰木 男性）

■ 夏の夜は蚊帳を吊って寝た。
…番号 148　66 歳（上仰木 女性）

■ 麻の蚊帳の中で寝る。雪が嫌っても入る。
…番号 21　75 歳（平尾 女性）

■ 夏の夜は、どこの家も蚊遣香の匂いがなつかしい。そして、蚊が泣く声がそれさそ『ドーム』と聞こえた。どこの家も、生の水の葉を炊やし、煙を出して蚊を追い出し、そして、麻の蚊帳をつるして寝た思い出がある。　…番号 58　75 歳（下仰木 男性）

■ 夜寝るときは蚊帳をつるした。安心して寝れられたように思う。…番号 44　69 歳（下仰木 女性）

■ 夏は蚊帳を使用して寝るのが常で、蚊帳に入ると何となく涼しい感じもした。
…番号 54　62 歳（下仰木 男性）

■ 夏は蚊帳とうちわが必備品だった。
…番号 112　62 歳（上仰木 男性）

■ 夏は蚊帳をつって寝た時の何とも云えない香り。中にホタルも入れて遊んだ。
…番号 126　75 歳（上仰木 女性）

■ 夏は蚊がいるので蚊帳をつり、眠った（暑さ）。
…番号 149　83 歳（上仰木 女性）

■ 夏の蚊帳。…番号 184　80 歳（比ケ下 男性）

■ 夏場は、寝る時は蚊帳をつって寝た。
…番号 105　66 歳（上仰木 女性）

昔はなかった、昔は当たり前

■ 自転車が村中に数えるほどしかなかった。
…番号 30　年齢未入力歳（下仰木 性別未記入）

■ 住居の内部。家のひさしや専用の干し枯場所。
…番号 142　78 歳（上仰木 男性）

■ 時計はいつも柱時計。
…番号 38　74 歳（下仰木 男性）

■ 戸の開け閉めの音。
…番号 50　64 歳（下仰木 男性）

■ 牛力で動力荷車。
…番号 21　75 歳（平尾 女性）

■ 昔はガスがないので炭火で煮物をつくった。
…番号 131　71 歳（上仰木 女性）

■ シュロで作ったハエたたき。
…番号 153　62 歳（上仰木 女性）

■ 寝る時はかならず、クロロかっこうかい棒を忘れずにする事（ドアでは開く戸を締める事）。
…番号 141　63 歳（上仰木 男性）

暑さ寒さ

■ 子供の頃の家はすき間だらけの、風が家の中を通り毎日寒い思いをしました。
…番号 143　67 歳（上仰木 女性）

■ 昔は、障子を利用した家が多かったです。その紙の障子が破れると風が強い日はヒューヒューとなっていました。こんな名句があります。「秋風や　障子の穴が首を吹く」小林一茶。
…番号 118　58 歳（上仰木 男性）

■ わら葺屋根に出来るつららの冷たさ。
…番号 108　60 歳（上仰木 男性）

■ 冬の寒い日は手足がとても痛かった。手や足が割れて、あかぎれなど。　…番号 134　88 歳（上仰木 女性）

■ 冬は煙ぬきから、雪が入って来た。家の中へ寒さ。
…番号 149　83 歳（上仰木 女性）

■ 夏、昼間は暑かったが、夜になると草などの冷気で暑さを感じなかった。
…番号 180　62 歳（比ケ下 男性）

家づくり

■ ハウスの家が多くなった。
…番号 48　53 歳（下仰木 女性）

■ 昔の家等の建築の材料はほとんど材木であり、製材所で木を刷る音がたえずしていた。
…番号 74　66 歳（下仰木 男性）

■ 新築する時に使用するために、壁土の匂い。
…番号 35　64 歳（下仰木 男性）

電気

■ 5、6 才のころ電灯はなく、夕方になるとハシリ先のようにカワラケと灯芯に種油をそそぎ、台所から足次に上ってユオーて火をつけるのが私の役目でした。　…番号 72　83 歳(下仰木 男性)

■ 昭和 9 年ころから 8 ショウの電灯がつき、明るうてびっくりするのでした。
…番号 72　83 歳（下仰木 男性）

■ 電気が無かったのでランプの火でした。又、たき火で読書などしました。
…番号 103　81 歳（上仰木 男性）

■ 家の中が暗かった。
…番号 152　64 歳（上仰木 男性）

テレビ、ラジオ

■ テレビはあまりなくて、近所のある家に見せてもらいに行った。　…番号 9　64歳(平尾 女性)

■ 有線放送。　…番号 33　60 歳（下仰木 男性）

■ テレビがなかったので夜はいつもラジオを聞いていた。　…番号 90　73 歳(上仰木 男性)

■ 夏はテレビも熱しい。
…番号 21　75 歳（平尾 女性）

傾斜の立地

■ 土地柄 だんだんと傾斜になっており、家の一階と前の家の二階が一緒で、これはビックリでした。上の本道まで行くのに 10 軒程の家が建っている。恐らく何かない限り（あってはならないが）変わりないと思う。　…番号 96　69 歳（上仰木 女性）

地滑り防止

■ 地すべり防止のため、下方は石積で上方は竹やぶ、柿、びわの木を積え、中に家が建ってあった。現在は、石垣が ぼとんど・・・。
…番号 158　76 歳（上仰木 男性）

柿渋

■ 柿渋の製造。渋柿の青い時に収穫して、それをすり潰して壺に入れ、暗い場の下敷で２～３年保管しておくと柿渋が作れる。その製造過程での柿の腐った臭いは、とても酷かった。その柿渋は、漁具・農具・和紙等に塗れば、日持の様に強い深く、昔の長期保存には欠かせないものであった。
…番号 184　80 歳（比ケ下 男性）

こはい

■ 道端の家ですと天気が続くと「こはい」が上がるので、水撒きしないと「こはい」が家に入るくらいでした。　…番号 173　73歳(下仰木 女性)

燃料

■ 昔は燃料が木材だったので、どんな急斜面でも山の木が切れると材料置者に運んで枝をもらいに行き、持って帰ってツシ（屋根葺）に保存して、1 年間使うようにしていたものである。
…番号 133　69 歳（上仰木 男性）

しば小屋

■ しば小屋があったのでしばの匂いがした。
…番号 152　64 歳（上仰木 男性）

冠婚葬祭

結婚

■ “嫁入り”は夜が多く、提灯をつけて歩いて祭られたのを従く見に行った。
…番号 9　64 歳（平成 女性）

■「タルコロガシ」 集落内で結婚があると、披露宴の場所に少しのお祝い金で一升ビンに、そえて、こっがし、お酒をいただきました。青年会の行事の１例です。
…番号 22　82 歳（平成 男性）

■ 嫁入りがあると必ず見に行って、節分の日にあると豆を食べながら見に行った。
…番号 106　72 歳（上仰本 女性）

■ 夏でも冬でも葬式、結婚式の行列を見る事が多かった。　…番号 141　63 歳（上仰本 男性）

■ 地域の人に死者が出ると、地域各戸から金額は関係の度合いで異なっても香奠を持ってお悔やみに行くことが、当然の事として現在も行なわれている。たとえ独りになり貧しくても、孤独死など考えられぬ、ありがたい仕来たりのお国であり、仰本住民の心の健かさを強く感じさせられる。
…番号 185　88 歳（平成 女性）

葬式

正月

しめ縄作り

■ 冬、しめ縄作り。これはいつまでも忘れない。
…番号 82　年齢未記入（下仰本 男性）

餅つき

■ 正月前になると、どこの家でも餅をつく音がした。
…番号 16　67 歳（下仰本 女性）

■ 年の暮れやお祭りになると、近所の家から餅つきの音が聞こえた。
…番号 63　年齢未記入（下仰本 女性）

■ 年末はどこの家でも正月用の餅つき。一家総出で朝早くからペッタンコペッタンコ楽しかった。
…番号 88　64 歳（上仰本 女性）

■ 年末、新年を迎える為、お餅つきの音。
…番号 98　64 歳（上仰本 男性）

■ 正月前はどこの家からも日でつく餅つきの音。
…番号 126　75 歳（上仰本 女性）

■ お正月の餅つきの音。
…番号 132　62 歳（上仰本 男性）

■ １２月３１日ビの家でも餅をつく音がした。
…番号 161　86 歳（上仰本 男性）

■ 餅つきの音（年末）。
…番号 178　68 歳（辻ヶ下 男性）

■ 餅つきの音。年末頃は特に全戸より。
…番号 183　69 歳（辻ヶ下 男性）

かき餅

■ 正月に餅をついて、干してかき餅にして焼いて食べた。今でもあるがうるち米を入れたり、あめを入れたりして食べた。大変おいしかった。
…番号 133　69 歳（上仰本 男性）

どんど焼き

■ お正月、どんど焼きで食べた焼餅。
…番号 98　64 歳（上仰本 男性）

信仰

仰本祭り（泥田祭り）

■ 泥田祭、昔はよく雨が降った。
…番号 53　67 歳（下仰本 男性）

■ 祭りの太鼓の音。
…番号 25　99 歳（平尾 男性）

■ 太鼓の音は今よりもよく聞こえた。その音を人々は楽しんだ。
…番号 77　78 歳（下仰本 女性）

■ 今も昔もやっぱり祭りの太鼓の音。
…番号 90　73 歳（上仰本 男性）

■ お祭りには、どこの家もヨモギ餅をつき、アンコも外からつけて独特の風味で、近在の親戚知人に届けれていた。（祭りの前日、宵宮）。
…番号 58　75 歳（下仰本 男性）

■ 仰本祭は仰本農大行事であり、仰本鎮げての結の神神を駆使して、毎年続けて行なわれてきたものであり、平成 20 年 10 月 19 日、御鎮座 1150 年の式年祭が盛大に執行されたのである。仰本の人々の誇りであり活力の源であったと思う。
…番号 185　88 歳（平尾 女性）

相撲大会

■ 昔（昭和 27 年頃）は、仰本小歌に愛われているように草相撲が盛んで、豊岡稲荷神社の例祭（毎年 9 月 8 日）近隣の町から大勢の青年が参加して、盛大な相撲大会が催され、演芸も出て、晩には提灯の明りで盆踊りが行なわれ、大変賑やかな大会であった。
…番号 40　82 歳（地区未記入 男性）

■ 神社や稲荷神社でお相撲がよくあった。
…番号 60　69 歳（下仰本 男性）

■ 50 年位前、下仰本稲荷神社で「相撲大会」が毎年あり、賞品も出た。
…番号 78　67 歳（下仰本 男性）

獅子舞、太神楽

■ ししまい、だいかぐらが来た。
…番号 33　60 歳（下仰本 男性）

その他

■ 祭礼、お盆、寺参りを ふれる小使さんの声。
…番号 53　67 歳（下仰本 男性）

■ 盆や正月、祭りの何日か前になると、百姓の香水の匂いがした。　…番号 56　69 歳（下仰本 男性）

■ 私は女手がなかったので、お正月、祭、お盆にお客さん来てもらうのが大変でした。今は楽ですけれど、その頃は娘手伝りでしなくてはならなかったので大変でした。
…番号 62　82 歳（下仰本 女性）

盆踊り

■ お盆になると、上仰本から下仰本までゆかたを着て盆おどりに行った。　…番号 23　72 歳（平尾 女性）

■ 盆踊りがあると、友達とあちこち、踊りに行った。
…番号 91　72 歳（上仰本 女性）

■ 子供の頃、夕方、行水をし、ポンポン（シッカロール）を白い顔とつけ、ゆかたに着替え盆踊りによく行った。さらりとして気持ち良かった。
…番号 127　69 歳（上仰本 女性）

■ 夏の夜、8 月始めから 8 月終わりまでは江州音頭の踊りが大変盛んであった。音頭取りに合わせて、踊り子が何回にも転がり出来、「そらよーいとよいまかどっこいさのせー」と深夜まで踊いた。
…番号 58　75 歳（下仰本 男性）

■ 夏は盆踊りがよく あって 音頭の音がした。
…番号 126　75 歳（上仰本 女性）

■ 仏様に各家がお参りするリンの音。
…番号 178　68 歳（辻ヶ下 男性）

■ 盆踊りに下駄をはいている人が多く、カチカチ、カランコロンと涼しく感じた。
…番号 135　79 歳（上仰本 女性）

■ 盆踊り。四ヶ村中の神社寺で、踊りの結に下駄がペッちゃんこになるまで。ゆかたが汗びっしょりだった。
…番号 21　75 歳（平尾 女性）

■ 松明を持って携川まで盆踊りに行った。
…番号 33　60 歳（下仰本 男性）

地蔵盆

■ 地蔵盆前日に、川へ小石を拾いに行って、地蔵さんを飾った。　…番号 13　年齢未記入（下仰本 女性）

■ 地蔵盆の時、子供だけで小さなかまどをつくり、小さな鍋をかけ、そこでどうもろこしを ほぐして 炊いた味。　…番号 13　年齢未記入（下仰本 女性）

■ 地蔵盆、子供みんなでなんばはでべ。甘い味。
…番号 65　年齢未記入（下仰本 性別未記入）

■ 地蔵盆になると、お地蔵さんの前で松の木をこまかく刻って、それを焼やしてその火でとうもろこしを焼いて食べた。　…番号 80　63 歳（下仰本 女性）

■ 地蔵盆。　…番号 53　67 歳（下仰本 男性）

お地蔵さまの信仰

■ ほとんどの家々にはお地蔵さまが祀られており、町内や野路々々にもあちこち見かけられる。安部野も仰本とよく似た所があるが、それだけでもくがやすらぎ幸せを感じさせられる。成安造形大学の学生さんたちによる地蔵プロジェクトのお蔭で一層深くなくそのありがたさを感じるようになり、子どもたちにいたるまで仰本の人々の大きな心の支えとなっている。
…番号 185　88 歳（平尾 女性）

餅・ミカンほり

■ 神さんの餅・ミカンほり。
…番号 53　67 歳（下仰本 男性）

■ 神社、お稲荷さんのお祭りには、餅やみかんをお参りのお宮にふるまったり、餅まきがあった。
…番号 60　69 歳（下仰本 男性）

すのう（収納）

■ 実家は門徒だったので、報恩講の前日、「おしょぼん」の餅つきを嫌いうちから親戚が集まりついて、配っていた。新聞紙とあんこう餅、あちこちの家からその年が開こえてきた。12 月の収納もその一つで、べったんべったんのその早さと餅の味はやでもどのお餅よりもおいしいときされている。
…番号 179　63 歳（辻ヶ下 女性）

■ すの頃で頂く塩味のあずき餅。なつかしいです。
…番号 8　62 歳（平尾 女性）

■ 昔、すのの祭、塩味の餅。
…番号 16　67 歳（下仰本 女性）

■ お餅（すのうの時の）。
…番号 147　87 歳（上仰本 女性）

湯立祭

■ 天の山の八坂神社で湯立祭が行われ、金澤に巫女さんが招待を注ぎいれ、舞てその場を熱ねBBはし「湯が かると病気をせん」とか云うて湯がありがたがって頂るのであった。釜に余った湯はやかん等にもらって帰り、「今に炊きすと病気せしょうらん」と云うて、炊煮ってもらってきたものであった。そして家族の者もいただいたのであった。
…番号 72　83 歳（下仰本 男性）

ヌシ（青ヘビ）

■ 半分以上の家にはヌシ（大型青ヘビ）がおり、春～秋には時々姿を見せていた。家の新築時には在所の村民がお祝して、蔵集の手助けをした。当家は酒等を出し、おもてなしした。
…番号 74　66 歳（下仰本 男性）

元三大師

■ 毎年、比叡山の元三大師様、９月３日には夕方より夜お詣りをしていました。上仰本から お山まで数珠つなぎの人で、夜は踊りがあり、夜遅く皆一緒に帰ってきました。　…番号 168　77 歳（平尾 女性）

■ 比叡山延暦寺・元三大師のお陰元で深いつながりの歴史を持ち、また昨一の式内社小椋神社の加護を受け、人々は厳身的な奉仕を行い、生活とのむすびつきを深め、心のよりどころとして喜びをもって暮らしてきた。本当に仰本住民の幸せをあつかたく感謝している。
…番号 185　88 歳（平尾 女性）

信心

■ 塩田と仲間づくり、手織りの材料の一部を京都でと購入を兼ねて お国りをした。一度まりでしたが近所、隣組の主婦の先輩さんたちと（6 ～ 7 人）京都の鞍馬寺へ。2 月の初寅に電車り、歩いて大原三千院を超え、そこからが家々、、芝居を越えいろいろおしゃべりしながらやっと昼前には本殿に腰かいかず汗をいただいた思い出があります。帰りは電車列車で帰宅し、又お国りさしていただこうと思っていた。
…番号 168　77 歳（平尾 女性）

■ 神・佛崇敬の念が大変深い。時代は変わり人の心も大きく変化しつつあるが、仰本の人々の神佛崇敬の念は千年の昔から受け継がれて、習性のようになって、今も受け継がれていることに驚きと喜びを感じる。何があっても神事・仏事に関することは第一に大切に取り扱い、他の事はその次になっている。こんな強心深い住民の姿は、珍しのではないだろうか。
…番号 185　88 歳（平尾 女性）

結・村組織・コミュニティ

協働

結

結の心

■ 結の気持を助け合いの場が多く、年上も年下の人もよく家り合い、顔と顔を言える場がたくさんあった。特に家を建てる時には１００～２００人も手伝い、会話がふった。・・・番号７　67 歳（平成 男性）

■ 家でよく油やみそ、顔を作った。水のない頃はちらいかをして、おたいが仲良く、思い遣り遣はれ、みんなが助け合って結の心で生活をしていたものである。・・・番号１３３　69 歳（上仰木 男性）

■ 誕生日自的の中で調節の手いた時柄が、一人では出来ない事をいつしか助け合って、みんなの力を合わせて協力しあって立派して、きょいい心精神が培われていったのではないだろうか・・・・・・・・・番号１８５　88 歳（平成 女性）

■ 仰木には婚儀の際、死者の地域の戸から それぞれ結ばりりによって音頭を持って用いに行く事が、貧から現在も仕来たりとなって行なわれている。出家を掛けは、「どんな境遇になっても嘆う人がいなくて も野僧が出来ない事のないように、みんな平和からお互いに助け合って、安心して死んでいけるように、周囲近隣人で心配のいらないように」という結びい結の精神から生まれてきたもの。１０００年以上も変わら ぬ人々の調和い世界の一つ。習慣のようになって結 いている。現かいた地域の風俗しっかに深の下の 思いである。・・・番号１８５　88歳（平成 女性）

■ 食地域の情報・神事は中、主要行事の年の手入れ、道路改修工事、生活行事すべてゆいの事化によってなされて来た。家の新築、建新などもまさゆいであった。・・・番号１８５　88 歳（平成 女性）

農作業

■ 昔、田植えはゆいで大型で手間えもしていた。・・・番号１３３　67 歳（上仰木 男性）

■ 昔の田植えは、全部手で植え、まっすぐになる様に縄で引っぱって植えた。親しい人たちが大勢で植えた。用の時代は足ていいを見て行った。・・・番号１４５　64 歳（上仰木 女性）

■ 農繁期、楽しげな笑い声をあげながら日へ急ぐかりう家の嫁入源の会。種をかがめた田植の中笑もみんなでやれば仕事もはずむ楽しい風景だった。・・・番号１８５　88 歳（平成 女性）

■ 田植え休みの日は、愛守さんが「オーイ 田の衆、明日、あさっては田植え休みじゃ」と言って ご飯を食べていると町内を走って知らせていた。今は回覧で知らせている。・・・番号１３５　79 歳（上仰木 女性）

■ 農繁期の田植え・稲刈りともなれば、毎日のように計画をたて、お互いの田に出かけ、助け合って大勢の力で一気にアップでしまう。その頃の朝田は人々のゆいでにぎわい、笑い声、話し声がひびき、楽しい活気にみちた雰囲気に満ちあふれていた。今は回覧をゆいで知らせる。夜間していった。今は人達のすばらしいゆいの活用だったのではないだろうか。・・・番号１８５　88 歳（平成 女性）

■ 田んぼの仕事や忙しき、もちつき など農続と結（ゆい）でやっていた。仰木地区は広いゆい百から語の生活が語れたった。・・・番号５０　64 歳（下仰木 男性）

自治制度

■ 仰木の一番の特徴は、自治以前より続く伝統半信の自治制度であり、この制度により仰木地区は確固たる自治体制がやでも保たれている。・・・番号２５　99 歳（平成 男性）

墓地

■ 春秋の彼岸には各組の道路修理しました。・・・番号２２　82 歳（平成 男性）

その他

■ 皆苦しくても楽しかった。・・・番号３８　74 歳（下仰木 男性）

屋根葺き

■ 生のしばまの屋根葺が昔は有て 乾燥し、屋根の雨替えに当面だけでは不足なので古いにかやり合って使い、結（ゆい）をしていました。・・・番号３４　74歳（下仰木 女性）

■ 屋根の葺き替えの時は親類や近所の人と結（ゆい）して、大勢でした。・・・番号６３　年齢未入力 歳（下仰木 女性）

■ わら葺き屋根の屋根葺き、みんなで一黒になっていた。・・・番号６６　73 歳（下仰木 男性）

■ 何人かの親類近隣達人が集まって、ユユで賑やかになりながら楽で面白れた良きゆって屋根の葺き替えをされていた。・・・番号１２７　69歳（上仰木 女性）

■ 結婚の人が出ると、いそがって屋根葺きをしたものです。休憩の時はおにぎりがおいしかった。四ハコはんに差ゴマでお和ごりと、かしわ入りの大きな三角おにぎりでした。・・・番号１３３　69 歳（上仰木 男性）

■ 葺わるがれると、屋根の葺き直しをして、結で近所助け合って屋根をした。葺わる屋根ゆこっくる 下、秋見る前。・・・番号１７２　71 歳（下仰木 女性）

火の用心

■ 火の見やぐら。・・・番号７９　60 歳（下仰木 男性）

■ 半鐘。・・・番号７９　60 歳（下仰木 男性）

■ 冬の夜、「火の用心」の拍子木の「チョンチョン」という音。「ご苦労様」「はい、はい」という声。・・・番号１３３　年齢未記入（下仰木 女性）

■ 夜、下仰木１周まわる火の用心の拍子木の音がしていた。・・・番号１８　73 歳（下仰木 女性）

■ 火の用心番回り・・・番号２１　75 歳（平尾 女性）

■ 夜廻りの拍子木の音が聞こえたっと。・・・番号２６　71 歳（下仰木 男性）

■ 夜、火の用心の拍子木の音がしていた。・・・番号３１　69 歳（下仰木 男性）

■ 火の用心、チョンチョンという夜回りの拍子木の音と声。・・・番号４３　91 歳（下仰木 女性）

■ 火の用心夜回りの拍子木の音が聞こえた。・・・番号４６　66 歳（下仰木 男性）

■ 火の用心拍子木の音。・・・番号５３　67 歳（下仰木 男性）

■ 冬の夜は子供たち数名がグループで町内をその用心廻りをし、拍子木の音と子供達が声をそろえて「火の用心」と連呼する ていた声が今も思い出される。・・・番号５８　75 歳（下仰木 男性）

■ 夜は夜廻りの拍子木の音と火の用心の声があった。・・・番号６０　69 歳（下仰木 男性）

■ 火の用心の拍子木の音、チョンチョンチョン。・・・番号７３　76 歳（下仰木 女性）

■ 火の用心に回った音。・・・番号８４　75 歳（上仰木 女性）

■ 年末には火の用心の夜まわりの拍子木の音。・・・番号１０５　66 歳（上仰木 女性）

■ 当番が来ってくると、子供が拍子木を たたいて、火の用心の声を年末人かのグループで 回っていた。・・・番号１０６　72 歳（上仰木 女性）

■ 学校の冬休み期間中に拍子木を打ちながら夜回りをしていた。「火の用心」と叫んだり、たまに「開閉いてる家閉くな」と言った。・・・番号１４２　78 歳（上仰木 男性）

■ サイレンは半鐘の替だった。・・・番号１４７　87 歳（上仰木 女性）

■ 子供達は夕方に「火の用心」と、拍子木を鳴らしながら町内を廻りました。・・・番号１７２　71 歳（下仰木 女性）

子ども社会

子ども社会

■ 上の者は下の子供を守り、子供達を教えてくれた。下の子は それを見て、新参者 (年) を 自 (年) 知って、生きる 強さを 身 に つけた。・・・番号３８　74 歳（下仰木 男性）

■ 子供なりに 自 (年) 治 (年) 的 な 集 (年) 団 (年) 生 (年) 活 (年) が 出 (年) 来 (年) ていた。 老 (年) 人 (年) 、 助 (年) け (年) 合 (年) い (年) 。・・・番号３８　74 歳（下仰木 男性）

■ 子供たちは大きい子もかさい子も一団となって グループになり、団いずを助け世気にかかり、小さな子供を かばうなどの 思 (年) い (年) 遣 (年) り (年) 。・・・番号３８　74 歳（下仰木 男性）

■ 先輩に色々と教わり社会を学ぶ。礼儀も教わった。・・・番号３８　74 歳（下仰木 男性）

■ 同級生も下級生も一緒になって。・・・番号２７　63 歳（下仰木 女性）

お手伝い

■ 飲みみは、井戸、ガッチャン、ポンプ。風呂の水は、つるべ、パケツ。学校帰 る 子 供 の 仕 事 。 薪 に な る こと と 井戸水が足りなくなりもらい水（バケツ）。・・・番号３４　74 歳（下仰木 女性）

■ 屋根瓦に乗っ ら を 保 存 する の に、 雨は屋根瓦に上り、子供のもんぜ は せ り 手伝っていた。・・・番号３４　74 歳（下仰木 女性）

■ 昔はどの家も土間で「おくど」さん和り かまどに前をくべるのも子供がよく手伝った。わらで編んだ炊手が出て 来 て、 を 結 構 ひ (年) ち (年) ら (年) ど (年) ん (年) だ (年) 。・・・番号７８　67 歳（下仰木 男性）

■ 郷木は干し柿の産地。秋の農繁が終わりのころ、ぶなやマメ入 (年) れ (年) の (年) 作 (年) 業 (年) を (年) 手 (年) に (年) な (年) ぞ (年) ら (年) せ (年) 作 (年) 業 (年) を (年) 手 (年) 伝 (年) っ (年) て (年) 、 (年) 子 (年) 供 (年) た (年) ち (年) は (年) 楽 (年) しんでいてもらいました。・・・番号１１３　66 歳（上仰木 男性）

■ 夕方になると、井戸から水を汲み上げて瓦 の 所 に 運 び ま し た 。・・・番号１１３　71 歳（下仰木 女性）

■ 小学生くらいの時は、山の中に炭を取り に入り、急斜面の山道がないこと も 、 枝 を 持 っ て 下 り な ど の 手 伝 い を し た 。・・・番号１７４　75 歳（上仰木 女性）

■ バケツで水をくむ重たさ。・・・番号１５９　71 歳（上仰木 男性）

■ 昔は林戸水を飲むのに、つるべで汲み上げた。その時の音の 音 「 (年) ぶ (年) ち (年) ゃ (年) (年) ぶ (年) ち (年) ゃ (年) 」 の 様 な 音 に な る 水 汲 み を した。 と (年) (年) (年) 。・・・番号１７５　71 歳（下仰木 女性）

■ 山へ行き、水のクスを刈 に かついで帰り、お フロ などの燃料にした。・・・番号７４　66 歳（下仰木 男性）

■ 1 年 中 、 水 は 川 の 水 を くみ に 行 った。 しんどい。・・・番号１１３　63 歳（上仰木 女性）

■ 小学 5 年頃、戦争の 中 学 三 人 を 学 ま り、 寝 て いる 間に 寝 前 を して、一人は 背 負 っ て、 二 人 は 手 を 引 いて、 泣 く 子 を 背 負 い ま し た 。 ま (年) (年) (年)

遊び

自然の中

夏

水泳

■ 夏は川をせき止めて、水泳をしていた。
…番号115　71歳（上仰木 男性）

■ 川をせき止めてみんなで泳ぐ場所をこしらえたりした。大きい石からかさい石まで水の流れを食いとめる様にしてなるべく深く水がたくさんたまって泳ぐところを少しでもふかく。
…番号175　71歳（下仰木 女性）

■ 営さんの川に石を集めて堰を作り、それをプールと称して泳いでいた。水の冷たさはすぐに慣れ寒くなる程だった。　…番号5　75歳（平尾 男性）

■ ゴム草履をはいて川へ泳ぎに行き、川へそのまま入り、草履を流して大騒ぎになる事多し。
…番号141　63歳（上仰木 男性）

■ プールがなかったので川で兄弟で行って泳いだ。水がとても冷たかった。
…番号145　64歳（上仰木 女性）

■ 夏季が近づくと、早い時期から子供達が各自ワラを持ち寄ってつけかをせきとめ水泳をした。楽しかった。　…番号151　74歳（上仰木 男性）

■ 川で泳いだ。…番号41　72歳（下仰木 男性）

■ 学校にプールがなかったので、川を堰止めて深みを作り、皆で泳いだ。
…番号102　66歳（上仰木 男性）

川遊びいろいろ

■ 私達が子供の頃は、夏休みプールがないので、川を堰き止めて作ってもらった所で水泳をしたり、手拭やタオルでメダカやカニを取ったりして遊んだり、家の小さい池で糸にするめをつけてザリガニ取りをした。昔は年長・年少の子供が一緒になって遊んだ。　…番号70　62歳（下仰木 女性）

■ 小学生の頃、川をせき止め泳いでいる時、水色の袴に胸を立てキャラシキャラシと鐘を鳴らしながらアイスキャンディー売りがあたら、急いで泳ぎをやめ買いに走ったものだ。当時1本5円だった。
…番号156　63歳（上仰木 女性）

■ いつも夏は川遊びをし、をはいろうばたにいたが、おじいさん、おばあさん優先だった。
…番号144　67歳（上仰木 男性）

水遊び

■ 夏はプールがないために近くの川でよく水遊びをした。　…番号60　69歳（下仰木 男性）

■ 川に行ってよくみんなと水遊びをした。
…番号87　55歳（上仰木 男性）

■ 夏休み中、仰木の川で、ムシロや木を集め川を堰き止め、その度ワで水浴（今思うと深水 30 センチくらい）、寝つくりを手伝ってくれる親、田んぼに水が必要な時期のため清す親なと色々いた。川遊びもしながらそのスモモを剪ってとって食べていた。　…番号113　66歳（上仰木 男性）

■ ムツ釣りをする小川を南下に見ながら森の中の道を歩き、湖の地図のある間望地を小一時間かけて、琵琶湖の見える温野厨に行くことが時々あった。それが1番近い遊びっこだった。駅田方面は中学校にかようようになってから行くことになったが少し遠い所だった。　…番号144　67歳（上仰木 男性）

■ たらいの中に浮かべた船がベコベコと揺りながら走った。　…番号29　68歳（下仰木 男性）

■ 子供のころ、暑い時、川で水浴びで遊んだ。気持ちよかった。　…番号16　67歳（下仰木 女性）

■ クライに水を入れてもらって水をかぶってみんなと水てっぽうした。
…番号87　55歳（上仰木 男性）

■ 川辺でいたどりなど食べた。太いいたどりで水車を造り、川で遊してあそんだ。
…番号134　88歳（上仰木 女性）

■ プールなどなく、川で泳いだ。泳ぐというより、もぐったり、水遊びをした。
…番号17　61歳（下仰木 女性）

■ プールがなかったので川をせき止めて水遊びをした。　…番号106　72歳（上仰木 女性）

■ 蛍つかみに川へべりに行った。
…番号106　72歳（上仰木 女性）

水泳と食べ物

■ 夏に山小川で水を留めて泳いだり、スイカなどを冷やした。　…番号74　66歳（下仰木 男性）

■ 子供のときプールがなく川のたまりで水泳をして、帰りに畑でなすびを失敬して食べた。
…番号29　68歳（下仰木 男性）

釣り・網

■ 子供は山中川が遊び場.魚釣りを良く行きました。
…番号8　62歳（平尾 女性）

■ 魚を捕まえるために皆ランニングシャツを脱ぎ囲いを作って捕えた。捕えた後は煽ん坊。それよりも魚を捕えた喜びが大きかった。
…番号5　75歳（平尾 男性）

■ 梅雨時になると大雨の後、川から田んぼに鯉や鮒、なまずなどが上って来たので、網を持って捕りに行った。　…番号102　66歳（上仰木 男性）

魚つかみ

■ 川でよく泳いだり、めだかつかみをした。
…番号9　64歳（平尾 女性）

■ 天神川上流の情緒のあるせせらぎでよく魚がつれた（現在コンクリート三面張り）。
…番号100　68歳（上仰木 男性）

■ 夏休みにはいつも川へ泳ぎに友達と行った。川はきれいでした。石をのけると手の下に魚がいた　魚をつかんだり釣ったりして遊んだ。
…番号173　73歳（下仰木 女性）

■ 夏は川で水泳、魚つかみ（アユ・ゴリ・ムツ・ハイ・ハヤ）。…番号38　74歳（下仰木 男性）

■ 川での水泳、手づかみでの魚捕り。
…番号15　59歳（下仰木 男性）

■ 昔の川は、ウロンクがあり、魚を手でつかんだ時の感触が何とも言えなかった。
…番号32　62歳（下仰木 男性）

■ 夏の水のジゃい時に川で魚の手つかみをし、ヌルヌルが気持ちよかった。
…番号123　63歳（上仰木 男性）

■ 川の中で素手で魚をつかみに行った。
…番号151　74歳（上仰木 男性）

蝉とり

■ ビワの木に登って蝉を両手で掴って木から落ちたこと。　…番号158　76歳（上仰木 男性）

虫とり

■ 夏休みには早起きをしてせみとりやかぶとつかみ等によく行った。…番号61　74歳（下仰木 男性）

蚊帳

■ 蚊帳を吊るして寝ていてその中で暑れたりふざけて遊んだりもした。
…番号41　72歳（下仰木 男性）

床几（しょうぎ）

■ 子供の時、木のかげで床机の上で将棋やそうり付りをした事がなつかしいです。
…番号165　76歳（上仰木 女性）

映画

■ 運動場でバックネットに映された映画を立ち見をした。　…番号21　75歳（平尾 女性）

冬

竹スキー

■ 男の人は手大工で竹のスキーを作ってよくすべっていた。　…番号91　72歳（上仰木 女性）

■ 雪の降った時、竹でスキーを作ってもらい坂道をよくすべった。
…番号181　68歳（辻ヶ下 女性）

■ 雪が積った時に割った竹でスキーをつくり坂道をすべって あそんだ。
…番号102　66歳（上仰木 男性）

■ 竹スキー。　…番号53　67歳（下仰木 男性）

■ 雪が降った日、青竹を半分に割り、先に穴であぶり、平らにしてスキー板を作り、坂道で滑った思い出。　…番号54　62歳（下仰木 男性）

■ 坂に雪を集めてけスキーで滑り、後そのままにしておいたため、大人の人に怒られた思い出。
…番号98　64歳（上仰木 男性）

竹スキー、ソリ

■ 竹でスキーやみかん箱を乗せてソリを作ってもらった。　…番号17　61歳（下仰木 女性）

■ 雪が積ると竹を割ったスキーを平作りしたり、わらを民の下にしいて坂道で遊んだ。
…番号41　72歳（下仰木 男性）

ソリ

■ 冬になると手造りのソリに乗って坂道で遊んだ。
…番号151　74歳（上仰木 男性）

つらら

■ 冬場、水車小屋に米ふみに行き、水車小屋の側の笹につららが出来てその笹を切って振り回していた。とてもきれいでした。
…番号34　74歳（下仰木 女性）

氷遊び

■ 昔は池に氷がよく張っていたので、その氷の上を歩いて遊んだ。そしてよくころんで氷の冷たさや痛さが今も忘れられない。
…番号68　62歳（下仰木 男性）

■ 中学校の堺りに池（今はない）に氷が張っていて、その上に乗って遊んだことがある。今よりずっと寒かったと思う。…番号102　66歳（上仰木 男性）

火遊び

■ 冬場は野小屋にもぐり込み遊んだ。たまには火あそびもし、小屋が焼けたことも ある。
…番号12　71歳（下仰木 男性）

れんげ畑

■ 田んぼやれんげ畑で遊んで気持ちよかった。
…番号99　64歳（上仰木 男性）

ブランコ

■ 秋、稲木が出来ると、ブランコを吊してもらった。
…番号172　71歳（下仰木 女性）

柴刈り、竹の皮拾い

■ 昔は竹ぶり森林が綺麗で、柴刈や竹の皮拾いが子供の遊びの一つになっていた。
…番号35　64歳（下仰木 男性）

相撲

■ 運動といえば、講堂の真下、校庭の北西の隅に立派な本式の土俵場が作られてあった。仰木は相撲の盛んな歴史を持つ土地柄で、男の子たちもよく相撲を取っていた。
…番号185　88歳（平尾 女性）

■ 神社、稲荷、校庭でハッケヨイ相撲が楽しみの一つでした。…番号172　71歳（下仰木 女性）

■ 仰木は相撲が強く子供相撲を良く取った。素足は慣れていた。　…番号12　71歳（下仰木 男性）

お祭りごっこ

■ 近所の子供が寄って お祭りごっこもした。
…番号106　72歳（上仰木 女性）

メンコ、ビー玉

■ 子供たちで、紙のタバコの箱くらいのメンコをして遊んだ。　…番号29　68歳（下仰木 男性）

■ 夕方暗くなるまで、近所の友達と遊んだ。ビー玉、メンコ、陣取り、かくれんぼ。
…番号69　62歳（下仰木 女性）

野球

■ 手作りのボールで三角ベースで野球をしていた。
…番号115　71歳（上仰木 男性）

■ 伯母さんの手作りの糸マリ（ボール）で野球をして遊ぶ。　…番号151　74歳（上仰木 男性）

たこあげ

■ 凧あげ。　…番号91　72歳（上仰木 女性）

■ 冬に子供たちが、凧あげをしていた。
…番号115　71歳（上仰木 男性）

紙風船

■ 置き薬屋のおじさんの訪問と紙風船貰い。
…番号183　69歳（辻ヶ下 男性）

家の中での遊び

■ 近所のおうちに行って、カルタ取りやトランプ遊びをして楽しく遊んだ。
…番号87　55歳（上仰木 男性）

お正月の夜遊び

■ お正月だけは夜遊びが許されて、4～5 才も年 齢の違う近所の子供たちが家に集り、カルタ、ぼうずめくり等をして遊んだ。
…番号23　72歳（平尾 女性）

みんなで遊ぶ

■ 学校から帰ると近所の子供たちと寺山でコッペチダイ・かくれんぼなどをして走りまわった。
…番号29　68歳（下仰木 男性）

■ いつも子供達は群れをなしていた。竹馬、缶けり、かくれんぼう、皆飛び まわっていた。
…番号38　74歳（下仰木 男性）

■ 輪回し（竹の輪）、缶けり、竹馬、縄跳び、けんば、てんてんくしとっこ、おはじきなどで遊んだ。
…番号106　72歳（上仰木 女性）

■ 遊びについては、男も女も、ケンパ、コッペチダイ、エスケン、チョンロ目をして、帰って風呂で行水するのが日課であった。
…番号141　63歳（上仰木 男性）

思い出

■ 楽しい思い出としては、春、田植えの昼休みに食べたやわらかい青豆入りのおだんごがとても美味しかった事。秋は地域の子ども達が 6 年生をリーダーに地蔵峰小グループを編成し、黄金（ロガネ）の田んぼへイナゴ捕りにいった事。イナゴはにわとりのえさになった。また、稲を刈った後の薄穂拾いとたいへん楽しかった。トンボを追いかけたり、虫をつかまえたり、土手を転げまわって鬼ごっこしたり、小川に入って魚つかみ、かえるともちたのしかった。レンゲツツの首飾りを作り、夜広のようないろんな器具やオモチャはなかったが結構楽しかった事もいろろ想い出す。
…番号185　88歳（平尾 女性）

その他

■ 子供がたくさんいたので元気な声が聞こえた。
…番号16　67歳（下仰木 女性）

■ 子供の遊ぶ声が良く聞こえた。
…番号39　73歳（下仰木 女性）

■ 今のように良いはき物がないので、はだしでスポーツなどしていた。
…番号115　71歳（上仰木 男性）

■ 近所の年上の人たちといつも遊び、良い事も悪い事も親に教えてもらえないことを教えてもらった。
…番号23　72歳（平尾 女性）

■ いつも友達と外で遊んでいた。
…番号27　63歳（下仰木 女性）

■ 男の子も女の子も皆で一緒にあそんだ。
…番号87　55歳（上仰木 男性）

学校生活

校舎

■ 仰木小学校の木造校舎。
…番号4　62歳（平尾 女性）

■ 小学校のグランドにあった相撲の土俵。
…番号53　67歳（下仰木 男性）

■ 二本の大きな石柱、仰木国民学校の墨字が微に残る。くぐればいかめしい寄安瓶。校門をくぐる者、だれもが緊張礼をして校内へ入る。古くいたんだ校舎だけれど、つぎはぎの板ガラスだけれど、木造校舎の暖かみが身に沁みるなつかしいにおい！！蟬鳴きれるのを涙をながしながら見送った思い出は節から消えることとはない。
…番号185　88歳（平尾 女性）

■ 当時（戦中、戦後）の校庭は現在の校庭とあまり変わらないが、北には当時校舎はなかった。運動場の半分以上は畑で、子ども達が野菜作りに力を入れて頑張っていた。
…番号185　88歳（平尾 女性）

通学

■ 昔はわら草履をはいて学校に行った。上履きもわら草履だった。　…番号29　68歳(下仰木 男性)

■ 弟・妹をおんぶして学校に連れて行き、子守をした。
…番号149　83歳（上仰木 女性）

■ 桜がすみの馬場。学校前から上仰木へ向けて桜のトンネルの美しさが残されていた。
…番号185　88歳（平尾 女性）

■ 通学路に麦の稲木が作られ、麦の匂いがした。
…番号172　71歳（下仰木 女性）

■ 1km の通学するのに、2日に1足わらぞうりを取り替える必要があり、大変だった。
…番号47　76歳（下仰木 男性）

■ 昔は学校へ羽織を着て、その上からどんざ（でんち）を着て行ったものだ。
…番号129　70歳（上仰木 男性）

■ 私たち子供の頃は学校が休みの日は、よく松葉の「シバ」を拾いに行き、背負って帰りました。ある学校へ行く日、冬場は寒いのでその松葉を密やして体を温めて「さ、行っておいで」と母が送り出してくれました。
…番号143　67歳（上仰木 女性）

自転車通学

■ 冬に毎日自転車に乗り、雄琴駅（江若鉄道）までガタガタ道を4km程通学し、手の感覚がなくなるほど冷たかった。雨の日も雪の日も傘をさして自転車で通学した。　…番号23　72歳(平尾 女性)

授業風景

■ 午後の授業、体育の時間に女度していた○○君が大きな牛を扱って厩舎からにこにこしながら「オーイ」と手を振って楽しそうに歩いて行く姿に驚きと感心の眼でながめたこと。体育の子ども達も「オーイ」と答えている。何の違和感もない光景だった。
…番号185　88歳（平尾 女性）

■ 小学校の上履は布を浸ぜりや皮をそうりにして作った。プールは無いし近くの川や真野浜へ学校から並んで列を作りそうりを履き歩いて行った。遠足餅装もなく砂ぼこりだった。それでも列を乱さず注復した。水着もなく、パンツ・シュミーズで泳いだ。
…番号21　75歳（平尾 女性）

■ 各学級は40人で、火鉢は一個であり、手足がかじかんで、鉛筆もにぎれなかった。
…番号109　73歳（上仰木 男性）

チャイム（鐘）

■ 小学校のベルの代わりに時間を知らせる用務員さんの鳴らすカネの音。
…番号166　72歳（上仰木 男性）

■ 学校チャイムの代わりに用務員（小使いさん）が手で鐘をふりながら廊下を廻られました。
…番号172　71歳（下仰木 女性）

お弁当、ごはん

■ 学校から家に帰って昼食をとった。高学年になり、弁当を持参する。おかずは納豆、梅干し、カツオ、たくあん、じゃこ等。
…番号109　73歳（上仰木 男性）

■ お昼は家まで食べに帰った。ラジオの“昼のいこい”を聞きながら学校にもどった。　…番号9　64歳（平尾 女性）

■ 小学校の頃、学校で大きな火ばちのまわりに弁当を並べ、寒かくなるといいにおいがしてきた。
…番号80　63歳（下仰木 女性）

■ 小学校のお弁当のかわりに、家へ食べに帰っていた。
…番号144　67歳（上仰木 男性）

■ 学校で弁当を食べていたら、これは自めしとおこられる（大部分麦であった6：4）。
…番号158　76歳（上仰木 男性）

■ 教室で火鉢に暖めた弁当の匂い、今でも忘れられません。先生のあたたかい心づくしでした。
…番号172　71歳（下仰木 女性）

■ 冬は、木の四角の火鉢に3時間目からアルミ弁当並べて、昼あたたかい弁当を食べさせてもらいました。
…番号172　71歳（下仰木 女性）

宿直室

■ 学校の小使さんの大きな湯沸かしから麦茶の匂いがプーンとしていた。
…番号13　年齢未記入（下仰木 女性）

■ 校舎のとなりの職員便所につづいて小使室（用務員室）先生方の宿直室があった。夜の校舎の警備、勤務を終えた後の先生方の休みの場、男の先生のお泊りの場でもあった。
…番号185　88歳（平尾 女性）

■ 若い先生方が多かった宿直室では、先生方の楽しいふれあいおしゃべりの場でもあった。のんびりとした暖かい雰囲気がとてもたのしく職員室にないもので、いろいろ教えられた事もあり、忘れられない思い出となっている。
…番号185　88歳（平尾 女性）

宿題

■ 子供の頃、大将の指示にしたがって、丸太棒、ゴザ、縄など持ち寄り櫓を作って楽しい時間に放課をした。
…番号141　63歳（上仰木 男性）

夏休み（薬草とり）

■ 夏休みに薬草取りをして学校へ持って行った。（じゅうやく、げんのしょうこ、おおばこ等）
…番号61　74歳（下仰木 男性）

■ 夏休みの宿題に「薬草とり」があった。店に売る。
…番号78　67歳（下仰木 男性）

■ 仰木小学校の方針かよく分からないが、夏休み中の宿題「夏の友」以外に薬草ゲンノノショウコ、オオバコ、ヨゴミなどを採集し乾燥させ、9月始業日に学校の講堂へ持参するのであった。私はおじいちゃんが絵模採ってきてくれた。そのおじいちゃんは今は墓の中で骨になって眠っている。おじいちゃんは土葬で埋葬した。
…番号113　65歳（上仰木 男性）

■ 戦時中、学校では落穂やどんぐりを拾って持っていった。イチゴも採った。夏休みには薬草も学校に持っていった。
…番号126　75歳（上仰木 女性）

行事

運動会

■ 運動会ははだしだったので、親指の裏は力を入れて走ると皮がむけ、細かい石が入って痛かった。
…番号9　64歳（平尾 女性）

■ 運動会は素足で走り、足の裏が痛かった。
…番号11　70歳（下仰木 男性）

■ 運動会など裏足だった。
…番号13　年齢未記入（下仰木 女性）

■ 運動会の最後にかすりの着物を着て、母たちが民謡を踊っていた。
…番号145　64歳（上仰木 女性）

音楽会

■ 学校では楽しい学芸会が学年毎によく行われた。音楽会合唱に楽器演奏。スポーツの少なかった当時、仰木小学校の子ども達は、鼓笛吹奏バンドでカナを発揮。MBS「こども音楽コンクール」に優良賞、中国中央交響楽団来典の時、歓迎レセプションに大津市代表として（昭和49年10月20日琵琶湖ホテル）出場、青森・大津・奈良・尾道西市交流青森大会に平成10年10月に出場と得難い体験をした。
…番号185　88歳（平尾 女性）

遠足

■ 滝廻神社から仰木峠越えを通り京都大原三千院へ降りる山越コースは、高学年定例の遠足コースで何度となく参加した。　…番号185　88歳（平尾 女性）

競争

■ 大雪が降ると元三大師堂まで裸で走る競争があったそうで、私も大雪の日高学年について、長靴をはいていても靴の中へ雪が入るほど雪の多い道を息絶え絶えに登った思い出がある。
…番号185　88歳（平尾 女性）

回虫駆除

■ 小学校で回虫駆除薬として、海人草を飲じるにおい。
…番号42　86歳（下仰木 男性）

■ その隣り が家蚕室と云ってもいろんな道具は揃っていない粗末なものだったが、忘れられないのはマクニンという虫下しの薬がたかれ、子ども達に全部飲ませたことだった。そのマクニンのりいがとてもいやだった。子どもも鼻をつまんで飲んでいる子もいた。回虫退治であった。その他 DDT（白い粉）を頭にふりかけたりしたものである。終戦後の道具類の思い出が家蚕室にあった。　…番号185　88歳(平尾 女性)

思い出

■ NHK のドラマ「おひさま」身にしみます。私達もそのままでした。昭和2年、入学教科書はプリントでした。
…番号172　71歳（下仰木 女性）

■ 覚性庵一治肝だめし会（6年全員参加）。先生、PTA 協力のもとに実施。覚性庵が今日のように建てかえていない昔の話。くずれかけた化け物屋敷のような所で、昼でも気持ちの悪い、勿論電気は無く、夜はロウソクをつけたり、電池を使用したりの大変だった。夕食は、明るいうちに宮の川で飯盒炊さんを行って済ませ、口ウソクの明かりの中でワイワイ騒ぎながら寝る準備を済ます。そこで、恐怖の肝だめしが行なわれた。こわがりの私は、子どもよりだめで、しっかりと子どもの手をはなさずににぎり締いお宮のまわりを蚊に刺されながら一周した。キャアキャア叫ぶ女の子の声が真っ暗な宮の森にこだまして生きた心地がしなかった。こわい一夜だったけれど、みんな楽しく思いっきり騒いで、蚊取線香のにおいの中でいっしょに寝ってしまった。あの思い出は一生忘れられないなつかしいものである。
…番号185　88歳（平尾 女性）

生き物 1

牛

暮らし

生活

■ 農家は牛を飼っていた。実物だった。
…番号 18　73 歳（下印木 女性）

■ 牛と一緒に住んでいた。
…番号 33　60 歳（下印木 男性）

■ 昔は変わる屋根が多かった。その家は大屋根の上に小屋根がある。煙抜き用です。昔はよく火をたいた。家の土間には、三つの「おくどさん」がある。「三ぼうさん」とも言ったようです。また、土間の一角には牛小屋があり、人と牛とひとつながりなのです。家族同様です。また、牛には それぞれの性格、良い語、向ひき等が重要なので、交換、入替などよく交渉が行われたものです。
…番号 57　76 歳（下印木 男性）

■ 家の中に牛がいた。
…番号 75　66 歳（下印木 男性）

■ 牛舎と人間の共存生活。
…番号 92　70 歳（上印木 男性）

■ どこの家も家の中に牛を飼っていた。
…番号 121　90 歳（上印木 女性）

■ 家の中に牛がいた。
…番号 148　66 歳（上印木 女性）

■ 牛小屋は家の入ったところにあり、角で焚をブツンブツンとつくのでおそろしくて水をかけた。
…番号 135　79 歳（上印木 女性）

■ 古年証の頃、1 番多い頭は牛を 3 匹から 4 匹飼っていた。牛小屋で、牛を大宮可愛がって田を耕した。
…番号 38　74 歳（下印木 男性）

■ 牛の子を産ませてある程度大きくなってきたら親牛を売りに出した。牛舎がニつはあり、いつも牛とワラのにおいがした。
…番号 144　67 歳（上印木 男性）

■ 昔は、牛が重要だった。玄関の横に牛小屋があり、知らない人が玄関と間違えて戸を開けたら牛が出てきてびっくりした思い出があるる。
…番号 32　62 歳（下印木 男性）

思い出

■ 牛の食事が人より先だった。
…番号 54　62 歳（下印木 男性）

■ 牛が逃げたこともあった。
…番号 69　62 歳（下印木 女性）

■ 牛は今で言うペットであった。
…番号 141　63 歳（上印木 男性）

牛つなぎ

■ 農家にはほとんどが牛を飼っていて、牛をつなぐ木があった。…番号 15　59 歳（下印木 男性）

■ どこの家も牛を飼っていた。牛つなぎと言った丈夫な木につながれていた。
…番号 173　73 歳（下印木 女性）

■ 昔は自分の家で牛を飼っていたのでよく牛の世話をした。そして牛をつなぐ木（なつめの木）があってそこでよくその世話をしてすれいにした。
…番号 175　71 歳（下印木 女性）

毛並み

■ 牛の毛並みの感触。
…番号 33　60 歳（下印木 男性）

仕事

農作業

■ ほとんどの家では農業のための牛を飼っていた。
…番号 74　66 歳（下印木 男性）

■ 百姓の家では牛を飼っておられた。
…番号 124　76 歳（上印木 男性）

■ 農業は牛なしではできない。
…番号 92　70 歳（上印木 男性）

■ 昔は家の中に牛がいて、仕事は牛と共に田んぼへ行き、大切にされていた。
…番号 16　67 歳（下印木 女性）

荷車

■ 牛に荷車（金車）をヒカせて田んぼへ行った。
…番号 95　80 歳（上印木 男性）

■ 子供の頃（小学生頃）牛が荷車をひいて、田んぼ、畑から帰ってきた。
…番号 67　61 歳（下印木 女性）

■ 牛が牛車を引っぱっていた。
…番号 98　64 歳（上印木 男性）

■ 牛が荷車を引っぱっていた。
…番号 115　71 歳（上印木 男性）

牛を追う声

■ 近世家の道路は鉄車輪の荷車を牛に引かせ、「シイッチャイ」と民を左にいった。
…番号 135　79 歳（上印木 女性）

■ 牛追う声や荷車の音、シーチャヤと牛を追う声。その後、金車からゴム車へと変わった。
…番号 172　71 歳（下印木 女性）

■ 自転車の音でなく、牛を追う人の声や鳴声が道路から聞こえた。
…番号 41　72 歳（下印木 男性）

鳴き声

■ 玄関入ったらモーと牛があいさつをする。
…番号 14　74 歳（下印木 女性）

■ 牛の鳴き声…番号 33　60 歳（下印木 男性）

■ 家の中にいた牛の鳴き声「モーォォー」。
…番号 35　64 歳（下印木 男性）

■ のんびりとした雰囲気ついたその鳴き声が思い出される。
…番号 43　91 歳（下印木 女性）

■ 牛の泣き声…番号 50　64 歳（下印木 男性）

■ いつもその鳴く声（もうもう）が聞こえていた。
…番号 54　62 歳（下印木 男性）

■ 牛のなく声が聞こえた（もーう）。
…番号 60　69 歳（下印木 男性）

■ うしの鳴き声。
…番号 61　74 歳（下印木 男性）

■ 馬屋で鳴く牛の声。
…番号 79　60 歳（下印木 男性）

■ 牛の鳴き声。
…番号 85　年齢未記入（上印木 男性）

■ 牛の「もう」と言う声をよく聞いた。
…番号 86　67 歳（上印木 男性）

■ どこの家も牛を飼っていたので、モウモウという鳴き声がしていた。
…番号 133　69 歳（上印木 男性）

■ どこの家も、牛を飼っていたので、牛の鳴き声が聞えた。…番号 157　66 歳（上印木 女性）

■ 牛の鳴く声…番号 178　68 歳（辻ヶ下 男性）

えさ（干し草）

■ 家に入る戸を開けると、どこの家も入ったところに牛が鎮を出し、草を食べていた。私もよく草刈りや、牛に草を学ぶのを手伝った。懐かしいなあ。
…番号 89　69 歳（上印木 女性）

■ 牛のえさの草刈を学ぶから毎年夏毎日していた。
…番号 174　75 歳（上印木 女性）

■ 牛のえさ。…番号 21　75 歳（平尾 女性）

■ 家を入って右側の裏が牛小屋だった。わらの入ったにもの等えだれも近しながら口をゆがめて食べていた。美味しいのだろうかと思っていた。独特の匂いも鼻明に足えていた。
…番号 96　69 歳（上印木 女性）

■ 牛に与える草が干してあり、むし暑く感じた。
…番号 135　79 歳（上印木 女性）

■ 牛のエサの草刈。
…番号 33　60 歳（下印木 男性）

干し草の匂い

■ 牛の冬用の餌のため、夏に干草をたくさん作っていた。家の敷地内で干していた牛いが開けっ放しの家の中まで充満していた。
…番号 41　72 歳（下印木 男性）

■ 干草のにおいした。
…番号 39　73 歳（下印木 女性）

■ 真夏の干し草のにおいがなつかしい。
…番号 90　73 歳（上印木 男性）

■ 牛の冬の餌料の干し草のにおい。
…番号 94　76 歳（上印木 男性）

■ 外にいっぱい干し草が干してあった。よいにおいがした。…番号 130　74 歳（上印木 男性）

敷きわら

■ 夏場は牛の敷きわら（馬屋肥丸）干し。
…番号 92　70 歳（上印木 男性）

匂い

■ 家の中に入ったら、どの家でも牛のにおいがした。…番号 71　68 歳（下印木 男性）

■ 牛のにおいより馬屋（ウマヤ）の臭いが全つかった。その馬屋からフンを手でつかんで丸めて棒で挿して田んぼまで運んだりもできる。臭いもくそも言っていられなかった。それが田んぼを作る常識だから。家の玄関に入った所に馬屋があるので家中が臭く、昔は人工取り組がなかったからハエが飛びまわっていた。…番号 133　69 歳（上印木 男性）

■ どの家でも牛のにおいがする。
…番号 41　72 歳（下印木 男性）

■ 夏場は牛のにおいと「力と」ハエ」がたくさんよっているのでややでした。
…番号 143　67 歳（上印木 女性）

■ 冬家に牛がいて、大変不潔な感じがした、大変いやな思いだった！
…番号 162　67 歳（上印木 男性）

■ 人と牛とーっ屋根の下でくらしていたので、牛のにおいがしていた。
…番号 173　73 歳（下印木 女性）

牛ふん

■ 地道の上に牛ふんがポタポタと落ちていた。寒い時は寒さでのまんじゅうのようで湯気がよがっていた。
…番号 56　69 歳（下印木 男性）

■ 道路に牛のふんが散ってあった。
…番号 60　69 歳（下印木 男性）

■ 土道を牛が歩いていた。人が牛を引っぱって、牛糞がほとほとと落ちていた。
…番号 77　78 歳（下印木 女性）

家畜いろいろ

暮らし

■ 家畜（主に牛や鶏）を家の中で飼っていた。
…番号 41　72 歳（下印木 男性）

■ 牛、鶏も農家は飼育していた。においも臭れてあった。
…番号 168　77 歳（平尾 女性）

鳴き声

■ にわとりの鳴き声。アヒルの鳴き声。
…番号 49　71 歳（下印木 女性）

■ 牛・鶏・鮒の鳴き声。
…番号 92　70 歳（上印木 男性）

■ 各家にわとり、牛がいて、鳴き声が聞えた。朝はにわとりの声で起こされた。
…番号 112　62 歳（上印木 男性）

■ 牛やにわとりの鳴き声がよく聞こえてきた。
…番号 141　63 歳（上印木 男性）

■ 鮒甲イからコケコッコー、モー、チュンチュンと鳴き声がきこえた。ゴトンゴトンと牛車の金輪の音も聞こえた。…番号 158　76 歳（上印木 男性）

匂い

■ 牛の草、ワラ、藁、とりのふんなどの雑多な匂い。
…番号 78　67 歳（下印木 男性）

■「ウぎ」や「にわとり」のそれぞれのにおい。
…番号 156　63 歳（上印木 女性）

■ 家の縁の下に、ニワトリや馬などが飼われていた。その匂いがした。
…番号 166　72 歳（上印木 男性）

虫

■ 牛に寄るハエ、カ、アブが多くいた。
…番号 20　68 歳（下印木 女性）

■ ウとちがいも牛がいましたので、夏になると力が飛んでいました。蚊よけのくすべをし、家中かけむりでくもっていました。
…番号 24　80 歳（平尾 男性）

■ 夏は牛にアブがたかっていた。
…番号 69　62 歳（下印木 女性）

豚

■ 家で豚を飼っている人が多かった。豚の匂いがした。
…番号 129　70 歳（上印木 男性）

にわとり

暮らし

■ にわとりを飼っていた。
…番号 33　60 歳（下印木 男性）

■ 縁の下でにわとりを飼っていた。
…番号 105　66 歳（上印木 女性）

■ どこの家にもにわとりを飼っていた。
…番号 148　66 歳（上印木 女性）

■ 玄関の横の縁の下でにわとりが飼われていた。
…番号 174　75 歳（上印木 女性）

思い出

■ 多くの家がにわとりを飼っていてえさをやるのは子供の役目だった。朝には フンがついてきたないなあと思った。1 日 1 回外に出し放し飼いにして、コケッコッコー、ピヨピヨとにぎやかだった。
…番号 135　79 歳（上印木 女性）

■ 子供の頃、各家でよく卵を飼っていました。ある夜、隣者が隣がいいのでえと行ってみると大きな蛇（青ダイショウ）が、頭を丸めがにしたところでした。怪中怒だで怒りしていた。父は長い棒を蛇に巻きつかせ、棒ごと頭部の竹藪へ投げました。
…番号 118　58 歳（上印木 男性）

仕事

■ どこの家でも縁の下で鶏を飼育していました。その鳴き声で目をさました。そして村民には、かしわのすき焼を食べました。
…番号 22　82 歳（平尾 男性）

■ にわとりは 20 羽飼っていた。たまさと産ませて近隣しながら近所の人達に分けていた。いつもにわとりのにおいがした。
…番号 38　74 歳（下印木 男性）

■ どの家にも鳴き声がいました（コケコッコ）と頭を産んでいた。…番号 106　72 歳（上印木 女性）

えさ

■ 家の縁側の下でにわとりを飼っていた。人が食べられない米や野菜をエサにして飼っていた。
…番号 176　74 歳（辻ヶ下 女性）

匂い

■ 家の縁の下に鶏を飼っていたので庭のにおいがした。
…番号 16　67 歳（下印木 女性）

■ にわとりが縁下に飼っていたので、鳥の匂いがして臭た。…番号 47　76 歳（下印木 男性）

■ 軒下に鶏を飼っていて物置になると匂いがした。
…番号 51　82 歳（下印木 男性）

■ 多くのお家が鶏を「縁の下」に飼っておられたのでにわとりの匂いがしていた。
…番号 86　67 歳（上印木 男性）

■ にわとりのにおいがした。
…番号 90　73 歳（上印木 男性）

■ 軒下に鶏を飼っていておられた。
…番号 115　71 歳（上印木 男性）

■ にわとりのにおい。
…番号 126　75 歳（上印木 女性）

■ 鶏のにおい…番号 158　76 歳（上印木 男性）

鳴き声

■ 縁の下で飼われていたにわとりの鳴き声。
…番号 11　70 歳（下印木 男性）

■ にわとりの "コケコッコー" で朝起きた。
…番号 9　64 歳（平尾 女性）

■ 朝になると鶏のコケコッコの声が聞こえて来た。
…番号 28　83 歳（下印木 男性）

■ どこの家でも縁の下でニワトリを飼っていたので、朝は雄がコケコッコー、雌は卵を産んだ声はコカッココとよく聞いていた。
…番号 56　69 歳（下印木 男性）

■ ニワトリの鳴く声が聞こえた。
…番号 60　69 歳（下印木 男性）

■ 各家庭にいた鶏の鳴き声。
…番号 64　年齢未記入（下印木 性別未記入）

■ 鶏の鳴き声。…番号 75　66 歳（下印木 男性）

■ 鶏の鳴き声で起床。
…番号 85　年齢未記入（上印木 男性）

■ 夜中なり朝方ににわとりの声（こけこっこ）をよく聞いた。　…番号 86　67 歳（上印木 男性）

■ 昔は民家のあちこちで、庭鳥の泣く声で賑やかで朝起こされた。…番号 96　69 歳（上印木 女性）

■ どこの家でも縁先に飼がいてこっけこっこーと鳴く。
…番号 107　76 歳（上印木 女性）

■ 朝、鶏の声がよく聞こえた。
…番号 108　60 歳（上印木 男性）

■ 朝早くにわとりの鳴く声。
…番号 126　75 歳（上印木 女性）

■ 早朝コケコッコーと、にわとりの鳴く声で目が覚めた。　…番号 127　69 歳（上印木 男性）

■ 寝朝まさった時間にコケコッコー（ニワトリの声）。　…番号 129　70 歳（上印木 男性）

■ 朝早く（コケコッコー）と鳴く声がした。
…番号 145　64 歳（上印木 男性）

■ どこの家も、にわとりを飼っていたので、朝はコケコットと鳴いていた。
…番号 157　66 歳（上印木 女性）

■ 家庭ではにわとりも飼育し、朝早くコケコッコーの目覚ましとなった。
…番号 168　77 歳（平尾 女性）

■ 昔はどこの家も屋根裏の下でにわとりを飼っていたので朝早くから鳴いていました。
…番号 173　73 歳（下印木 女性）

ひよこ

■ 家の床下で飼っていた「鶏・ひよこ」の鳴き声。
…番号 78　67 歳（下印木 男性）

■ 家の中にはひよこもいてピーピーとよく鳴いた。
…番号 107　76 歳（上印木 女性）

■ 庭と縁瓦の声。自家でひよこを孵化していた。毒用色某給有ります。
…番号 142　78 歳（上印木 男性）

ふん

■ どこの家も縁が多って、下に ニワトリを飼っていた。鳥のフンの匂い。
…番号 129　70 歳（上印木 男性）

生き物 2

虫

いろいろ

■ 虫の声。（せみ、ほとどぎす、他）
…番号 50　64 歳（下仰木 男性）

■ 電気の光で多くの虫が家に入って困った。
…番号 107　76 歳（上仰木 女性）

■ 秋になると虫の声があちこちに聞かされた。（雀、ツバクロ、カラス、トンビ、鈴虫、カエル、蚊、ウグイス、セミ、牛、ヤギの鳴き声等）
…番号 109　73 歳（上仰木 男性）

■ トイレが外にあったので夜は虫の声がよく聞こえてがでた。　…番号 123　63 歳（上仰木 男性）

蜂

■ 今よりも蜂がよく飛び、巣を作っていた。
…番号 77　78 歳（下仰木 女性）

■ カブトムシを取りに行くと、ハチとの格闘をした。すずめバチに刺された時があって、これは痛かったし、すごくハレた。
…番号 123　63 歳（上仰木 男性）

蚊

■ 蚊が来るのでひのきの葉をくすべた。
…番号 135　79 歳（上仰木 女性）

■ 夏の夜、蚊帳の中に入って来た蚊の羽音。
…番号 160　64 歳（上仰木 男性）

■ 夏の蚊とけ。　…番号 21　75 歳（平尾 女性）

■ 夏、夕方になると「蚊取り線香」のにおいがした。
…番号 31　69 歳（下仰木 男性）

■ 夕方、蚊よけ煙の匂い。
…番号 183　69 歳（辻ヶ下 男性）

害虫

■ 夕方、家の中は「ハエやぜ」がいっぱいいた。
…番号 31　69 歳（下仰木 男性）

■ 夕方になると（くすべ　杉の生葉や草の生葉に火をつけて煙やをたたいて、煙はかりですごくくりむたかった。そして蚊や害虫をいぶしてかなくする。夕方になると蚊がウワーっと鳴いてすかった。
…番号 175　71 歳（下仰木 女性）

セミ

■ 最近はビグラシも年により聞けない時もある。
…番号 92　70 歳（上仰木 男性）

■ 夏になると虫やせみの鳴き声が聞けた。
…番号 125　71 歳（上仰木 女性）

■ セミの声がなくなった。
…番号 155　年齢未記入（上仰木 性別未記入）

コオロギ

■ 秋になるとコオロギの鳴く音が聞こえる。
…番号 107　76 歳（上仰木 女性）

くつわ虫

■ 夜には畑でガチャガチャとくつわ虫の音もした。
…番号 29　68 歳（下仰木 男性）

キリギリス

■ ギースチンときりぎりすが鳴く。
…番号 94　76 歳（上仰木 性別未記入）

蛍

■ 雨上がり、田んぼの上を蛍が群れをなして飛んで行った。　…番号 5　75 歳（平尾 男性）

■ 夜になると家の前まで蛍が飛んでくる日もあった。　…番号 29　68 歳（下仰木 男性）

■ 蛍が家の前まで飛んできていた。
…番号 30　年齢未入力歳（下仰木 性別未記入）

■ 昔はほたるが家まで飛んできた。
…番号 68　62 歳（下仰木 男性）

■ 家の前まで蛍が飛んできた。
…番号 108　60 歳（上仰木 男性）

■ 夏の夜はよく蛍が飛び、チカチカときれいだった。
…番号 107　76 歳（上仰木 女性）

匂い

■ 昔も今も匂いますが、蚤のむいがした。
…番号 35　64 歳（下仰木 男性）

蛍狩り

■ みんなでほたるつかみによく行った。
…番号 9　64 歳（平尾 女性）

■ ほたるつかみに近所の子供たちと川原へ行くのが楽しみだった。　…番号 23　72 歳（平尾 女性）

■ かぶと虫つかみや蛍狩り。
…番号 53　67 歳（下仰木 男性）

■ ホタル狩りについて、「ほーほーほたるこい。こっちの水は甘いぞ・・・」と口ずさみながら、親子連れでほたる狩りが梅雨の晴間の夕暮れに行われ、大変風情があった。
…番号 58　75 歳（下仰木 男性）

■ 菜種をとったあともモミガラをたばねて竹の棒にくくりつけて飛んでくるほたるを採る。
…番号 58　75 歳（下仰木 男性）

■ 菜種のとったあとの木で縛くなってからほたるつかみに田道や河原をよく歩いた。
…番号 61　74 歳（下仰木 男性）

■ 初夏には天神前にホタルを採りに夜に子供５～６人で行った。
…番号 64　年齢未入力歳（下仰木 性別未記入）

■ 田んぼの植えつけが終わると、ほたるを採りにお宮の裏まで行った。
…番号 67　61 歳（下仰木 女性）

■ 菜種の後でホタルをよく取りました。
…番号 120　68 歳（上仰木 男性）

■ 夏になると、菜種がらを少し竹の先にくくりつけ、夕方になるとあちらこちらでホタル狩りをした。
…番号 127　69 歳（上仰木 女性）

■ 麦を作って稲木にかけて干し、その匂いがむんむんとしていました。その麦かんで麦つかみをしました。
…番号 118　58 歳（上仰木 男性）

とんぼ

■ 稲刈りが終わるころ、赤トンボをすぐに捕まえたことができたほど沢山飛び交っていた。
…番号 5　75 歳（平尾 男性）

■ トンボがたくさん飛んでいた。
…番号 50　64 歳（下仰木 男性）

かぶと虫

■ 夜になると家の前までかぶと虫も来る日もあった。　…番号 29　68 歳（下仰木 男性）

■ かぶと虫をとってきて カゴに入れておくと、夜になるとガサガサと動いていた。
…番号 123　63 歳（上仰木 男性）

は虫類

へび

■ ツシからヘビが落ちてきた。
…番号 33　60 歳（下仰木 男性）

両生類

カエル

■ 食用蛙（牛蛙と呼んでいた）の太い大きな鳴き声がお腹に響いて屋くほど、田植えが間近い田んぼで鳴いていた。　…番号 5　75 歳（平尾 男性）

■ かえるの合唱。
…番号 20　68 歳（下仰木 女性）

■ 私は田で鳴く蛙の声がにぎやかだったと思う。
…番号 77　78 歳（下仰木 女性）

■ 田が家のそばにあり蛙の合唱がやかましかった。
…番号 78　67 歳（下仰木 男性）

■ ５月になると田んぼに水が溜まり、カエルの鳴き声が聞こえる。…番号 107　76 歳（上仰木 女性）

■ 梅雨になるとカエルの合唱がよく聞こえた。
…番号 108　60 歳（上仰木 男性）

■ 夏頃は田んぼのカエルの鳴き声がうるさくて寝づらい。　…番号 150　69 歳（上仰木 男性）

■ 蛙の声が聞けなくなった。
…番号 155　年齢未記入（上仰木 性別未記入）

■ 春から夏にかけて、カエルの鳴き声が夜よく聞こえた。　…番号 170　65 歳（平尾 男性）

動物

うさぎ

■ 昔は家でうさぎを飼っていた。その小屋の匂い。
…番号 129　70 歳（上仰木 男性）

■ うさぎやヤギも飼っていた。
…番号 176　74 歳（辻ヶ下 女性）

キツネ

■ キツネ。
…番号 30　年齢未記入（下仰木 性別未記入）

いろいろ

■ キツネ、ふくろうの声。夕方から夜、朝方によく聞いた。　…番号 86　67 歳（上仰木 男性）

ヒル

■ 田植えでヒルにかまれた。
…番号 83　67 歳（下仰木 男性）

魚

魚釣り、魚つかみ

■ 梅雨の頃は、御呂戸川での魚つかみをした。
…番号 53　67 歳（下仰木 男性）

■ 夏には御呂戸川で泳ぐ魚をつかむ。
…番号 64　年齢未入力歳（下仰木 性別未記入）

■ 砂虫で魚釣りが面白かった。
…番号 123　63 歳（上仰木 男性）

■ ウロンタマウロニギリガンドを掴った感触。ウロニギリの本場は御呂戸川であった。雨が降るとガンド（小船）が逆上してくる。護岸の柳や柿の根元の裏や、水中の洞穴（ウロンタ）にかくれている魚を素手で捕えた。
…番号 114　81 歳（上仰木 男性）

■ 天神川上流で（清流）で流し針で鮎を釣る。
…番号 151　74 歳（上仰木 男性）

メダカ

■ お宮さんの川まで、洗濯物をすすぎに行っていた。そのそばで子供達がメダカを掬っていた。
…番号 67　61 歳（下仰木 女性）

いろいろ

■ うなぎや小魚もたくさんいました。
…番号 103　81 歳（上仰木 男性）

■ 家の近くの田んぼに入れる水路（幅４０～５０センチぐらい）には、ドジョウ、カワムツがいた。飲めるくらいきれいな水でした。ホタルもたくさん飛んでました。　…番号 120　68 歳（上仰木 男性）

■ 家の近くのイゼ水道にメダカ、アカネチョ　ドジョウ等の小魚がたくさんいた。
…番号 123　63 歳（上仰木 男性）

■ 小川にはいつもザリガニがいっぱいいた。
…番号 38　74 歳（下仰木 男性）

アカネチョ

■ アカネチョにさされた跡は痒かった。
…番号 123　63 歳（上仰木 男性）

鳥

捕獲

■ 小学生の頃、「とおし」（ふるい）の下に米や麦をまいておき、「とおし」を さえる木の棒からひもを１０ｍ程引っ張っておき隠れ、すずめやほおじろなどが入ればひもを引っ張ってつかまえたこと。
…番号 86　67 歳（上仰木 男性）

ふくろう

■ 夜には竹やぶでは、ホッホウと鳥の鳴く声も聞こえた。　…番号 29　68 歳（下仰木 男性）

■ ふくろうの声。（ノリツケ・ホーセ）ホホン（ノリスートク）と鳴くと聞き、ホホンクリ・シコクと鳴くと雨降り。…番号 94　76 歳（上仰木 男性）

■ 山側観野から夜聞こえる鳥の鳴き声。
…番号 98　64 歳（上仰木 男性）

■ フクロウがよく鳴いた。
…番号 106　72 歳（上仰木 女性）

■ 夜になると鳥（フクロウ）の声が、ホッホホーホホホと聞こえ来ました。
…番号 118　58 歳（上仰木 男性）

■ フクロウの鳴き声がよく聞かれた。
…番号 123　63 歳（上仰木 男性）

■ ふくろうの鳴き声がよく聞こえた。
…番号 148　66 歳（上仰木 女性）

カッコウ

■ 遠くで「カッコウ」の鳴く声を聞いた。
…番号 156　63 歳（上仰木 女性）

うぐいす

■ うぐいすの声が、今よりよく聞こえていた。
…番号 68　62 歳（下仰木 男性）

■ 現在でも春から初夏にかけてすぐ近くでウグイスの鳴声がして幸せに感じる。
…番号 78　67 歳（下仰木 男性）

いろいろ

■ 鳥・キジ・コジケイ。
…番号 30　年齢未記入（下仰木 性別未記入）

■ 鳥の声。
…番号 30　年齢未記入（下仰木 性別未記入）

風景 1

季節

夏

■ カボチャの屋根棚の下でタライで行水を毎日行った。ホタル星がよく見えた。夏と言える情景が懐かしい。今は昔の星空も十分の一ほどしか見えない。
…番号7　67 歳（下仰木 男性）

■ 夏休みのラジオ体操。
…番号53　67 歳（下仰木 男性）

■ 緑先に床几を置いて行水を済ませ、麻のジンベイを着て、オガ粉の蚊くすべて、近所の人が集って将棋を指していたのも夏の夜の風景。
…番号114　81 歳（上仰木 男性）

■ 夕立の音。　…番号33　60 歳（下仰木 男性）

麦

■ 昔は田んぼに麦がよく植わっていた。
…番号68　62 歳（下仰木 男性）

雨

■ 雨が降ると、麦わらが蚊れて焦げくさいような匂いがした。　…番号39　73 歳（下仰木 女性）

つるし柿

■ つるし柿の屋形がして沢山吊っていた。
…番号49　71 歳（下仰木 女性）

■ 家の回りに柿の木がたくさんあった。
…番号75　66 歳（下仰木 男性）

■ 干し柿の干してある風景。
…番号169　64 歳（平尾 女性）

■ つるし柿の干してある風景やつる柿の甘いにおい。　…番号86　67 歳（上仰木 男性）

■ 朝日に映える「柿屋」の美しさ、掬工祐右衛門の心が感ぜれる。　…番号185　88 歳（平尾 女性）

冬

■ 冬はとても寒く、雪が多かった。
…番号69　62 歳（下仰木 女性）

■ 民家の周りに竹やぶが多く、冬になると雪の重みでトンネルができた。
…番号108　60 歳（上仰木 男性）

■ 昔は、家の近くに竹藪が多くあり、冬になると雪の重みで竹が折れた。あちらこちらからポンポンと折れる音がした。
…番号162　67 歳（上仰木 男性）

■ 雪で笹（竹）が折れることー。
…番号33　60 歳（下仰木 男性）

■ 家の周囲に竹やぶが多く、雪が降ると竹がしなって道がトンネルになり、そこをくぐりぬける時、雪が頭や首すじに落ちてきた。
…番号119　66 歳（上仰木 女性）

■ 家の回りに竹やぶがあり、雪が降ると重みで竹のトンネルが出来た。
…番号181　68 歳（比ヶ下 女性）

麦わら屋根のつらら

■ 子供の頃は、麦わら屋根でした雪が降ると、裏のひさしにはツララがたくさん垂れ下っていた。
…番号52　74 歳（下仰木 女性）

■ 麦わら屋根の四方からつららが麻れ下がっていた。　…番号172　71 歳（下仰木 女性）

水車のつらら

■ 冬、水車小屋には氷柱がすごかった。
…番号123　63 歳（上仰木 男性）

■ 寒い夜、水車につららができた。
…番号181　68 歳（比ヶ下 女性）

つらら

■ 家のまわりにたくさんつららがあった。
…番号122　60 歳（上仰木 男性）

■ 冬になると、つらら が麻れ下がっていた。
…番号141　63 歳（上仰木 男性）

■ つららの手触りの冷たさ。
…番号33　60 歳（下仰木 男性）

■ 昔はとても寒くて、大きなつらら が垂れ下がっていた。　…番号91　72 歳（上仰木 女性）

雪などいろいろ

■ 雪がよく積もったし、つらら や氷、霜柱がよくできていた。　…番号66　73 歳（下仰木 男性）

いろいろ

■ 私の近くに八王寺という所があります。夏は、花火がよく見え（大津の花火大会）、秋は湖くり竹金魚が見えます。そこの木陰でビールを飲むのが楽西です。　…番号90　73 歳（上仰木 男性）

水

池

■ ため池が多くあった。
…番号30　年齢未入力歳（下仰木 性別未記入）

■ キレンタマ池で野菜などを洗った。
…番号30　年齢未入力歳（下仰木 性別未記入）

■ キレンタマ池は、防水用水の他、オムツ、土のついたものを洗う池だった。
…番号30　年齢未入力歳（下仰木 性別未記入）

川

■ 山からの水はきれいで水車の水路で白菜を洗い、川での洗濯のすすぎもできました。本当にきれいな水でありました。
…番号168　77 歳（平尾 女性）

■ 山から流れてくる水の音。
…番号75　66 歳（下仰木 男性）

■ 昔、川のそばで住んでいたので川のせせらぎが聞こえた。今は川が改修されてその音も聞こえない。
…番号180　62 歳（比ヶ下 男性）

天神川

■ 昔の天神川には、柳の木や銀杏の木がいっぱいあり、カブトガニや魚が多くいた。その光景が今でも目に浮かびます。
…番号35　64 歳（下仰木 男性）

■ 昔の天神川は、今の様にコンクリート張りでなく自然のままで、河原にはキコサナギがたくさん茅吹き、ムツやアンブラバイ（正式名アブラムツ）、今では絶滅危惧種のアカネチョ（正式魚名アカザ）を釣ったり捕まえまえることが出来た。
…番号118　58 歳（上仰木 男性）

水車

■ 下仰木では天神川の水車小屋まで距離がある。お米の籾米に父に云いて搗材を預らしていて行った。米一俵を父は荷っていた。集落のはずれて、コットンコットンと水車の音が聞こえると、ヤレヤレと休憩をした父であった。
…番号12　71 歳（下仰木 男性）

■ 落合橋に水車小屋３軒あった。
…番号65　年齢未入力歳（下仰木 性別未記入）

■ 急な坂のあちこちで水車が回っていた。
…番号89　69 歳（上仰木 女性）

■ 水車がたくさんあった。
…番号122　60 歳（上仰木 男性）

■ 水車が数多く存在していた。私の家にも、大きな水車がありました。
…番号156　63 歳（上仰木 女性）

■ 用水路を利用した水車があった。
…番号158　76 歳（上仰木 男性）

田んぼ

麦稲木（夏）

■ 昔は六月になると田んぼに麦の稲木がいっぱいあった。　…番号26　71 歳（下仰木 男性）

■ 遠の再側には麦（いなほ）があり、その真ん中を通っていました。
…番号120　68 歳（上仰木 男性）

■ 道路の両側に長く続いた麦稲木。
…番号166　72 歳（上仰木 男性）

稲木（秋）

■ 秋の棚田、はさ架けの風景。
…番号4　62 歳（平尾 女性）

■ 刈り取りの頃をかける稲木が深風の様にたくさん作られた。　…番号49　71 歳（下仰木 女性）

■ 秋は稲木がならんでいた
…番号83　67 歳（下仰木 男性）

■ 稲を干す稲木が秋になるときれいでした。
…番号121　90 歳（上仰木 女性）

■ 秋の稲木（ハサ）が見られなくなった。
…番号141　63 歳（上仰木 男性）

■ 秋晴れさわやかな実りの稲木。
…番号185　88 歳（平尾 女性）

■ 稲を干す棚田の風景。平尾では最後まで稲木で干していました。　…番号169　64 歳（平尾 女性）

野小屋（ユオ）

■ 田んぼには必ずつう雑きのユオがあった。
…番号106　72 歳（上仰木 女性）

■ 昔は野小屋があり、休憩や昼食をしたが、今は自宅に帰る。　…番号115　71 歳（上仰木 男性）

もみ干し

■ 庭一面に籾が干してある風景。
…番号169　64 歳（平尾 女性）

柿の木

■ 田んぼには渋柿の木がたくさんあった。鈴なりだった。　…番号49　71 歳（下仰木 女性）

水田の水入れ

■ 夜中、水田の水入れで入、動物に出会った時のびっくりした事。　…番号158　76 歳（上仰木 男性）

耕す

■ 田を耕す牛の風景。
…番号32　62 歳（下仰木 男性）

■ 牛で田んぼを耕して、牛のお尻をたたいていた風景。　…番号49　71 歳（下仰木 女性）

棚田

■ 田んぼは段々畑（今で言う棚田）でかさい田んぼが多かった。…番号86　67 歳（上仰木 男性）

■ 棚田のきれいな風景が懐かしい。
…番号89　69 歳（上仰木 女性）

■ 棚田はかりでとっても良い風景でした
…番号93　71 歳（上仰木 男性）

■ 田畑は整備されておらず、ほとんど段々畑だった。
…番号105　66 歳（上仰木 女性）

■ 千枚田のような棚田がいたるところにあった。
…番号147　87 歳（上仰木 女性）

■ 昔は小さな田んぼでしたが、今は大きくなりました。でも、土が少ないです。
…番号153　62 歳（上仰木 女性）

■ 中央土地改良区の所は小さな棚田がいっぱいでとてもいい景色でした。
…番号180　62 歳（比ヶ下 男性）

■ 仰木の棚田を眺めて、近頃棚田の美しさを愛でる観光の旅がブームとなり、棚田の純なった美しさを楽しむ、観光客が多く訪れるようになった。仰木もこ多聞に漏れず馬頭形の棚田を抱め里山のあちこちを散策する盛方からの人々が増してきた。これは決して思いことではなく、喜ばしいことでもあるが、忘れてはならないのは、美しく平和な現風景の裏に潜む開拓の歴史である。険しい山路に大小無数の石積みの土手、こんな所にまでと思う深山の隅に忘れられたように取り残され、くずれた石垣の土手を眺める時、先人たちの汗と油の苦労を偲い、未来にかけた夢はどんなであったろうかと、変な変を通って、なつかしさと感謝の思いに手を合わせたくなるのである。　…番号185　88 歳（平尾 女性）

■ 里は あやなす棉模、絡く大小さまざまな棚田にあちこち映える柿の実の美しさ、まさに自然が織りなす大パノラマの美しさ、今は潰れてわずかに残される視風景の中に細に焼きついて残る風である。
…番号185　88 歳（平尾 女性）

ほ場整備

■ ほ場整備で田んぼがみんな変わってしまった。
…番号73　76 歳（下仰木 女性）

山あり谷あり

■ 山あり谷ありの風景がたくさん残りました。
…番号86　67 歳（上仰木 男性）

比叡山

■ 地形、仰木の過酷な自然。比叡山西北の山麓に位置し、山田の起伏はげしく荒れ地は歩行も困難を極めるけわしい牧深の連続であった。
…番号185　88 歳（平尾 女性）

■ 比叡山の山肌が四季の移ろいを感じる。
…番号150　69 歳（上仰木 男性）

■ 比叡の夕焼け空。ふるさとの山にむかいていうことなし。ふるさとの山はありがたきかな…見るたびに心打たれる。　…番号185　88 歳（平尾 女性）

琵琶湖

■ 琵琶湖が見える風景。今も変わらない、比良山系も見える。　…番号132　62 歳（上仰木 男性）

自然

■ 青い空、白い雲、燃える愛珠沙華の土手。自然の色が織りなす綺絵。
…番号185　88 歳（平尾 女性）

■ 野山でささゆりをよく取った。あのいい匂いが忘れられない。　…番号100　68 歳（上仰木 男性）

■ 当時の事では無いのですが一今を感じること、自然の中で暮らしていると、四季の移り変わりがよくわかります。春には、野の花が咲き、山は若葉が萌り、夏には木々が緑々と繁り、様が枯れ、秋には稲が黄金色に輝き、紅葉になり、冬は枯れ葉舞い、木枯らしが吹き、冬の季節…　これらは一般的な事ですが、特に感じる事は、お岩岸の傍になると自からずっと季節を忘れず、真赤な彼岸花が土手に並ぶし、真夏になると小鮒から赤ぶら鮒、つくつく ほうし、ミンミン蝉と鳴き声が変わる様を毎年聞いて…　夏になった一、真夏になった一、夏も終りだと、知る事が出来ます。今、私は、こういう仰木に住んでいます。
…番号156　63 歳（上仰木 女性）

仰木の里団地

■ 仰木の里団地の所は、山や田んぼばかりだった。
…番号180　62 歳（比ヶ下 男性）

開発

■ 村の中には近道・抜け道がたくさんあったが、今は少なくなった。
…番号30　年齢未入力歳（下仰木 性別未記入）

■ 開発が進み丘や森がなくなった。代わりに家が多くなってきた。…番号99　64 歳（上仰木 男性）

風景 2

道・交通

地道

■ 田んぼなどの道は狭く、でこぼこだらけだった。
…番号 27　63 歳（下仰木 女性）

■ 道路は地道であった。
…番号 33　60 歳（下仰木 男性）

■ 道路も舗装されてない土の道だった。
…番号 39　73 歳（下仰木 男性）

■ 道路は普通の土の道であった。
…番号 60　69 歳（下仰木 男性）

■ 道はアスファルトじゃなかったので車が通るとほこりが舞い上がった。
…番号 88　64 歳（上仰木 女性）

■ 舗装されていない道路。
…番号 98　64 歳（上仰木 男性）

■ 道路は舗装されておらず、雨が降った後などは、荒れて石がゴロゴロ出て歩くと手ら因難だった。
…番号 105　66 歳（上仰木 女性）

■ 舗装道路ではなく砂埋を敷けていた。
…番号 160　64 歳（上仰木 男性）

■ 昔の道は地道であった。
…番号 170　65 歳（平尾 男性）

■ 昔のでこぼこ道も今は塗装され、車も通りやすくなった。歩くことが少なくなった。
…番号 168　77 歳（平尾 女性）

砂利道

■ 県道は曲がりくねったじゃり道だった。
…番号 11　70 歳（下仰木 男性）

■ 舗装されていないでこぼこな砂利道。
…番号 76　年齢未入力歳（下仰木 男性）

■ 私たちの子供の頃は道路が砂利道だったのでよくころびました。…番号 143　67 歳（上仰木 女性）

■ 坂道は、アスファルトやコンクリートじゃなくて、砂利道ばかりだった。
…番号 157　66 歳（上仰木 女性）

■ 道もアスファルトでなく石ころの多い道でした。雨が降ってもぬ地面に悪いついていた。
…番号 173　73 歳（下仰木 女性）

道の思い出

■ 堅田へ行く道は元は細くて曲がりくねっていた。ゲートボール場のある所は梨もきつかった。堅田行くには バスが通っていなかったので歩いていた。途中に池があって、そこで一休みをした。
…番号 63　年齢未入力歳（下仰木 女性）

■ 子供のころ田園へと続く道は、舗装ではなくそのままの地道で、ちらら徒歩で、帰り道にミチシルベ（正式名ハンミュク（照明））という店が地図にいて、近づくとまだ前へ2mほど飛び、その繰り返しでした。小さな青い虫で今では、すっかり見なくなりました。…番号 118　58 歳（上仰木 男性）

■ 道も狭く車がよく溝地の川に入り込みました。今は広くなって通りやすくなりました。でも、子供（30～35 歳）は、まだまだ便利が悪いそうです。
…番号 153　62 歳（上仰木 女性）

バス

■ アスファルトが無く、道路はバスが通った後は砂埃が充満した。上印木のメインの道路の幅は狭く、バスが通れば洗面の家にスレスレで当りそうだった。
…番号 74　66 歳（下仰木 男性）

■ バスの通った後の砂ほこりはすごかった。
…番号 85　年齢未入力歳（上仰木 男性）

■ 1 日数回ボンネットバスが通っていた。
…番号 160　64 歳（上仰木 男性）

車がない

■ 車がなかった、皆歩いていた。
…番号 31　69 歳（下仰木 男性）

■ 自転車があれば良いほうだった。
…番号 31　69 歳（下仰木 男性）

■ 昔は堅田までバスがなく歩くか自転車でした
…番号 60　69 歳（下仰木 男性）

■ 交通機関はすべて最寄駅まで徒歩。
…番号 109　73 歳（上仰木 男性）

■ 現在あたいに車はないし、歩いて荷物を持って遠いところまで行きました。えらかった。
…番号 93　71 歳（上仰木 男性）

荷車

■ 私たちの子供の頃は、重たいものを運ぶ時は荷車を牛に引っ張ってもらってガタガタ道を歩く生活でした。秋は百が別いのて、幾くなってズが痛ってくる時、タイヤが金の玉だったので、チャリンチャリンと大きい音が聞こえてくると「ああおじさんの音や」と言って、外へ近道えに行ったものです。本浜になにもかもが、懐かしいです。いろいろ思い出させてもらってありがとうございました。
…番号 89　69 歳（上仰木 女性）

ポンプ車

■ 仰木四部屋の手押しポンプ車が、ガタガタと砂埃を上げて大事場に急く音とかけ声。
…番号 166　72 歳（上仰木 男性）

外灯がない

■ 外灯がなかった。
…番号 33　60 歳（下仰木 男性）

■ 仰木村には外灯がなく真っ暗であった。
…番号 33　60 歳（下仰木 男性）

■ 昔は仰木から堅田、仰木から越琴間に家はなく夜は暗く地道で怖かった。
…番号 129　70 歳（上仰木 男性）

わら葺き・台風

わら葺き屋根

■ 小学校や諸学校の裏側から山を背にワラ屋根の集落を写ました。今、その場所を通ると瓦屋根に変わっているが他は変わっていない。なつかしい風景。
…番号 23　72 歳（平尾 女性）

■ 台風が来た後は、ワラが逆いっぱいに散らかった。
…番号 27　63 歳（下仰木 女性）

■ わら葺きの家はかりだった。
…番号 33　60 歳（下仰木 男性）

■ わら葺き屋根は夏は涼しく、冬は暖かかった。
…番号 38　74 歳（下仰木 男性）

■ 麦わら葺きの屋根はかりではなく、瓦屋根も一割ぐらいあった。…番号 39　73 歳（下仰木 女性）

■ 私の家は扇がすぐ竹や沢で麦わら葺きの屋根の時は毎年屋根葺き屋さんに お世話になっていました。それが大変なので私が嫁いで 1 0 年ぐらいで屋根だけ瓦を上げてもらいました。それでも竹藪は 1 日 日が あたらないのでうら屋根よりはいいけれど、大風になったら皆がいっぱいで今でも困っています。
…番号 62　62 歳（下仰木 女性）

■ 昔はよく台風が通過したので、その後どこの家も屋根がめくれてワラが飛んで骨組みだけになって奇妙な姿になっていた。
…番号 133　69 歳（上仰木 男性）

■ 雪の積もった夕即迫る頃、雲翼さの家々から立ちとる夕けの煙。私は雪国色が好きで、特に、この炎色はほの温のとして、せつなくなりました。(40～50 年前かな？)
…番号 156　63 歳（上仰木 女性）

■ わら屋根。…番号 159　71 歳（上仰木 男性）

■ 昔は麦わらぶきが多かった。
…番号 164　79 歳（上仰木 女性）

■ わら屋根が古くなり新しく葺き替えられた時、美しくとても立派でした。
…番号 165　76 歳（上仰木 女性）

台風

■ 恐ろしかった秋の台風。　現在は台風の進路に変化がおきたのかあまり大きな被害を与える台風はこちらへはやってこずありがたいことだが替は大変恐ろしかった。昭和 28 年の第 13 号台風で、近畿各地が大被害を受けたが、仰木も同じく大変であった。台風の吹き荒れる中、一枚の大きなトタン板がフワフワ風に流されて飛んでいて、その後をまだとどの音が一瞬、風に乗って舞うように飛び去っていく。こうこう鳴る風の音は不気味でふるえが止まらない。私は子供を背におぶって雨戸がはずされて大変と全身の重みをかけて雨戸を押さえている。母は布団を入れた部屋の隅で「ナムアミダブツ」をとなえながらふるえている。夫は市の職員で地域の巡回に出たままである。恐ろしい時間がすぎ台風一過の後はまた大変。温屋根がすっぽり飛ばされて雨天井になった家々もあり、どこの家にも被害が大きかった。わけて小野神社の大杉の境内は日頃薄暗いまでに茂り巨樹であったのが ぽっ端から根こそぎなされ、現在残されている 3 本の大杉のみとなった。青空が眺めを見下ろし、明るい光がいっぱい差し込んでいたが、無残にたおされた大杉の重なる光景は、何ともいえぬ淋しさ悲しみが込み上げてきたのを覚えている。あちこちの棚田のくずれ、道路のいたみなどその修復は大変だったと思いている。今日建っている建物の多くを見る時、細い柱、薄い板で張られた屋なと、道築中の姿を見る時、あれて大きな台風に堪えられるのかしらと不安を感じさせられる。長年やってこない台風の怖さを知ら幼人々も多いように思うが・・・。
…番号 185　88 歳（平尾 女性）

煙突

■ 夕方になると外のお風呂のエントツから煙が出ていた。
…番号 80　63 歳（下仰木 女性）

暮れ六つ

■ 田舎の情景としては暮れたがなつかしい
…番号 42　86 歳（下仰木 男性）

お祭り

■ 仰木祭りの御影（こかげ）。日が暮れてから御影道を行く。御興と松明のあかりが水田に映り、今でもわすれられない。現在は小学校の校庭に簡単に入れないのでみられなくて残念だ。
…番号 23　72 歳（平尾 女性）

■ 松明の明かりに映える神興漏斗。音代に移りゆく神興の美しさ、姿の古唐を交えて幻想的世界に誘われる。仰木祭の終わりの圧巻である。
…番号 185　88 歳（平尾 女性）

■ 新緑の野路を行く若宮祭子供神輿漏斗太鼓がひびく。若宮子供神興漏斗（5 月 2 日）目に沁める新緑の野路を進む激御の一行、仰木太鼓少年団の打ち鳴らす太鼓のひびと浴びあってひはずませる幸せなふるさとの光景である。
…番号 185　88 歳（平尾 女性）

時代劇

■ 小学生頃撮影風景を見るのがたのしみであった美空ひばり、片岡千恵蔵、東千代之介など、小生の家の中でお食事もされていた。そのころ庭にはむしろに脱が干してあり、近所の人や多くの人が見に来て脱をむしるからこぼされ困ったことがあった。時代劇に欠かせない風景である。
…番号 86　67 歳（上仰木 男性）

■ 水車がある時代は、よく映画の撮影があり当時 名優がよく目の前で見られたもの・・・山水を取ぶしたきれいな水が流れコトコト、コツトン、あれは水車の回る音・・・懐も懐かしく・・・時代はめまぐるしく変っていく。現在の子供達にもトンボやヤワガニや小川の魚釣りができる町を残さなければならないと思う・・・。
…番号 94　76 歳（上仰木 男性）

■ 雑琴へ通じる道で時代劇の撮影がよくあった。
…番号 178　68 歳（辻ヶ下 男性）

■ 旅芸者が脱って来られたのでよく見に行った。
…番号 106　72 歳（上仰木 女性）

■ 電線が少なく、わら屋根も多く、石ころのガラガラ道で上仰木は水車も多く収道、細道、標田、だんだ畑があったので、時代物の映画の撮影が多かった。
…番号 127　69 歳（上仰木 女性）

■ 仰木は、以前より時代劇のロケ地として、東映や、大映などが来ていました。小枝神社、杉谷、苗合、天社門、みょうが橋等、今でも古い映画には必ずといっていいほど、その場面が出て来ます。大川橋蔵、大川恵子、美空ひばり、中村錦之助　片岡千恵蔵　若山富三郎、丘さとみ等と子供の頃より有名な俳優を目にしていたこと、自慢の一つです。
…番号 179　63 歳（辻ヶ下 女性）

田畑仕事 1

田んぼ

田植え

■ 田植えの時、今は機械で植えるけど春は 3 ～ 4 人がならんで人が植えていた。また、他所の田まで植え に行っていた。…番号 10　63 歳（平尾 女性）

■ 昔の田植えは 6 月中旬と遅く、春耕が暇いて、蒸し暑さをいっそう感じました。寒すると日本人として大切にすべき文部省唱歌『冬況色、眉月夜、夏は来ね』が似合う所でした。
…番号 118　58 歳（上仰木 男性）

■ 田んぼに福種。
…番号 155　年齢未入力歳（上仰木 性別未記入）

■ 雨の日にゴザ編をつけての田植え姿やワラ蓑姿。
…番号 166　72 歳（上仰木 男性）

■ 農繁期、春は高学年など全員で田植えの実習が行なわれ、秋は稲刈り、その他のこともよく手伝って働いた。　…番号 185　88 歳（平尾 女性）

■ 田植え機は無かった。苗取り、苗植え、秋の稲刈り、足で稲をこく、白ずりも全て手で行った。　草取りは手押し車で雑押しをした。
…番号 21　75 歳（平尾 女性）

■ 昔は田植えは手で植え、秋には鎌で田刈りをして、車はないので肩で荷った。朝は早くから夕方は日暮れ迄までの仕事だった。
…番号 131　71 歳（上仰木 女性）

■ 田植えも手で植えたので固い土は痛かった。
…番号 49　71 歳（下仰木 女性）

素足で

■ 田んぼに入る時は素足でくつを はく等考えもしない昔だった。手はもちろん素手でした。
…番号 127　69 歳（上仰木 女性）

■ 田植えをするときはだしで中に入ったこと。
…番号 3　66 歳（平尾 女性）

■ 今と違い春になると、早くから田んぼに連れて行かれた。朝がないので、水が冷たくて足がはれていました。　…番号 24　80 歳（平尾 男性）

■ 田植えも素足で冷たかった。
…番号 49　71 歳（下仰木 女性）

■ 私らの時は 3 月の末ぐらいの寒い時に素足で水田の中にはいって仕事をするのが大変寒かったのを覚えています。今は靴をはくので楽ですよ。
…番号 62　82 歳（下仰木 女性）

■ はだしで田んぼに入った時に指の間に入る泥の感触。…番号 64　年齢未記入（下仰木 性別未記入）

■ 小学生のころ、田んぼに素足で水稲の苗とり、田植えした土、水の感触。
…番号 86　67 歳（上仰木 男性）

■ 子供の頃は田んぼへ入るのは素足なので、あぜ道を歩くとき草が刺さって「イタタ、イタ」と、言いながら走り回っていたが、楽しかった。
…番号 89　69 歳（上仰木 女性）

■ ももひき、ハバキをはき、素足で田んぼの中へ入り、足が冷たかった。
…番号 93　71 歳（上仰木 男性）

■ 五月の農作業、素足で作業をした。
…番号 105　66 歳（上仰木 女性）

■ 田んぼに入る時、素足で入った土の感触。
…番号 116　72 歳（上仰木 女性）

■ 田んぼに行くときは女はそうり、男はわらじの履物だったので、よく足が小石などで切れた。当然田んぼの中ははだしで入ったので切り傷がなくなることはなかった。…番号 133　69 歳（上仰木 男性）

■ 田んぼも素足で入っていた土の感触。
…番号 160　64 歳（上仰木 男性）

■ ムシロに初を ほす時に素足で作業した自然の感触。　…番号 178　68 歳（比ヶ下 男性）

手仕事・牛

■ 田んぼの仕事は牛と手作業ばかりで機械はなかった。　…番号 9　64 歳（平尾 女性）

■ 牛で田んぼを耕す姿。
…番号 79　60 歳（下仰木 男性）

■ 牛で田んぼを耕す風景がよく見られた。
…番号 86　67 歳（上仰木 男性）

■ 現在は機械化されていますが昔は牛で田んぼを耕していました。
…番号 93　71 歳（上仰木 男性）

■ 農業は全部手仕事でした。
…番号 97　75 歳（上仰木 女性）

■ 田んぼで働く牛と人。
…番号 98　64 歳（上仰木 男性）

■ 農機具はなく、牛で田は耕し、牛車で荷物は運んでいた。　…番号 105　66 歳（上仰木 女性）

■ 農作地区であり、家畜役牛に頼りながら、機械はすべて人力で行った。
…番号 109　73 歳（上仰木 男性）

■ 田んぼを牛で耕していた。
…番号 122　60 歳（上仰木 男性）

■ 田んぼを耕作するのに牛でカラスキを引っ張り、耕していた。　…番号 129　70 歳（上仰木 男性）

■ 牛で田鋤ぎをしていた。
…番号 155　年齢未入力歳（上仰木 性別未記入）

■ 田んぼは牛で耕し、田植えは人力であった。
…番号 160　64 歳（上仰木 男性）

■ 荷車を牛で引いて帰って来る姿。今から思うとなつかしく、感心します。
…番号 165　76 歳（上仰木 女性）

■ 土質。土質は粘土層で疎せた土地が多く、農耕には人力だけではとても困難であり、先祖の人々は苦 苦の中から牛を飼い、労力の重要な担い手として大切に扱い、共生してきた。
…番号 185　88 歳（平尾 女性）

■ 牛がひく荷車は金車と言った。脇の中心につけた真鍮の飾りと、車の心棒の先にさしている殻が打合ってチンチンとかジャンジャンと、なんともいえん良い音がするのが自慢でした。
…番号 72　83 歳（下仰木 男性）

■ 牛で荷車を引いていた。コトコト走らせる音がしていた。　…番号 157　66 歳（上仰木 女性）

■ 田んぼは牛で耕し、くわで 3 回鋤かく土をかへ。
…番号 21　75 歳（平尾 女性）

■ 昔は牛に田んぼ以の仕事をしてもらわないと人だけでは出来ない事ばかりでした。今は機械がしてくれますので百姓も大変楽になりました。
…番号 62　82 歳（下仰木 女性）

■ 牛ですいた田んぼの土を手(掬)でこまかくかくって手に豆が出来てつぶれると痛かった。
…番号 181　68 歳（比ヶ下 女性）

■ 小学生の頃から牛でカラスキを持って田んぼを耕した。またクワでかくれば、大昔に焼火した跡と思うが、火山の灰色の土がにゅっと出てきた。この土が粒ぐとクワがはね返ってきて鍬かくで進まなかった。その場所の付近へいったら牛が沈んで行って牛がなかなか上がれなかったこと、とてつもなく長い金属竹を差してもぐんでいたことなどを覚えている。　…番号 86　67 歳（上仰木 男性）

■ 手で田んぼを耕作していたので牛は一家の一員であり大切な家畜であった。正月はお雑煮も食べさし、毎日体をかいたり洗ったりして牛とともに生活していました。　…番号 133　69 歳（上仰木 男性）

草刈り

■ まぜ刈り（草刈り）。
…番号 21　75 歳（平尾 女性）

■ 炎天下、ただ黙々と田んぼの草をとる。
…番号 65　年齢未記入（下仰木 性別未記入）

■ 小学生の頃から牛のエサとして手で草刈りをしたこと。手を切ったり、草を刈っている何とも言えない音や感触を覚えている。
…番号 86　67 歳（上仰木 男性）

■ 夏の田んぼの草取りが大変。今は農薬使用。
…番号 109　73 歳（上仰木 男性）

■ 朝仕事に牛の飼料用の草刈、束にして棒に突き刺してかついで帰る。
…番号 158　76 歳（上仰木 男性）

■ 田んぼの 2 番 3 番休みの頃になると田んぼの草が次々と生えてきて休みどころじゃありません。戦争中は特に市が降らず、田んぼの水入に苦労し来てたのでした。　…番号 72　83 歳（下仰木 男性）

ゆお（野小屋）

■ 田んぼには必ずといってよいほど野小屋があり、自分で建てた稲藁で屋根をふき合う掌造りであった。農道具を入れていた。
…番号 12　71 歳（下仰木 男性）

■ 田んぼには、ゆお（小屋）が沢山建っていた。ゆおにはハンモックもあった。
…番号 49　71 歳（下仰木 女性）

■ 農小屋は荒難き。
…番号 109　73 歳（上仰木 男性）

■ 昔はほとんど各田んぼに小さな野小屋あり、農前になると お茶を沸かす薪が上りお弁当がおいしかった。
…番号 111　75 歳（上仰木 女性）

■ 田んぼ小さな野小屋かたくさんあった。
…番号 155　年齢未入力歳（上仰木 性別未記入）

■ 田に休憩する小屋があった（ユオ）。
…番号 177　88 歳（比ヶ下 男性）

■ 田んぼの中にある手作りのわらぶき小屋。
…番号 178　68 歳（比ヶ下 男性）

■ 田んぼにはいろろな所にわら蓑ぎの「ゆお」が作られ、農家仕事に出ても、いっぷく様、荷物置場、子供や赤ん坊の昼寝の場所として、涼さや暑も防げ、昔の人々の生活の智がにじんでいるものです。
…番号 179　63 歳（比ヶ下 女性）

一番休み、三番休み

■ 田植え の終った頃の一番休み、三番休みをふれる係の人の声がなつかしい。
…番号 41　72 歳（下仰木 男性）

もみ干し

■ ムシロには、秋になると籾が一面に干してあった。
…番号 17　61 歳（下仰木 女性）

■ 昔は秋の初ほしはムシロでしていた。
…番号 51　82 歳（下仰木 女性）

■ 脱穀した籾のムシロ干し。
…番号 166　72 歳（上仰木 男性）

稲刈り一稲木一脱穀

■ 稲刈りの日曜日は、皆でお弁当を持っての作業ですがたくさん大変なので、おひつ、おちゃわんを持って、お昼になると、川で水を浚んでおいしいちゃんとお茶を沸かすのです。田んぼの真ん中でムシロをひいて、おやつとおかずを囲んでみんなでワイワイと楽しいお昼のひとときがとっても楽しみでした。楽しかったひとときをしみじみと思い出しています♥
…番号 89　69 歳（上仰木 女性）

■ 稲刈で指と一緒に刈った時の痛さ忘れられない。今もあとが残ってる。
…番号 154　77 歳（上仰木 女性）

■ 今はコンバインで稲刈りをするが私たちの子供の頃は、稲木に稲をかけて、足ふみ機械で脱穀して、籾をムシロで天日干しするのですが、その頃は車もないので、家の門や道端にムシロを並べて、どこの家も、家族皆で籾干しをして、今から思えば優雅な風景だったと思います。
…番号 89　69 歳（上仰木 女性）

■ 田んぼには稲木が並んでいた。
…番号 15　59 歳（下仰木 男性）

■ 農繁期の田んぼの真ん中にはイナキがたくさん建てられていた。…番号 74　66 歳（下仰木 男性）

■ 秋はどこの田も稲木干しをした。
…番号 112　62 歳（上仰木 男性）

■ 秋の稲刈りが終った後、“いなき”（稲を干す為の竹の棒）が各田んぼにみられた。
…番号 102　66 歳（上仰木 男性）

■ 秋のイナゴキの音。今はコンバインの音に変わった。　…番号 48　53 歳（下仰木 女性）

■ 稲を刈るザクザクザクという音。干した稲を足踏脱穀機で脱穀するギコギコギコ等色々な音がありました。　…番号 127　69 歳（上仰木 女性）

■ 秋の収穫足ふみ乾燥機の音。
…番号 42　86 歳（下仰木 男性）

■ 取り入れの時、あちこちの田んぼから足ふみの稲こきの音が聞こえてきた。
…番号 23　72 歳（平尾 女性）

■ 雑穀機で田んぼ稲を扱く音 “ガックンガックン”。
…番号 35　64 歳（下仰木 男性）

■ ガーグーンガーグーン足踏式脱穀機の音。
…番号 53　67 歳（下仰木 男性）

■ 稲刈り頃になると足ふみ機械であっちの田でもこっちの田でもギーコギーコと聞こえていた。
…番号 63　年齢未記入（下仰木 女性）

■ 足でふんで稲こきのガリアーーという音。
…番号 121　90 歳（上仰木 女性）

■ 米の脱穀は足踏み脱穀機でガーコンガーコン
…番号 129　70 歳（上仰木 男性）

■ 朝から玄米にするのに発動機のスーパスーパパスパスパという音。
…番号 129　70 歳（上仰木 男性）

■ 稲、豆こきのガァラガァラという音。足でふみながら豆や稲を扱いだ。
…番号 145　64 歳（上仰木 女性）

■ 足踏み脱穀機の音。
…番号 166　72 歳（上仰木 男性）

■ 発動機（ディーゼル）の音。
…番号 178　68 歳（比ヶ下 男性）

畑

麦

■ 麦ふみ、麦の土入れをよく手伝った。
…番号 67　61 歳（下仰木 女性）

■ 麦づくりの種まきは 11 月～ 12 月の寒いとき。
…番号 107　76 歳（上仰木 女性）

■ 刈取りは夏の盛い 7 月。
…番号 107　76 歳（上仰木 女性）

■ 種まきは自家採種。
…番号 109　73 歳（上仰木 男性）

■ 麦の刈り取りの時、顔や手足がイガイガ、シカシカと痛かった。…番号 174　75 歳（上仰木 女性）

綿づくり

■ 綿を沢山作っていたので、子供の私は綿の花取りに、また綿糸を作るのに種を取る作業を手伝ったものです。
…番号 34　74 歳（下仰木 女性）

遠野

■ 雑琴温泉に近い所、仰木のはずれを遠野（とうね ん）という小字で呼び、そこでとれる畑作物は大切にされた。　…番号 144　67 歳（上仰木 男性）

肥料

■ 畑に肥しのにおいがよくしていた。
…番号 49　71 歳（下仰木 女性）

■ 冬季の飼料（待存肥料）のため、家の屋先で草を干す。　…番号 92　70 歳（上仰木 男性）

■ 畑に下肥を作物にほどこした。
…番号 94　76 歳（上仰木 性別未記入）

■ 畑を通ると下肥のにおいがした。
…番号 112　62 歳（上仰木 男性）

■ 牛小屋の敷きわらを田んぼの肥料にするため、素手で掻き敷らした後は手がつるつるになった。
…番号 127　69 歳（上仰木 女性）

米作りと生活

■ 昔は親は子のため死にものぐるいで田植して 1 日中働いた。子も親を楽に ほせるために、風呂のおくみ、新刷り、田畑の手伝い、縄ぬい、子守りなど、何でも小さい時から家の手伝いをした。
…番号 38　74 歳（下仰木 男性）

■ 昭和 30 年代（小・中・高校生）時代は良かったなぁー。米作りで生活が出来た時代です。
…番号 132　62 歳（上仰木 男性）

■ 昔はすべて、手作業だったため、母は朝早く起き、田植え時期には、手で苗取りし、束ね、運び、植え、家事をし…また、夜は夜で家族の被物、農業服作りや、縄綯い、むしろ織りなど…母は細い体でよく働いた。私も苗取りや田植えなど手伝っていたが、母には頭が下がる。
…番号 156　63 歳（上仰木 女性）

田畑仕事 2

わら

わら打ち

■ わら打ちの音がしていました。
…番号 20　68 歳（下仰木 女性）

■ 昔は米の供出時の袋はわらで編んだ俵。今は抵袋。
…番号 78　67 歳（下仰木 男性）

■ 夜はよなべにわら打をしました。またよなべにあちらこちらとひっかけて縄ぬいをしました。
…番号 24　80 歳（平尾 男性）

■ 米を入れる俵を作るため、木の音がカタンカタンとしていた。…番号 67　61 歳（下仰木 女性）

■ カン打ちと言って、藁打ちを寒い時季にしていた。
…番号 124　76 歳（上仰木 男性）

■ 冬の夜は、寒打ち、わらを打つ音がした。
…番号 126　75 歳（上仰木 女性）

■ 冬の夜、わら打ちの音。お友達と二、三人で。
…番号 134　88 歳（上仰木 女性）

■ 夜 7 時頃から友達と一斉にわら打ちをしていました。トントントン。
…番号 169　64 歳（平尾 女性）

■ わらのにおい。
…番号 50　64 歳（下仰木 男性）

■ わらのにおい。
…番号 66　73 歳（下仰木 男性）

縄縫い

■ ガラガラと縄をあむ音。
…番号 8　62 歳（平尾 女性）

■ 縄をなう音。…番号 69　62 歳（下仰木 女性）

■ 筵織機、縄綴機、雑穀器。
…番号 142　78 歳（上仰木 男性）

■ 縄をぬう機械の音が聞こえていた。
…番号 147　87 歳（上仰木 女性）

■ 縄を縫うわらを打つ音。
…番号 178　68 歳（辻ヶ下 男性）

■ 夜なべでシャリシャリと縄を綯う音。
…番号 181　68 歳（辻ヶ下 女性）

■ 縄結びには、男結びと女結び、スットコ結びもあります。…番号 141　63 歳（上仰木 男性）

俵

■ 俵を編む音。…番号 4　62 歳（平尾 女性）

■ 俵を編む音（カチンコチン）。
…番号 106　72 歳（上仰木 女性）

ムシロ織り

■ 小屋にムシロを織る機械があり、祖母がムシロを織っていた。…番号 17　61 歳（下仰木 女性）

■ 昔はムシロ、なわを家で作っていた。
…番号 37　58 歳（下仰木 女性）

■ 縄ぬい、ムシロ織りの機械があった。
…番号 50　64 歳（下仰木 男性）

■ ムシロの縄ぬいが多かった。
…番号 164　79 歳（上仰木 女性）

■ ムシロを織る音。
…番号 4　62 歳（平尾 女性）

■ ガタン　トントンとムシロを織る音。
…番号 8　62 歳（平尾 女性）

■ ムシロを織る機械の音。
…番号 9　64 歳（平尾 女性）

■ ムシロ織りの音や縄ぬいの機の音。
…番号 11　70 歳（下仰木 男性）

■ ムシロパタの音　トントンパタパタ。
…番号 14　74 歳（下仰木 女性）

■ ムシロ織りの音。…番号 21　75 歳（平尾 女性）

■ 昼間はムシロをトントンと織る音も聞こえてくる。…番号 29　68 歳（下仰木 男性）

■ 納屋でムシロを織る音が聞こえた。子供はわら打ちを手伝った。…番号 32　62 歳（下仰木 男性）

■ ムシロを織る音が時折聞えることがあった。
…番号 40　82 歳（地区未記入 男性）

■ 農閑期にはムシロ織機の音が聞こえた。
…番号 41　72 歳（下仰木 男性）

■ 昼間はムシロを織る音がかたんかたんとしていた。…番号 44　69 歳（下仰木 女性）

■ ムシロ織機の音がシーコートントン聞えていた。
…番号 47　76 歳（下仰木 男性）

■ ムシロ織りの音がパタパタンしていた。
…番号 49　71 歳（下仰木 女性）

■ 私たちの娘の頃は、友だちと家を順番に廻して夜なべに田んぼ行き用のわら草履を作ったりムシロを織る縄をぬったりしました。お昼はムシロを織って家計の足しにしていた事を覚えています。
…番号 62　82 歳（下仰木 女性）

■ ムシロをおっている音が聞こえてた。
…番号 63　年齢未記入（下仰木 女性）

■ ムシロを織る音。
…番号 64　年齢未記入（下仰木 性別未記入）

■ 秋の取り入れが終わると、ムシロを織るための縄をなう機械の音、ムシロを織る音が聞こえていた。
…番号 67　61 歳（下仰木 女性）

■ ムシロを織る音。
…番号 69　62 歳（下仰木 女性）

■ 秋には昼にはムシロを織る音が聞えていた。
…番号 74　66 歳（下仰木 男性）

■ ムシロづくりの音。
…番号 75　66 歳（下仰木 男性）

■ ムシロ、織る音がした。
…番号 84　75 歳（上仰木 女性）

■ 足踏みの機械で縄を綯う音、ムシロを織る音。俵を編む時に木のおもりが交差する時に、木と木があたる音。…番号 86　67 歳（上仰木 男性）

■ 冬仕事に、男の人はわら打ちをし、女の人はパタパタとムシロを織っていた。
…番号 89　69 歳（上仰木 女性）

■ ムシロを織る音。
…番号 91　72 歳（上仰木 女性）

■ ムシロ織りの音、トントン聞こえました。
…番号 93　71 歳（上仰木 男性）

■ ムシロ織りの音が聞こえた
…番号 95　80 歳（上仰木 男性）

■ 冬にはムシロを織る音。
…番号 105　66 歳（上仰木 女性）

■ ムシロを織る音。
…番号 106　72 歳（上仰木 女性）

■ ムシロ織の音がしていた。
…番号 115　71 歳（上仰木 男性）

■ ムシロ織りの音。
…番号 116　72 歳（上仰木 女性）

■ ムシロを母親がカシャカシャとよく織っていた。
…番号 122　60 歳（上仰木 男性）

■ ムシロ織りの音。
…番号 128　76 歳（上仰木 女性）

■ 親がムシロ織る音、夜なべのみみ縄を綯う音、とんとん、良い音やった。なつかしい。
…番号 130　74 歳（上仰木 男性）

■ 冬場になると母がムシロ織りをしていましたのでシューシュートン、トンと小屋からよく聞こえていました。…番号 143　67 歳（上仰木 女性）

■ ムシロ織りの音カタン、カタンとしていた。
…番号 155　年齢未記入（上仰木 性別未記入）

■ 11 月末には取入れに使ったムシロをたたく音がした。…番号 161　86 歳（上仰木 男性）

■ 冬の農閑期はわらの材料で、ムシロのタンタンとなる音がした。…番号 168　77 歳（平尾 女性）

■ トントンツツコートントンツゥーと、母のムシロを織る音が一日中聞こえました。
…番号 169　64 歳（平尾 女性）

■ ムシロ織のシュウタンタン。
…番号 181　68 歳（辻ヶ下 女性）

■ ムシロ織の手機の音。農閑期の主婦の仕事にムシロを織って出荷して副業とした頃があり、終日あちこちで機織の音が聞こえた。多く織る人で 6 ～ 7 枚も織ったのだろうと思う。
…番号 184　80 歳（辻ヶ下 男性）

■ ムシロを家で織っていたのでわらのにおいがしていた。…番号 148　66 歳（上仰木 女性）

■ 各種稲藁細工物は、ムシロ、腰掛、縄、カマス、敷物、蓑（雨合羽）、敷物入れなどがありました。
…番号 183　69 歳（辻ヶ下 男性）

精米

うす

■ 私の 6、7 才の頃、わら小屋でお爺と父の弟と私の母親の 3 人で舂が降ってるまで臼すりをしていました。…番号 72　83 歳（下仰木 男性）

■ 私は 6 才で手伝うとはいきませんが昔は土臼でした。…番号 72　83 歳（下仰木 男性）

■ 土臼の 1 間ほどの玄木の真ん中へ入って、お爺にこいつは強いと言われるとうれしくて、ずっとク方まで手伝うのでした。
…番号 72　83 歳（下仰木 男性）

■ 土臼は、一日によくすれて 4 俵程だったと思います。…番号 72　83 歳（下仰木 男性）

■ 現代なら日で米するなら、4 俵や 5 俵は 10 分程もかからないでしょう。
…番号 72　83 歳（下仰木 男性）

■ 石臼の臼すりは私の小学生のころから姿を消しました。…番号 72　83 歳（下仰木 男性）

■ 昔は臼すり（米になること）が遅かったので、手伝うのに米の中に足を入れたのが冷たかった。
…番号 106　72 歳（上仰木 女性）

■ うす。…番号 33　60 歳（下仰木 男性）

その他

■ 秋にすずめ追いの鳴子の音もなつかしい。
…番号 25　99 歳（平尾 男性）

■ 穀運機のエンジンをかける時のポンポンポンと大きな音。…番号 171　74 歳（平尾 女性）

■ 田畑でよく草を燃やす匂いがした。
…番号 74　66 歳（下仰木 男性）

仕事っぷり

■ 大人の人はもったいないと言って夜遅くまで夜なべをしました。…番号 72　83 歳（下仰木 男性）

■ ムシロを作る主婦たちの手早さに感心しました。
…番号 72　83 歳（下仰木 男性）

水車

■ 水路に水車がいくつもあり、水車小屋でお米を精米していた。…番号 85　年齢未入力歳（上仰木 男性）

■ 水車、上仰木寺念寺〜天社門の間に八か所あり、各近隣グループに借り、順番制で精米していた。
…番号 92　70 歳（上仰木 男性）

■ 冬季の厳寒時は水車を停止する。
…番号 92　70 歳（上仰木 男性）

■ 水車小屋があり、米ふみをしていた。
…番号 108　60 歳（上仰木 男性）

■ 水車があった。水車で米ふみをしてた。
…番号 116　72 歳（上仰木 女性）

■ 昔は水車小屋が有って、米を玄米から白米にしていた。…番号 129　70 歳（上仰木 男性）

■ 水の湧き水の流れのよい所に玄米を白くするための水車があり、こっとん、こっとんと音がしていました。…番号 134　88 歳（上仰木 女性）

■ 米ふみの水車。
…番号 155　年齢未入力歳（上仰木 性別未記入）

■ 私達の子供の時は、精米は水車で米ふみをしていた。精米機がなかった。
…番号 157　66 歳（上仰木 女性）

■ 川の水車小屋があり、昔は米を踏みに行きました。
…番号 168　77 歳（平尾 女性）

■ 上仰木の水車小屋。昭和 30 年頃より以前に上仰木に 7 ～ 8 連程水車小屋の連なった坂道があった。個人で所有されたもの、また、10 ～ 15 軒程の共用で主に米の精米に使用され、また、米の粉をつくられたりしていた。時代と共に電気での精米に変わってゆき、今は見ることが出来ない。その中でも代表的な水車は「トスケ」（屋号）の水車で、直径は 4 m以上はあり、それは圧巻であった。ゴトゴトとギィギィと止まる事なく働き続けていた姿はやもなつかしさ思い出が沢である。
…番号 184　80 歳（辻ヶ下 男性）

■ 水車へ行くのに提灯を持って行くと、竹の音・川の音が耳に残る。…番号 14　74 歳（下仰木 女性）

■ 水車で米ふみ。…番号 21　75 歳（平尾 女性）

■ 水車に行ってゴトンゴトンの音がうれしかった。…番号 87　55 歳（上仰木 男性）

■ 水車は家より少し離れた川の近くにあったので、当番が来た時は母について行ったものです。ゴトン、ゴトンと石うすにつかれる丸棒、お米が白くなるのが不思議でならなかった。
…番号 179　63 歳（辻ヶ下 女性）

■ 水車の順番の際、米ふみは重いので、親に付いて行き、少しでも米を運んだ。
…番号 91　72 歳（上仰木 女性）

山仕事

毎日やった

■ 草刈、芝刈、木ノ葉かき が毎日やった。
…番号 53　67 歳（下仰木 男性）

木の葉かき

■ ガスがまだない時代近くの山ハコナハや枯れた枝を拾いに子供は行ったものです。
…番号 8　62 歳（平尾 女性）

■ ガスも無かった。学校帰ると宿題は後にし、山へたき火木の薪かき、取と焚使い運んだ。
…番号 21　75 歳（平尾 女性）

■ 秋の終り頃になると友達と近くの山へ七夕薪かきに行った。　…番号 176　74 歳(辻ヶ下 女性)

■ 秋になると、山へマキやコノハを取りに行った。
…番号 105　66 歳（上仰木 女性）

■ 冬になると近所の子供や家の人と山に行って木の葉（松の葉）かき入れ作る。それは薪の左きつけの時使った。　…番号 126　75 歳(上仰木 女性)

焚きつけ

■ 秋になると松の葉が落ちるので山に行って拾いそれを焚きつけにしたものである。「おじいさんは山へ柴刈りに」ではなく、おじいさんもおばあさんも一緒が山へ行ったものである。
…番号 133　69 歳（上仰木 男性）

柴刈り（小学生の頃）

■ 山へシバ刈りによく行った。上級生が下級生の面倒を見て、シバも背中に背負わせてあげた。
…番号 9　64 歳（平尾 女性）

■ 子供でも山へ柴刈り行き、背中に負って持って帰り、たき木の足しにした。
…番号 78　67 歳（下仰木 男性）

■ 芝刈り、秋の収穫が終ると山へ芝刈りが始まる。山奥に炭き刺した芝を指った。帰り道およそ 300 m ほど段でひと休みする場所が伸し台ひきされていたので先頭が休むと後休む。10 人～ 15 人の芝刈りの一列縦隊であった。小学校高学年も土・日曜はこれに加わっていた。
…番号 114　81 歳（上仰木 男性）

■ 小学 5, 6 年生になると 2 つ 3 つ上の友達と「山行」と言って山へ柴刈りに行って、帰りに腰がへって動けなくなった。
…番号 72　83 歳（下仰木 男性）

枯木とり

■ 山で採ってきた枯れ枝で風呂を燃やしていた。
…番号 75　66 歳（下仰木 男性）

■ 昔は今のストーブがわりに山へ枯木とりに行って燃やしていた。…番号 117　71 歳（上仰木 男性）

■ 山へ焼ろいや、山菜取りなど先輩からいろんな知恵を教えてもらった。
…番号 23　72 歳（平尾 女性）

竹の皮拾い

■ 竹の皮拾い、茶草つみ。
…番号 53　67 歳（下仰木 男性）

■ 竹やぶで竹の皮拾い。
…番号 85　年齢未入力歳（上仰木 男性）

枝おろし

■ 立木を「枝おろし」と言って、立木にかれた枝があれば棹の先にカマをつけて枯れた枝を落として持って帰ったものである。
…番号 133　69 歳（上仰木 男性）

まき割り

■ 薪木割りの音。
…番号 11　70 歳（下仰木 男性）

■ どこの家もまきを割っている音がカンカンと聞こえていた。　…番号 89　69 歳（上仰木 女性）

■ 薪割りの音。…番号 109　73 歳（上仰木 男性）

■ 冬のマキ割の音。
…番号 126　75 歳（上仰木 女性）

■ マキ割りの音。
…番号 178　68 歳（辻ヶ下 男性）

木の匂い

■ 昔も今も匂いますが、他をカンナで削った木のにおい。　…番号 35　64 歳(下仰木 男性)

思い出（山仕事）

■ 綱が木伐を伐出していた。車ではなく荷車を引っぱるのは牛でした。牛の仕草の由声「オウ、シイツ」。そして坂道を帰って来るキーッというきびしいブレーキの音で今日も無事に帰って来てくれたと夕方ホッとする一刻でした。
…番号 34　74 歳（下仰木 女性）

その他

感覚

痛い

■ 今よりも寒かったため、耳や手足に霜やけができて痛かった。　…番号 27　63 歳（下仰木 女性）

■ 子供の頃は雪が良く降ってとても寒く、手や足に霜やけが出来た。
…番号 39　73 歳（下仰木 女性）

■ あぜ道も黒足で歩いて痛かった。
…番号 49　71 歳（下仰木 女性）

■ 冬のあかぎれの痛さ、手足の冷たさ。
…番号 50　64 歳（下仰木 男性）

■ あかぎれ、しもやけが痛かった。
…番号 53　67 歳（下仰木 男性）

■ 川の水で冬に洗い物をする事があって、手が冷たいのを通りこして痛かった。
…番号 67　61 歳（下仰木 女性）

■ 脚が霜やけだらけで歩くのがつらかった。
…番号 108　60 歳（上仰木 男性）

かゆい

■ 蚊に刺されたかゆさ。
…番号 50　64 歳（下仰木 男性）

あたたかい

■ わらの上に寝転がった時のあたたかさ。
…番号 33　60 歳（下仰木 男性）

痛気持ちいい

■ 子供の頃は、上田の川（大畑川の上流）の水に牛をつけると、寒でも冷たくて、手が痛かった。
…番号 170　65 歳（平尾 男性）

災害

地震

■ 釜で母が豆を炊いて居る時に地震があり、草津より実宅の自分の叔母にあたる人が片手に薪を持ち、もう片手に地下足袋を持って家内より出て狼狽えていた事が思り浮かびます。
…番号 81　83 歳（下仰木 男性）

自然災害、ゆとりのある社会

■ 戦後 60 年いろいろと変化がありました。余りにも頻の移り変わりの目がくるしい上に大変驚いている今日この頃、今後もどのように変わっていくかと不安でいっぱいです。神戸に続き、東北震災についても自然災害とは決めつけることができないと感じています。文明がすすむにつれて自らの自滅につながっていくように思う。例えば自動車社会－交通死者多発 / 薬漬－病 / 鉄道－スピードアップ－事故 / 食－多様化－病気多発、ゆとりある社会になることを願う。　…番号 109　73 歳(上仰木 男性)

今と昔

■ 昔の 1 俵の米を売るようにする労力は、現代と比べると、現在 30 俵の米をあつかう力が家だ。
…番号 72　83 歳（下仰木 男性）

■ 70 年百姓やってきました。大正昭和の初期に生まれたものは大損をしました。まだまだ昔のことを書きたいことがありますが文章では書き切れません。
…番号 72　83 歳(下仰木 男性)

■ ラジオから聞こえる「昔のいこい」のテーマソング、のどかなゆったりとした音楽が、今も忘れられない　…番号 13　年齢未記入（下仰木 女性）

■ 夜に車・バイクの音がひどくなってきた。
…番号 99　64 歳（上仰木 男性）

■ 自分人生 83 年間を一言では語りつくせないものがあります。　…番号 81　83 歳（下仰木 男性）

■ 今は便利なものに囲まれ、ものを使える易りかたさ、これが当たり前と思わず感謝して暮らします。
…番号 130　74 歳（上仰木 男性）

■ クラス一番の成績でも農業を守れと高校に進学せず就職せずアルバイトで良いと言われた。よく考えると昔は子どくさだった。
…番号 144　67 歳（上仰木 男性）

■ 昔はのんびりしていた。
…番号 6　年齢未入力歳（平尾 男性）

■ 春から冬まで楽にいる事は少なかった。
…番号 97　75 歳（上仰木 女性）

思い出

■ 子供の頃、ねる時間は自分流に作った子守唄で子を寝かせた。　…番号 38　74 歳（下仰木 男性）

■ このようなことを書くのは手前みそのようですが、私の得意はワラ扱いなど、何でも上言ってよいほど上手でした。
…番号 72　83 歳（下仰木 男性）

便所にはまった

■ 私は入口の便所を後ろにしてしゃがんだとたん、後ろへひっくり返り込んだ。上が明るいなら、とまで は今でも覚えてます。それより後のことはずーっと後で聞いた。母親が、家で カタカタという音がしたので、見んで表へ出て、便所をのぞいたらふくふくと泡が上って来たので、大声で「ただがはまりよった」と言ったら隣屋から お婆さんとしーつで飛んで来て、あげてくらったんじゃ。
…番号 72　83 歳（下仰木 男性）

戦争

■ 12 才ころより戦争がはじまり軍国主義の青年時代を過ぎ、兄、父の弟の 2 人は戦死し、村の捉を守り百姓一途にした。
…番号 72　83 歳（下仰木 男性）

■ 田は国とうて 草が取れず、着る物もなく、ろくな食う物がなかった。暑い暑い中に田で草取りを母親と 2 人で、でかい百姓をやってきました。「食うことにくを言うものなら兵隊さんのことを思え」とばかりで、口答えなどできませんでした。
…番号 72　83 歳（下仰木 男性）

■ 軍国主義の時代で男と女が近くになるようなことをもないし、恋愛もなし、嫁さんもらっても新婚旅行もなし、私らは生まれるのが早すぎて、60 代は早すぎ大失敗しました。
…番号 72　83 歳（下仰木 男性）

移動、運搬

■ にない棒で荷物を運んでいた。
…番号 67　61 歳（下仰木 女性）

■ 運搬するのは、金の鍋、ダイハチ車から飛行機のタマゴム車へと進歩した。
…番号 129　70 歳（上仰木 男性）

■ 自転車はもちろんなかったので 物を運ぶ荷車、牛にひかせたみま、車がないリヤーカーなどが生活の手段でした。
…番号 179　63 歳（辻ヶ下 女性）

江若鉄道

■ 江若鉄道の踏切を通過するときの警笛が耳に残っている。　…番号 5　75 歳（平尾 男性）

■ 江若鉄道の発車を知らせる笛（ホイッスル）が鳴った。　…番号 5　75 歳（平尾 男性）

農業アルバイト

■ 比叡山の北はずれ仰木峠から大原へ、その南横川をこえて八瀬へ歩いてこえて京都へ助りがけ 10 日間の農業アルバイトに出かけた。帰りは京都三条から浜大津へ、江若鉄道を乗琴へ、そして歩いて帰って来た。　…番号 144　67 歳(上仰木 男性)

温泉

■ 雄琴に近い田んぼでは何回となく湯がわいてきて温泉にといわれて調査されたことをよく覚えている。
…番号 86　67 歳（上仰木 男性）

ハイヤー

■ ハイヤーがくると何事と思った。
…番号 30　年齢未入力歳（下仰木 性別未記入）

仰木から堅田へ

■ 昔は仰木から堅田に行くのに歩いて 30 ～ 40 分かかって行った。その道中の川べりに樹齢の人が住んでいられた　とても怖かった。ビンクの壁の民家が見えるとやれやれと安心して、堅田まで行きました。
…番号 173　73 歳（下仰木 女性）

その他

■ 戦後は公民館と言うが、昔は堂と言いました。
…番号 72　83 歳（下仰木 男性）

■ 私は昭和の初めに生まれ百姓としては大きい方でした。
…番号 72　83 歳(下仰木 男性)

よくわからないこと

■ 24 時間交代制であったように思う。
…番号 92　70 歳（上仰木 男性）

■ 冷凍破損防止策？
…番号 92　70 歳（上仰木 男性）

■ その他にもも事は何か所かあり。
…番号 92　70 歳（上仰木 男性）

■ けむりが少し出て動き出す。
…番号 171　74 歳（平尾 女性）

■ 昔の人が使用した香水。
…番号 35　64 歳（下仰木 男性）

■ オコボ。
…番号 30　年齢未記入（下仰木 性別未記入）

■ コボコボと鈴の音も良い。
…番号 30　年齢未記入（下仰木 性別未記入）

■ 灯りみせに行った。
…番号 91　72 歳（上仰木 女性）

■ キュキュと言がした。
…番号 29　68 歳（下仰木 男性）

■ 雨ジョセン。
…番号 155　年齢未記入（上仰木 性別未記入）

■ ゴミ。
…番号 155　年齢未記入（上仰木 性別未記入）

三-五　カルタ読み札を決めるための聞き取り調査

三-五-一　あふれ出すたくさんの思い出と読み札の絞り込み

聞き取り調査は、二つの段階に分かれる。カルタ四八枚の読み札を決定するまでの「読み札を決めるための聞き取り調査」と、読み札が決定した後の「絵札原画制作のための聞き取り調査」である。

この章では「読み札を決めるための聞き取り調査」についてまとめる。

平成二三年（二〇一一）十月から、上仰木、辻ヶ下、平尾、下仰木の四地区ごとに老人クラブの方々にお集まりいただき、学生スタッフと共に仰木を訪問して聞き取り調査を進めた。十二名の学生を四地区の担当に分け、三名ずつのチームとした。実際には、可能な限り担当外の地区の聞き取りにも参加するようにした。

十二月までに各地区一～三回ずつ計八回の聞き取りを行った。会場は各地区の自治会館をお借りした。各回とも二時間程度という限られた時間で効率よく聞き取りをするため、地区ごとにテーマを絞った。「仰木ふるさとマンダラ」で作成した十二のカテゴリーを各地区に割り当て、該当する「仰木ふるさとマンダラ」を見ながらいろいろなお話を伺った。

ふるさと五感体験アンケートで集まった思い出は約一、八〇〇項目。それを分類するために読み取ったキーワードが四四〇。一方で、カルタの読み札は四八枚しかない。聞き取り調査で次々

写真14：仰木ふるさとマンダラを貼って聞き取りの準備中（辻ヶ下）

写真16：仰木ふるさとマンダラを読み上げながら聞き取り（下仰木）

写真15：趣旨説明や自己紹介をして聞き取りへ（下仰木）

写真17：同年代の人同士だとさらに盛り上がる（平尾）

によみがえり湧き出してくる膨大な思い出の中から四八枚の読み札をつくるために、「仰木ならでは」「これは外せない」という仰木ふるさとカルタの候補を絞る必要がある。「読み札を決めるための聞き取り調査」では、「仰木ふるさとマンダラ」を手がかりとして「ふるさとの記憶」を掘り起し、仰木のかつての生活文化を生き生きと浮き彫りにすることを大切にしながら、「読み札候補の絞り込みと、魅力的な絵にする手がかり」を最重要ポイントとした。

三-五-二　読み札を決めるための聞き取り調査の手順と実際

老人クラブのみなさんに聞き取り調査のご協力をお願いし、以下の日程で実施した。

上仰木　「冠婚葬祭、学校生活、遊び」　十月二九日、十一月五日
辻ヶ下　「食、衣」　十一月十九日
平　尾　「住、結・村組織・コミュニティー、風景」　十一月十三日、二〇日
下仰木　「生き物、田畑仕事、山仕事、その他」　十一月二〇日、二六日、二七日

それぞれの回に、六〇～九〇歳の男性と女性、五～十名の方にご参加いただき、以下のような手順で聞き取り調査を進めた。

1．事前に「仰木ふるさとマンダラ」をもとに学生が興味を持って「もっと深く、詳しく訊きたい」と思う内容を質問シート

写真18：グループに分かれて聞き取り（下仰木）

写真20：熱心にメモを取りながら話を聞く学生（辻ヶ下）

写真19：準備をしながら吊し柿のお話を聞く（上仰木）

写真21：聞き取りをしながら似顔絵スケッチをする学生

にまとめ、仰木の方の話を一方的に聞くだけではなく積極的に理解を深めていくようにした。

2. 当日、聞き取り会場の自治会館にて、学生スタッフで、机配置、お茶、お菓子、名札、資料などを準備。

3. 壁面に、該当する「仰木ふるさとマンダラ」（模造紙サイズ）を貼り出し、あわせてお手元にA3サイズにプリントしたものと「仰木ふるさと五感体験アンケートの仮冊子」を配布。

4. 研究員が司会を務め、初回は趣旨説明などのあと、「仰木ふるさとマンダラ」のキーワードや印象的なコメントを読み上げ、それをきっかけに仰木の方に思い出を語っていただく。学生スタッフと研究員が聞き取り役となり、仰木のかつての生活文化を掘り起こし、記録していく。

　時間が限られているため、後半はカテゴリーを手分けして研究スタッフ一、二名に対して、仰木の方二～四名という小グループで詳細を聞き取るなど工夫する。

5. すべてのキーワードの聞き取りの後、それぞれの地区の最終回に研究スタッフが印象的に感じた候補を提示し、仰木の方の意見を聞きながら「仰木ならでは」「これは外せない」という読み札候補をカテゴリーごとに五～八項目を目安に絞り込む。

6. 読み札候補について、その情景をより詳細に聞き取り、仰木の方と研究スタッフでイメージを共有する。

7. 大学に帰校後、聞き取った内容の整理と読み札候補について「魅力的な絵となり得るか」などの検討。

「仰木ふるさとマンダラ」の言葉はすべて、アンケートに記入された仰木の方々の言葉そのままである。五感に宿る思い出を綴った一つひとつの言葉やキーワードが、仰木の方々の記憶や感情を呼び覚まし、共有され、話題が広がっていく。最初は緊張気味でちょっと無愛想に見えたおじいちゃん、少しはにかんだような表情のおばあちゃんたちが、アンケートの言葉を読み上げるごとに、歓声にも似た相づちや笑いが起き、昨日のことのように事細かくお話をしてくださる。時に絵を描いて説明してくださったり、大切にしまっておかれた当時の野良着や使い込まれた道具をご持参くださったり、古いセピア調になった写真を見せてくださったりして、育った時代も環境も違う我々研究スタッフにもなつかしさと共にそういう時代に育まれた生活文化が今につながっているのだという確かな手応えが感じられ、心に響き、仰木の方々の思い出話に惹き込まれた。

　読み札候補を絞り込む様子の例として、上仰木の「冠婚葬祭」の時のメモを抜粋し、以下に示す。絞り込んでは新たに興味深い話が出てきて、話が尽きない。

「仰木祭（泥田祭）」…満仲さん。馬止め。仰木太鼓と雨。

「元三大師」…夜に松明を持って横川へ行く行列ができた。夜通し（オツウヤ）で盆踊りを踊った。松明は「コエマツ」という。

「地蔵盆」…子どもの祭で上仰木では個別にやっている。とう

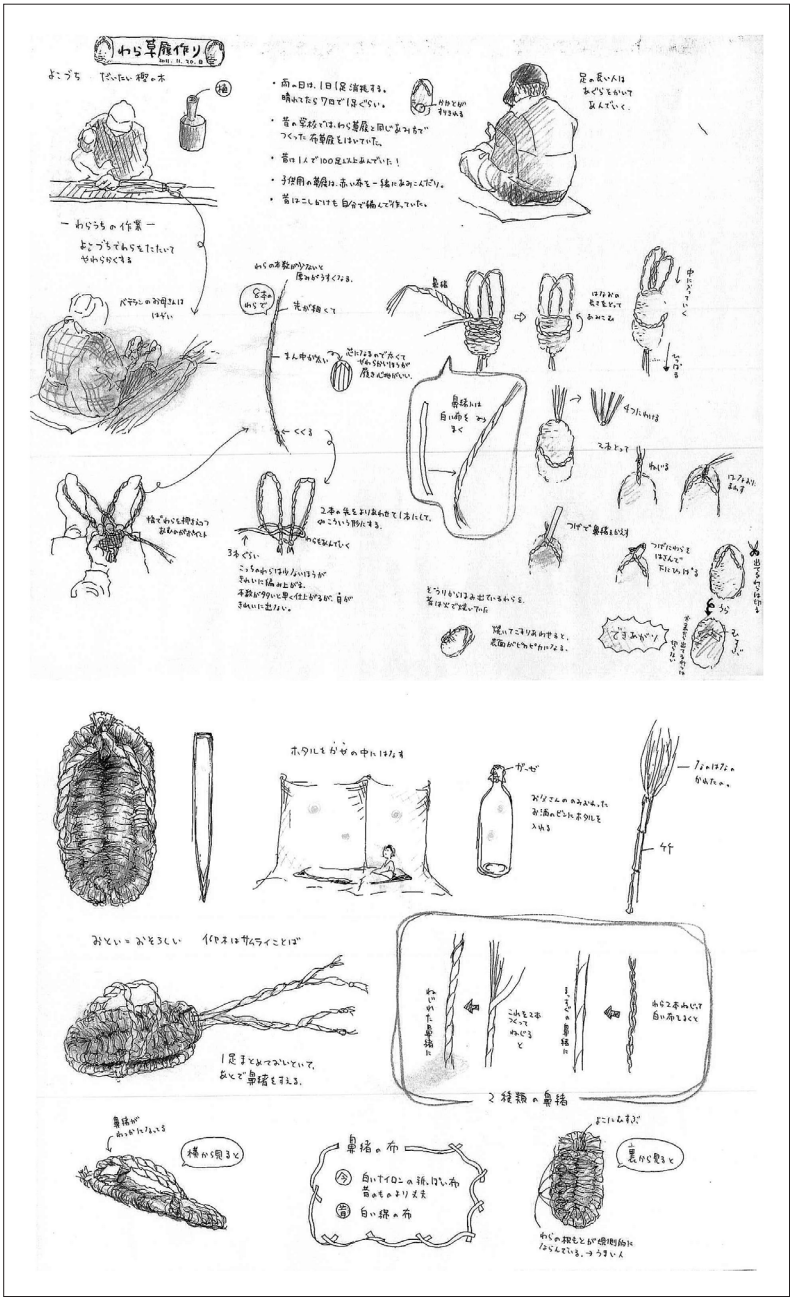

わら草履作り
2011.11.10.日
よこづち たたいた稲の木
槌
・雨の日は、1日1足 頑張れる。
晴れたら 7日で 1足ぐらい。
・昔の家族では、わら草履と同じ長さもので
つくった布草履をはいていた。
・昔は1人で100足以上あんでいた！
・子供用の草履は、赤い布を一緒にあみこんだり。
・昔はこしかけも自分で編んで作っていた。
カカとが
すりきれる
足の長い人は
あぐらをかいて
あんでいく。
— わらうちの作業 —
よこづちでわらをたたいて
やわらかくする
バケツ上のお母さんは
はだい
わらの本数が少ないと
作るのがすぐくる。
6本
わらで
先が細くて
まん中が太い
芯になるので太くて
ゴムのようにはりが
強くないといけない。
くくる
2本の先をより合わせて 1本にして
のこういう形にする。
3本ぐらい
こっちのくびれが 1つのほうが
きれいに編み上がる。
本数が多いと早く仕上がるが、首が
きれいに出ない。
槌でわらを押さえつつ
おじいさんがたたく
鼻緒
鼻緒は
白い布を
まく
ほねなの
先をたて
あみこむ
中にくくっていく
ヒップ
ぎゅっためれば
2本とって
ねじる
コブをよりあわす
つげで鼻緒をいれる
つげたにのびを
ほねなで
ひっぱっていく
出てるヒゲは切る
もうりがいっぱい出ているから、
首はなでて隠していた
ゆ
そ
ぐ
ゆ
そ
ぐ
ゆ
そ
ぐ

写真23：辻ヶ下聞き取り調査のスケッチメモ（作：小林佳紫）

写真24：大切にしまっておかれた野良着を着せてもらう（下仰木）

写真25：手ぬぐいのかぶり方（姉さんかぶり）を教えてもらう（下仰木）

写真26：俵編みの実演（下仰木）

写真27：俵編み機の実演（下仰木）

もろこし（なんば）を食べるのは下仰木だけで、上仰木にはない。地蔵盆の前にお地蔵さんを家に持ち帰って、身体をきれいに洗ってお化粧をして、またお祀りをする。お地蔵さんを動かしてはいけないが、この日だけ動かしてもいい。

「仰木踊り」…江州音頭で踊る。手を叩くところだけ合わせて、あとは自由にユラユラと。人によって踊りが違うので難しい。男踊りと女踊りがある。四つの地区で八月中、次々に盆踊りが行われた。下仰木の千日盆、上仰木の薬師盆、平尾の虚空蔵盆、辻ヶ下の地蔵盆や元三大師誕生会など。

「お葬式」…足袋はだし。親が亡くなったら、お嫁さんは足袋はだしで上仰木の墓地まで歩く。五〇年前くらいまでは山式のお葬式（お墓でお葬式）、土葬。山式のお葬式では「オンボ」（穴堀り、死骸を埋ける役目）がだいたい二人。お町内一人と親類一人。穴はかなり深く、一人では上がれないくらい。大変。山式から戻ったら「オンボ」が一番上座で飲み食い。墓が掘り返されないように竹囲いで囲った。

「結婚」…ヨメリミ（嫁入り見?）。顔見せ。荷出し、伊勢音頭が唄われた。「ハチワレ」、午後八時を道で聞いたらダメ、八割れで縁起が悪い。

聞き取りの間、ＩＣレコーダーで録音するが実際には声が錯綜しテープ起こしは難しく、研究スタッフのメモが重要な記録となる。簡単なイラストスケッチを描きながら絵と文字で記録していく学生も多く、メモを取りつつ話者の似顔絵を描いたり、まさに芸術大学で学んでいる特技を活かした手法で見応えのある記録を残した。後半の絵札原画制作の準備ができていく。

三―五―三　実体験をともなった聞き取り調査、中間報告の展覧会、ワークショップ

今回の聞き取り調査では、単にお話を聞くだけではなくいろいろな実体験をさせていただいたことが大きな特徴の一つと言える。聞き取り会場でむかしの野良着などを着せていただいたり、手ぬぐいのかぶり方（姉さんかぶり）を教わったり、俵編み機の実演を見せていただいたり、仰木の方々のご厚意によるものである。また、納豆餅、干し柿、蜂の子ごはんなども食べさせていただいた。「五感体験アンケート」からスタートした調査・研究だが、我々研究スタッフも五感で仰木を体験し、つながっていくことができた。

また、聞き取り調査と並行してここまでの活動の中間報告として展覧会を開催し、その関連イベントで仰木の食のワークショップを実施した。これらの取り組みで、仰木をより身近に感じ、思い出の中のかつての仰木が今の仰木の生活文化の中に確かに息づいているつながりを実感した。

以下に主な取り組みを挙げる。それぞれの機会に幅広く聞き取りも進め、充実した成果となった。

1. 成安造形大学附属近江学研究所企画展覧会「仰木　水と記憶のコスモロジー」

会期：平成二三年十月二三日～十一月二七日

会場：成安造形大学【キャンパスが美術館】ライトギャラリー

概要：附属近江学研究所と地蔵プロジェクト（註3）のそれぞれが、水・記憶・音をテーマに、滋賀県大津市仰木で取り組んできたフィールドワークと聞き取り調査に基づく三つの研究成果の一端を発表した展覧会。「水と暮らし」（里山～水と暮らし第一期の報告）、「里人の記憶」（第二期として本研究の中間報告）、「音のコスモロジー」（地蔵プロジェクトによる二〇一〇年度近江学研究所助成事業「仰木サウンドアーカイブ・プロジェクト」の報告）の三つのスペースで構成され、仰木の方が唄う江州音頭などを聴くことができる会場で、五感体験アンケートから選んだ約七〇〇項目の思い出をカルタの読み札仕様にしたものと映像で、里人の記憶を展示した。（写真28～32）

主催：成安造形大学

企画：成安造形大学附属近江学研究所

ディレクション・展示技術協力：成安造形大学情報メディアセンター

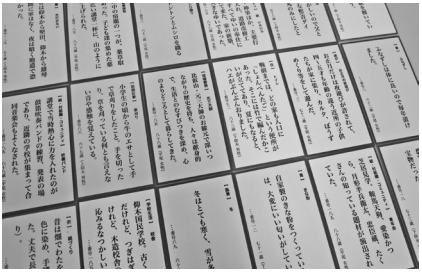


写真31：カテゴリーで色分けし、読み札を模した五感体験アンケートからのコメントカード

写真32：五感体験アンケートから抽出した言葉を映像で表現した

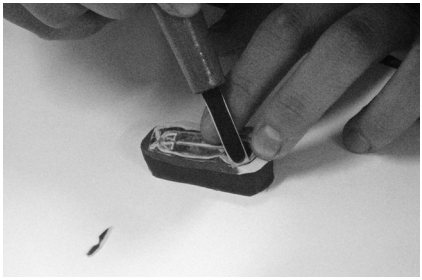


写真28：カテゴリーのシンボルマークを消しゴムハンコで作成

写真29：読み札仕様の五感体験アンケートコメントカードを作成

写真30：畳に座ってコメントカードを味わっていただくコーナーを設けた

2. 仰木のくらしワークショップ『食』

日時：平成二三年十一月十二日

会場：成安造形大学【キャンパスが美術館】ライトギャラリー

概要：本研究の公開ワークショップ。学生たちが仰木の方々と一緒に仰木の「食文化」の魅力

写真34：食のワークショップにて仰木の食について聞き取り

写真35：五感体験アンケートで興味深いと感じた内容を掘り下げる

写真33：食のワークショップで仰木物産市「仰木ふれあい青空市」を開催。地元の新鮮な野菜などを販売していただいた

写真37：食のワークショップにてつきたてのお餅に納豆をはさみ納豆餅をつくる

写真36：食のワークショップにて納豆餅づくりのために餅つき

を探った。仰木物産市「仰木ふれあい青空市」、仰木独自の食文化である「納豆餅づくり」、「食文化の聞き取り調査」を前述の「仰木　水と記憶のコスモロジー」展の関連企画として開催。（写真33～38）

写真38：食のワークショップにて納豆餅をわらを使って切る

3．わら草履づくり

日時：平成二三年十一月二〇日

概要：下仰木自治会館で仰木祭に使用するわら草履づくりが行われ、学生スタッフもわら草履づくりを体験。（写真39～41）

写真39：仰木祭のためのわら草履づくりに飛び入り参加。親切に教えていただき学生も何とかつくれた

写真40：わら草履づくりの手順をスケッチしながら聞き取り。見事な手さばき、足さばきでわら草履ができていく

写真41：11月につくったわら草履が来年の５月３日の仰木祭で履かれる

4. 手づくり味噌づくり

日時：平成二四年三月三日

概要：ＪＡ堅田中央支店で、仰木の方にご指導いただいて仰木の材料でつくる手づくり味噌づくりを体験。（写真42～43）

写真42：仰木の素材で手づくり味噌づくりを教えていただく。大豆は事前に炊いておいてくださった

写真43：麹をまぜる。３月に桶で仕込み10月に美味しい手づくり味噌ができあがった

5. 京都新聞夕刊「@キャンパス」に「次世代へ　結の心をつなぐ」の記事掲載

概要：「@キャンパス」とは、夕刊の二面見開きを各大学の学生が取材・構成・執筆するという企画。平成二四年一月から京都新聞の記者の指導のもと、本研究の聞き取り調査で出会った仰木の魅力を「つながり」をキーワードに紙面企画・構成を始め、五月二日に記事が掲載された。仰木地区では普段、夕刊は配達されないそうだが、三日の朝刊と一緒に配達された。五月三日は仰木祭の当日である。（写真44～46）

写真44：新聞記事「@キャンパス」の打合せ。仰木での聞き取りをもとに「結」をテーマとした記事にまとめる

写真45：新聞記事「@キャンパス」の編集作業。人のぬくもりを伝えるイラストをたくさん使うことに

写真46：京都新聞「@キャンパス」の掲載記事

前編の結び

本稿は、前編としてひとまずここで終える。後編では、「読み札決定」から「絵札原画制作のための聞き取り調査」、「絵札原画制作と仰木ふるさとカルタの完成」とあわせて、教育活動としての側面を学生スタッフの声をまじえて報告し、また、「仰木ふるさとカルタ」の活用についても触れたいと思っている。

謝　辞

本学近江学研究所研究員の大原歩氏と加藤賢治氏が、本研究の共同研究者である。大原歩氏は、学生の頃より仰木をフィールドとした「地蔵プロジェクト」という研究チームで活動し、仰木支所に勤めていた経験もあり、本研究において大学と仰木をつなぐ重要な役割を担っていただいた。また、学生への指導、研究活動のサポート、研究の記録（録音、撮影）等、本研究を推進する上で欠かせない存在であった。加藤賢治氏は、「仰木・堅田の祭礼」を研究してこられ、特に上仰木での調査に多大なご助力をいただいた。そして、何より、仰木在住のたくさんの方々のご協力なくして、本研究の取り組みはあり得ない。聞き取り調査にご出席いただいた仰木学区老人クラブ連合会の方々、わら草履づくりや納豆餅、手づくり味噌などをご指導いただいた方々、後編で報告する読み札を一緒に推敲してくださった仰

木の俳句の会「畦草会」の方々など、総勢五〇名以上に及ぶ方々が学生と温かく接してくださり、多大なご協力をいただいた。他にも一八五通のアンケートを記入してくださった方々や仰木で出会った多くの方々に、ふるさとカルタへの期待と励ましの応援をたくさんいただいた。ここに感謝の意を表する。

学生スタッフ（敬称略）

梅下菜々美、益友花子、兼森絢子、日下部まこ、小池由華、後藤美子、小林佳紫、鈴木沙季、関戸望、長野明代、永禮尊大、宮本暖子　以上十二名が学生スタッフとして研究を支えた。あわせて、感謝の意を表する。

註

1. 自然写真家として世界的に活躍する今森光彦氏の映像を交えて、琵琶湖畔の里山の人々と自然が共存する姿をハイビジョン撮影で一年間定点取材、詩情豊かに綴った映像。仰木地区の棚田が主要な舞台となっている。一九九九年放送。
2. 五感体験アンケートは、上田洋平氏（滋賀県立大学教育共生センター助教、心象図法の提唱者）の考案。
3. 地蔵プロジェクトとは、二〇〇〇年、成安造形大学生による仰木地域のフィールドワークを実施するプロジェクトとして発足。大学の公式プロジェクトとしての活動が終了した後、二〇〇三年から現メンバーを中心とする有志により独自の活動を継続。地域と関わりながらさまざまな記録調査や企画を展開中。本研究の共同研究者である大原歩氏は、そのメンバーのひとり。

成安造形大学附属近江学研究所紀要　第３号

発行日　平成26年３月24日

発　行　学校法人京都成安学園　成安造形大学　附属近江学研究所
〒520-0248　滋賀県大津市仰木の里東４-３-１
電話　077-574-2118

発行者　木村 至宏

編　集　成安造形大学附属近江学研究所

印刷所　宮川印刷株式会社

©Seian University of Art and Design 2014

ISSN 2186-6937